

平成 27 年度第 4 回山武市総合教育会議

日時 平成 28 年 3 月 10 日 (木)

午後 2 時～

場所 市役所 新館 第 5 会議室

1 開 会

2 市長あいさつ

3 教育委員長あいさつ

4 議 事

(1) 山武市立小中学校の規模適正化・適正配置について

- ①基本計画（案）に関する「意見を聞く会」の開催結果について
- ②今後の進め方・考え方について

(2) 山武市教育振興基本計画の改訂等について

- ①山武市教育大綱を踏まえての改訂内容について
- ②これからの中武市教育の取り組みについて

(3) その他

平成 28 年度の予定について

5 その他の議題

6 閉 会

（第 4 回会議資料）

第一回

（第 4 回会議資料）山武市総合教育会議（第 1 回）

（第 4 回会議資料）山武市総合教育会議（第 1 回）

第 4 回山武市総合教育会議

（会議資料）（第 4 回会議資料）

（第 4 回会議資料）山武市総合教育会議（第 1 回）

新規則

（第 4 回会議資料）山武市総合教育会議（第 1 回）

（第 4 回会議資料）山武市総合教育会議（第 1 回）

（第 4 回会議資料）山武市総合教育会議（第 1 回）

平成 28 年 3 月 10 日

（第 5 会議室）

目次

※次第1～3（略）

4 議 事

(1) 山武市立小中学校の規模適正化・適正配置について【資料1】	1
①基本計画（案）に関する「意見を聞く会」の開催結果について	1

※別紙資料

- ①山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（案）に関する「意見を聞く会」の概要
- ②基本計画（案）に関するアンケート集計結果（単純集計）
- ③山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（案）についてのパブリックコメント手続き結果

②今後の進め方・考え方について	5
【参考】山武市立小中学校の規模適正化・適正配置に関するスケジュール（案）	7

(2) 山武市教育振興基本計画の改訂等について【資料2】	8
------------------------------	---

①山武市教育大綱を踏まえての改訂等について	8
-----------------------	---

※別紙資料

- ④山武市教育振興基本計画の主な改訂箇所（平成28年3月改訂）

②これからの山武市教育の取り組みについて	9
----------------------	---

(3) その他：平成28年度：総合教育会議年間スケジュール（案）【資料3】	11
---------------------------------------	----

【資料1】

(1) 山武市立小中学校の規模適正化・適正配置について

①基本計画(案)に関する「意見を聴く会」の開催結果について

「基本計画(案)の策定に伴い、多くの市民から意見を聴取するため、2月6日(土)、7日(日)、2月21日(日)の3日間の日程で「意見を聴く会」を開催しました。参加者数は、全体(4地域6中学校)で133人と少なく、非常に残念な結果となりました。また、意見内容については、市の施策に関すること、学校教育に関する意見・質問が多く、基本計画(案)についてのことは、アンケート結果から見ても、一部の中学校区を除いてはある程度理解されていたように感じられました。今後、計画を推進するうえでは、さらに市長部局と教育委員会が連携を図り、その方向性や計画の進め方等について共通理解のもと進めていく必要があります。

i.) 「意見を聴く会」開催結果

■参加者

開催日時		場所	人数
2月 6日 (土)	午前 10時～	山武中学校区	(16人)
	午後 2時～	山武南中学校区	(20人)
2月 7日 (日)	午前 10時～	成東中学校区	(24人)
	午後 2時～	成東東中学校区	(18人)
2月 21日 (日)	午前 10時～	松尾中学校区	(24人)
	午後 2時～	蓮沼中学校区	(31人)
			合計 133人

※基本方針(H27. 3)

〈16人〉

〈32人〉

〈15人〉

〈16人〉

〈34人〉

〈33人〉

合計 146人

■「意見を聴く会」の概要：別紙

ii) 各中学校区での主な意見（全体概要は別紙）

- 【山武中学校区：2／6】
- 説明会は今後も計画されているのか。若い方、保護者の方が少ないので、そういう方たちが参加しやすいような雰囲気づくり、努力が必要ではないか。
 - 人口減少防止策は必要だが、統廃合により学校が少なくなれば、山武市に住む魅力がなくなり人口も減ってしまうような気がする。人口減少防止策と統廃合の整合性？
 - 統合を実施するにあたり、ハード部分（設備、備品等）・ソフト部分（教育方針、教員数等）について具体的に検討されたか。
 - 学校統合について、新市建設計画、山武市まち・ひと・しごと創生総合戦略や教育振興基本計画等々の関連はどのようにになっているのか。
 - 日本全体の人口が減って少子化だと言っているが、増えている市町村もある。また、統合しないところの学校の方が、成績があがっているというデータもあるが、その辺についていかがか。
 - 10年先、20年先、児童生徒数が減ってくるのであれば、今の学区を見直して、山武市の中でもっと大きな学区でより良い環境の中で教育ができる形を考えた方がいいのでは。

【山武南中学校区：2／6】

- 山武市教育の方向性について、説明で新たな学びのスタイルへということで、何点か掲げられているが、これは今回改めて説明するものなのか、今回から新たに始めることなのか伺いたい。また、これから山武市教育の取り組みで、将来を見据え、新たな取り組み、今後の重点としてあがっている各項目について、いつの年齢から取り組むのか、具体的な全体像があれば伺いたい。
- 統合後の学校位置について、きれいな学校（山武西小）、改修したばかりの体育館（日向小）があるのになぜ山武南中なのか。スクールバスを使用できれば、真ん中になくてもいいのでは。
- グローバル化教育を掲げているなか、英語を指導する場合、小学校の先生方は英検を何級もっている方がどれくらいいるのか。また、国際交流でスリランカ、ニュージーランド、韓国との交流状況については。
- 統廃合は児童生徒数の減少、少子化が原因。その背景には、そのまちの発展性が将来どうなっていくのかが大きな課題であると思う。山武市は首都圏も近く、空港も近い、一番恵まれた環境にあるため、近隣の各都市と連携していけば活力のあるまちに育っていく。そういう取り組みなど、市民が関心をもつようなプロジェクトの推進、考えが行政にあるのか。

【成東中学校区：2／7】

- 統合案がどの程度財政負担となっているか。
- リーフレットに書かれている成東中と成東東中の統合は決定事項なのか。決定事項であるならば、統合までにあと7年くらいあるので、昨年も話させていただいたが、成東中の老朽化に伴う環境整備（トイレ等）について教えていただきたい。
- 統合の組み合わせより、通学距離が短かった場合等、組み合わせ以外の学校に行くことは可能か。その場合、どのような対応をとるのか。
- 統合には子どもも含めて賛成と言っている。ただ、学校を卒業して母校がないところに、例えば県外に出ている子どもたちが山武市に帰ってくるのか。地元に残りたい、戻りたいという意識が薄くなるということは言っていた。
- 統合のタイミング、学年によっては過ごす期間が短いので、仲良く卒業できるようにお願いしたい。
- 財政的な面、この計画（案）についてはある程度わかった。その中で、通学距離について最大ではどれくらいの通学距離があるのか。防災面で、成東中が成東東中に行った場合、津波とかそういう影響はどう考えているのか。
- 今、成田空港の第3滑走路の件で、有志の会が作られており、空港をとりまく各市町のうち山武市以外はみんな参加している。そこで、3本目の滑走路について検討され案を出し、その案が受け入れられている。なぜ、その有志の会に我々の中から参加できないのか。また、このあいだ4者会議が開かれたと思う。山武市は中野副市長が参加されていたが、他の自治体は全部首長が参加している。市はちゃんと働きかけはしているのか。
- 参加者が少ない状況に対してのやり方に関する意見。（同様2件）

【成東東中学校区：2／7】

- 学級数について25人～35人の考え方について、国からの教育制度をそのまま受けているのか、山武市としてそれが妥当なのかどういう検討はどういうふうにされたのか。
- 参加者が少ない状況から、多くの人に集まってもらって、もっと深めた検討がされた方がいいのでは。
- 小学校の統合で、南郷・縁海・鳴浜は38年度以降となっている。38年度までは統合がないのか。また、統合する場合、学校の位置は成東東中が成東中の方に行って、成東東中の校舎を小学校3校が使うような話を聞いていたが、それはどうなのか。
- 統合することによって、おそらく子どもたちはいろいろな面でショックを受けたり、戸惑うことがあると思う。中学校3年生は進学（受験）もある。どのような対応を考えているのか。スムーズに統合するには、どのような方策を考えているのか。
(他、地域性に伴う統合に関する指摘：1件)
- 土曜、日曜等、社会人が部活動なり指導する場合、市の補助金はでるのか。
- 説明会の会場に肝心の先生方の姿が見えないし、声が聞こえない。この計画（案）を作る際に学校の先生方が参画して意見を取り入れたりしたのか、伺いたい。
- 市の理想とする教育の実現のためには、適正化が必要だということは理解した。お願いであるが、子どもたちが山武市を愛して地域に貢献したいという意識を持たせることが必要。この部分は教育に期待する部分が大きい。山武市に根付いてもらう、山武市を愛してもらう、一生ここで暮らしていくという山武市独自の施策をぜひ柱に盛り込んでいただきたい。各学校で実現していただきたい。また、教育委員会制度も変わり、市長の意見が教育に反映されることになったので、市の将来展望を踏まえ、教育に対してビジョンを示していただけたらと思う。
- 行政組織について、子育て支援にかかわることについて、福祉部局と教育部局にわかかれている。例えば窓口業務で継続性、一貫性、あるいは一体化ということで、それぞれ分掌があることは理解できるが、そのあたりの整理についてはぜひ考えていただきたい。

【松尾中学校区：2／21】

- 松尾小と豊岡小の統合後、松尾小の新校舎建て替えに伴い平成31年から平成33年の間、松尾中の新校舎建て替えに伴い松尾中に入る。平成32年には蓮沼中との統合により、人数がさらに増えることになり、課題が多いのでは。中学校の統合を遅らせる考えはないか。
- 豊岡小の統合後の跡地利用でまつおこども園になるということで、園児数と施設の収容人数の関係はどうか。
- グローバル人材を育てるということでは英検4級は低いのでは。その前に日本人であるための国語能力を身に付けることが必要ではないか。
- グローバル化に対応する人材の育成も必要だが、教える人の人材の育成も必要ではないか。
- 学級編成で1学年1学級ではなく、できるだけ少人数の学級をつぐうっていただけないか。
- 学力の充実が大前提だが、部活動の活性化は学校経営の中ですごく大きな役割をしている。
- 学校を預かる校長としては、一人でも多くの教員が必要。教員の数は学級数により決められるので、ある程度の規模、学級数が欲しい。教員が増えることによって、きめ細やかな指導がいろいろなところで出てくる。統合を推進しています。

【蓮沼中学校区：2／21】

- 松尾中に松尾小の仮設校舎がある時に蓮沼中が統合する形になっている。部活動も含め、小学校と中学校の体育館の利用はどのような使い方になるのか。中学校だけで体育館を確保できるようになってからの統合は考えないか。その3年間にあたった子どもたちがかわいそう。松尾中に男子バレー部がない、蓮沼中には男子バレー部がある、統合後はどうなるのか。
- スクールバスの運行回数で、登校時1回、下校時2回の考え方。
- このような意見交換をやっても本当の意見は集まらない。影響を受ける各年代の人たちの意見をちゃんと拾っていただきたい。(住民投票など同様1件)
- 根本的に学校教育問題うんぬんというよりも、この地区に若い夫婦、子どもが増える施策をしないで、どうやって山武市は戦っていくのか、それが全然見えない。もっと市民を巻き込んで真剣に考えていかないとこのままでは千葉県内でも一番だめな市になってしまふ。
- 統合は結局財政の問題。統合して学校数が減ったら、ますます人がいなくなる。それで人口を増やそうというのはおかしい。なんで子どもたちが市の財政の犠牲にならなければいけないのか。特に蓮沼は道の駅もあって、山武市の中ではかなり優秀な観光地域だと思う。地域の良さを伸ばす施策はできないのか。
- 松尾洗心館、山武医療センターの建て替えの必要性。財政の合理化が図られるのでは。
- パンフレットの計画が案なのか決定事項なのか、先のことを考えていった時にどうしたらいいのか訳がわからなくなつた。わかりやすいパンフレットの作り方を考えてもらえないか。
- 蓮沼から松尾に通学する時、空港道路を使うことになるので心配、民家がある方が安全ではないかと思う。
- 参加者（若い年代）の少なさに愕然とした。周知されてこういうことなら、単純に住民に関心がないということだと思う。案については、よく考えられた案だと個人的に思う。理想を言えば蓮沼に住んでいる人が増えて、蓮沼の学校がそのままあって、みんなそこに行ければそれが一番いいと思うのですが、現状を考えたら統廃合は仕方ないのかなと思う。

- iii) 当日参加者アンケート結果（参加者133人 回答者：62人）
- 基本計画（案）に関する市民等の考え方・意見等を把握するために「意見を聴く会」に参加された方にアンケート調査を実施しました。
- 調査項目は、『基本計画（案）の内容についてどう思われたか』という質問と、『統合を進めるうえで特に配慮を要することは』といった2項目について調査を行い、結果は前段の質問に対しては、『理解できた。51.6%』で回答者の半分以上の方が計画内容について理解されているといった状況になっています。逆に『理解できない。』と回答された方は17.7%でしたが、『理解できた。』と回答された方の中でも『計画には理解できたが反対である。』といった回答、また自由意見からも厳しい反対意見も記載されている地域もありました。後段の質問についての回答は、『児童生徒の通学手段』が24.8%で最も多く、次いで『児童生徒の教育活動』が21.2%でした。いずれにしても、全体的に参加者数が少なかったことから、アンケート結果だけで判断することは難しいと考えますが、地域の意見という見方では地域差も出ており、今後の進めいくにあたっての判断基準のひとつとして活用できる結果になったと分析します。
- 「意見を聴く会」当日アンケート結果：別紙

②今後の進め方・考え方について

基本計画（案）に関する「意見を聞く会」での参加者は少なかったが、ある程度の地域ごとの考え方は伺えたのではないかと思えます。しかしながら、地域によっては計画に対してまだ理解を得るために対応が必要な地域もありました。また、当日行ったアンケート結果やパブリックコメントの意見のほか、議会第1回定例会においては多くの議員から統廃合（計画）について的一般質問があり、統廃合に関する質問・意見内容がより具体的なものになってきました。

こうした状況を踏まえ、基本計画を進めていくにあたり、市長部局と教育委員会が連携・共通理解を図り、今後の進め方・考え方についてまとめる必要があると考えます。

〈教育委員会第2回協議結果及び総合教育会議での協議〉

○ 各中学校区での反応（分析）等を踏まえた今後の進め方について

※教育委員会協議会結果

基本的には、今の計画を崩さずにできるところから進めていくこととする。そのために、前期計画に統合予定の学校に対して、PTA総会などに合わせて説明会を開催し、多くの方に計画を理解していただけるように努め、なるべく早めに計画を成案にできるよう進める。その場合、理解の得られないところについては、成案後も引き続き理解が得られるよう説明をしていくこととする。

※総合教育会議：教育委員会の考え方を踏まえての市としての方向性・進め方

○ 松尾小校舎建て替えに伴う仮設校舎の位置について

松尾小と豊岡小の統合で、松尾小の建て替えに伴い仮設校舎を松尾中学校に建設する案に関して、市長部局（財政課）との協議で、財政上、建設費を抑えるために松尾中の敷地内に建設する予定になっているが、児童生徒の不安によるストレスや負担、学校運営上の課題等、統合前の教育環境の考え方についても再度協議する必要があると考えます。（※松尾・蓮沼の2会場から意見あり）

※教育委員会協議会結果

松尾小と豊岡小の統合による松尾中への移転時期と蓮沼中と松尾中の統合時期が被らないように検討する余地はある。今後、学校生活における場所の確保・調整について洗い出しをし、検討を進める。なお、仮設校舎の建設場所については、計画どおり松尾中の敷地内として進めていくこととする。

※総合教育会議：教育委員会の考え方を踏まえての市としての方向性・進め方

〈その他の教育委員会協議会結果〉

- 「意見を聴く会」の参加者状況をどう捉え、どう判断するか。

※どの会場でも参加者の少ないと指摘されている。

【参考】

※周知関係

■保護者：基本計画（案）リーフレット、開催案内

（・こども園、幼稚園、保育園（家庭数：1,020）・小、中学校（家庭数：2,992））

■一般市民：基本計画（案）リーフレット、開催案内（全戸配布：16,499世帯）

■市広報2月号、教育委員会広報「懸け橋」2月1日発行、市ホームページ、防災行政無線

※教育委員会協議会結果

参加者が少なかったことは残念だったが、当日、参加されてない方々からも肯定的な意見も伺っている。いずれにしても、多くの方が参加できるよう説明会の日程調整を図り、多くの方々から理解が得られるよう取り組んでいくこととする。

- 今後における説明会やアンケート調査の実施について（各会場で意見あり）

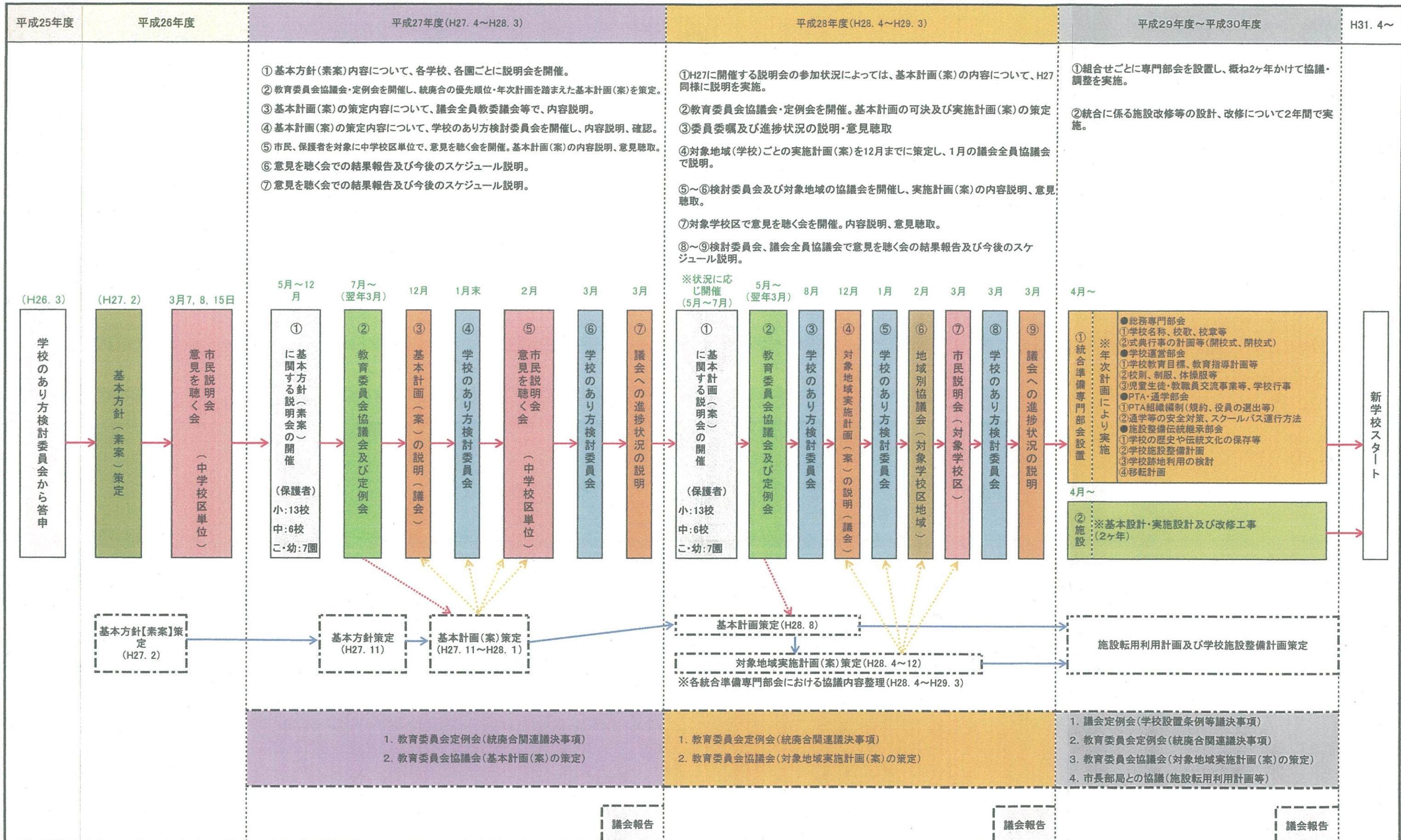
※教育委員会協議会結果

説明会は、前期計画に統合予定の学校に対して、年度が明けてから早い段階で実施する。

アンケートは、子どもたちの希望や不安等を把握し、よりよい環境づくりのために、統合準備専門部会で内容、対象者（学年等）、実施時期など検討し、実施していく。

- 今回、開催した「意見を聴く会」での当日の意見やアンケートにあった市の施策（山武市まち・ひと・しごと創生総合戦略、人口問題、子育て関係等）について、市長部局が今後どのように推進していくのか、また、教育委員会とどのように連携していくのか、協議・調整する必要があると考えます。

山武市立小中学校の規模適正化・適正配置に関するスケジュール(案)



【資料2】

金匱要略

(2) 山武市教育振興基本計画の改訂等について

①山武市教育大綱を踏まえての改訂内容について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、平成27年4月1日から新しい教育委員会制度が施行されました。この法改正に基づき、本市では平成27年7月1日に山武市総合教育会議を設置し、同年9月16日に開催した第2回山武市総合教育会議において、本市としての教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の「山武市教育大綱」を策定しました。

この大綱は、教育委員会が策定している山武市教育振興基本計画をベースに、市としてこれからまちづくりを示す地方創生総合戦略を踏まえ、「グローバルな人材の育成」を重要な方向性として位置づけました。こうしたことから、今回の山武市教育振興基本計画の見直しにあたっては、大綱の目標4に掲げられている“グローバル社会で活躍できる人づくり”を基本目標に加え改訂を予定し、各施策・各事業の目標達成に向け取り組んでいくこととします。

■主な改訂箇所：別冊

②山武市教育振興基本計画改定スケジュール

日 程	内 容
平成 27 年 12 月～	見直し作業：所管課
平成 28 年 2 月 17 日	平成 28 年教育委員会第 2 回定例会協議第 2 号：改訂内容について協議
平成 28 年 3 月 10 日	平成 27 年度第 4 回山武市総合教育会議：議事案件（改訂内容説明）
平成 28 年 3 月 17 日	平成 28 年教育委員会第 3 回定例会：議案提出 ※可決後公表

②これからの山武市教育の取り組みについて

（改訂版）

◆教育理念

～学びの感動と他人を思いやる心を育み、未来をたくましく切り拓く自立した人づくり～

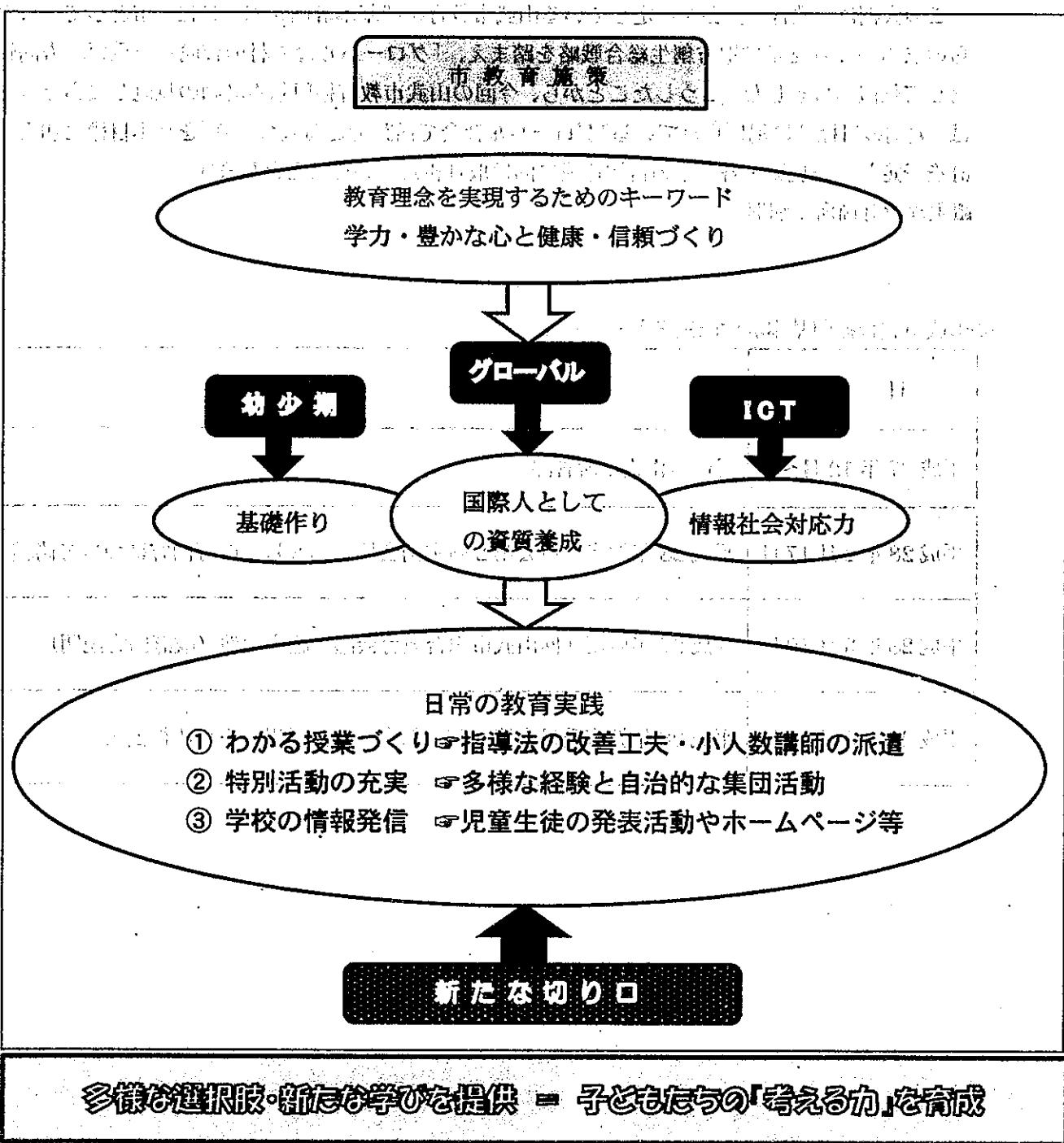
（改訂版）

◆実現の方向性：「グローバル化社会」「多様な価値観が存在する社会」「家庭教育差解消」

（改訂版）これらを生き抜く力の育成に向け、重点的な教育の展開

◆具体的な施策：幼少期教育の充実 グローバル教育推進 ICT教育の充実

（改訂版）授業改善・特別活動における選択肢増・情報発信へ



※多様な選択肢：学年・学級活動・校外行事プログラム、委員会活動・部活動

※新たな学び：アクティブラーニング（主体的に考える学習スタイル）

～社会性と変化に対応できる「考える力」を育成するために～

1 幼少期教育の充実（基礎づくり・連携）

⇒学びの意欲を高めるため

ア) 幼小中一貫した学習習慣づくり（聞く姿勢など）

イ) 道徳性を重視した生活習慣づくり（遊びや道徳教育をとおして）

～いじめ防止にむけた人間関係づくりにつながる～

ウ) 学習内容の一貫性（英語教育 ALT の活用）

2 グローバル社会に対応できる人材育成

⇒英語教育の充実

ア) 異文化理解教育の実施（全小学校低学年・高学年、全中学校）

イ) 英語力アップ講座（中学校で2回実施）・英語検定受験機会の提供（検定料の補助）

⇒自国文化等の理解

ア) 読書活動の充実（朝読書の充実）

イ) 日本文化の学習機会の提供（地域人材の派遣等）

⇒表現力・達成感そして郷土愛育成

ア) 集団活動の充実（児童会・生徒会活動等をとおして）

イ) アクティブメニュー（市内小中共通ダンスの実施）

⇒特別支援教育の充実

ア) 教育支援員の複数配置（個別のニーズ対応）

イ) 多様な価値観の習得（大人の関わりの姿を提供）

3 ICT社会における情報活用能力の養成

⇒情報収集、処理、活用能力の育成

ア) タブレット等に活用によるICT機器活用の習得（全児童生徒）

イ) 道徳等による情報モラル教育（スマホ・インターネット対策）

子どもたちの学びを広げ

～多くの意見を聞き、自分の意見を言えること～

～自分とは違う価値を知り、自分自身を深く理解すること～

そんな子どもの姿をめざします。

【資料3】

(3) その他

■平成28年度：総合教育会議年間スケジュール（案）

開催時期	議事内容
7月頃	・山武市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る各事業の推進と連携について ・教育関連施設の効率的な管理及び効果的な活用について
9月頃	・平成29年度教育予算教育について（重要施策等）
臨時	・児童生徒の生命、身体の保護等緊急の場合に講すべき施策

※平成28年度についても、小中学校の統廃合の課題があるため、年3～4回程度を予定。

小中学校の規模適正化・適正配置基本計画(案)に関する「意見を聞く会」の概要

【2月6日（土）】

- | | |
|---------------|-----|
| ○山武中学校区----- | 1 |
| ○山武南中学校区----- | 1 1 |

【2月7日（日）】

- | | |
|---------------|-----|
| ○成東中学校区----- | 2 0 |
| ○成東東中学校区----- | 3 3 |

【2月21日（日）】

- | | |
|--------------|-----|
| ○松尾中学校区----- | 4 4 |
| ○蓮沼中学校区----- | 5 4 |

山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（案）に関する「意見を聴く会」の概要

期 日：平成 28 年 2 月 6 日 午前 10 時～

場 所：山武中学校体育館

対 象：山武中学校区

参加者：16 名

○市長あいさつ

皆様おはようございます。本日はお休みのところお集まりいただきありがとうございます。ただ今、司会のほうから説明があったように、今日の主題は学校の統合問題、規模の適正化の計画を皆様方にご説明をさせていただく機会を与えていただいたということで、大変感謝申し上げたいと思います。

ただ、それだけではなく、説明の中に山武市まち・ひと・しごと創生総合戦略、いわゆる、地方創生の取り組みについてご説明させていただき、併せて、山武市のこれから財政状況がどのようになっていくのかということについても、少しイメージをもっていただくための、ご説明をさせていただくということで、今日の説明会がそのような構成になってございます。

この学区の統合ということは、地域社会にとりましても、大きな影響がありますものですから、非常にデリケートな問題であります。私ども、学校教育という立場と違う、市長部局の立場からいたしますと、地域のあり方、コミュニティということを非常に考えます。そういう面からは、私の立場からも必ずしも積極的に学校統合を進めてくれというお話をさせていただいた訳ではありませんで、むしろ、何とか今の学校を守っていく方法はないのだろうかというようなことでの検討を、実は、お願いしてきた立場でございます。

ただ、教育委員会といたしましては、長い時間をかけまして、子どもたちの将来にとって何が一番大事かという見地から、このような計画にたどり着いたということだというふうに、私も理解いたしまして、自分なりに、ある意味では受け入れざるを得ない計画なのかなと、そのように思ってございます。

そういう中で、二番目にご説明申し上げます、地方創生の戦略の中では、大きく、それから非常に速いスピードで変化をしていきます、これから社会において、この地域の将来を担っていただく子どもたち、その子どもたちをどのように育てていくか、これからの社会で生き抜いていくために、できるだけ、力のある子どもたちを育てていこうというような、教育を重視した地方創生を考えてございます。そういうことも、今回の統合をすることは、子どもたちの将来にとってより質の高い教育ができるのではないか、というふうなことを考えながら、私たちとしては、統合の計画を練っていただいたという側面もございますので、このような説明をさせていただきます。

時間が限られていて、説明が十分かどうかわかりませんけれども、ご理解を賜り、また、ご意見をいただきようにお願い申し上げて、ごあいさつといたします。本日はありがとうございます。

○教育委員長あいさつ

おはようございます。本日おいでの方々は、顔ぶれを見ますとこの内容について十分ご理解いただいているような方が多いような気がします。そういう中でも、この会は昨年もこの会場で説明をさせていただき、今回、2回目になりました。昨年も同じように、市内を6中学校区ごとに説明していった訳ですが、昨年の意見の中で、多くの方に周知したりしているようだが、どうして大勢の人が集まらない

のかという意見がありました。今回も事務局としては、1月から声かけして、学校にもそれから広報でも周知して、進めてきた訳ですが、このような人数になっていることは、これも現実だというふうに私は受け止めたいと思っています。

今回、昨年の説明以降にいろいろお伺いしたことを踏まえて、新しい具体的な年度を入れた計画を出しましたので、それぞれの地域で受け入れたところから順に進めていくことが、いいのかなというふうに思っておりますので、是非ともご協力をいただければと思います。

次第の説明の二番目になります、山武市まち・ひと・しごとの話の中で、私もびっくりしたのは、将来的人口が、今、5万3千人いるものが、2万3千人になってしまう予測値がでている、そのこと自体に私はびっくりしました。だから、山武市で次の世代の子どもたちが、ここで生活して、ここに根付くような、何かそんな施策も、今後の中で展開できればいいのかなと。そうすると、今の5万3千の人口が、一気に2万人台にいかないように、人口が続いてくれるように、それぞれの方々の家庭であったり、地域であったりで、人口減に少しでも歯止めがかかればいいなど、実は思っています。

そういうこともあっての、今回の基本計画でございますが、本日をスタートにまた6中学校区をまわって、いろいろご意見をお伺いしながら進めていくということになります。それぞれの立場があると思いますので、遠慮なく意見を言っていただければと思います。もちろん、インターネット上でも、いろいろご意見がある方は意見をいただけると思いますが、せっかくの機会なので、市長さんをはじめ、部長さん、課長さん方がたくさんいらっしゃいますので、遠慮なくいろんな発言をしてください。批判的な発言もいいですが、賛成的な発言もどうぞ遠慮なくしていただいて、相互理解をするということで、次の展開にしていきたいと思っています。短い時間かもしれませんが、どうぞよろしくお願ひします。

○説明の冒頭で、教育長から教育委員会の考え方、今後の方向性を述べた。

どうもみなさまなん、今日はありがとうございます。具体的な小中学校の規模適正化。適正配置基本計画の説明をするにあたりまして、教育委員会としてどう考えているのか、今後の方向性について簡単にまとめさせていただきます。今、社会の変化がほんとに早く大きくなっている中で子どもの数がどんどん減ってしまっていることはみなさんご承知のことだと思います。これは、山武市に限らず日本の国全体での流れでございます。市内では既に複式学級にせざるを得ない学校も出てきておりまして、今後の児童生徒数の推計を見ましても急を要する課題となっています。そこで、適正規模・適正配置について山武市内全体を考えながら検討してまいりました。しかし、少子化だけではこの計画の本にあるわけではありません。そこには、グローバル社会の進展により世界中のさまざまな面で境界がなくなってきたり、その中で経済的にも人的にも世界を相手にして考え方行動していく必要があること。また、高度情報化社会の進展によりまして将来の仕事が大きく様変わりしていくそういうような予測困難な社会を迎えようとしていることなどがございます。これからの中学生たちは、今まで私たちが受けてきたような学校教育では対応できない社会を生きて行かねばなりません。求められる能力が大きく変わっています。それは今までのような受け身の学習ではなく、自ら課題を発見し、解決していくことのできる能動的な学習であり、アクティブラーニングというような取り組みでございます。このアクティブラーニングとは、課題の発見、解決に向けた主体的・協同的な学びとしてグループ学習やプレゼンテーションなどをとおして行われるものでございまして、ICT機器を十分に活用していくことも必要になってまいります。このような学習をとおしてコミュニケーション能力、コラボレーション力、課題解決力など、今、21世紀型スキルと言われる能力を育てていくことが求められているところです。資料の1ページ目の最

初に示しました、「今後の社会の変化に対応する力を身につけるため」と言うのが私たちの大きな目標であり、これから社会を生きる力になるものと考えています。もちろんそこには今までとは変わらぬ人間社会で必要な道徳性や社会規律なども基本的な資質として備えていることが必要なのは言うまでもありません。そして、これらの力はより大きな集団の中で自分以外の多くの意見を認め、自分の考えを大きく広げながら学び合うということで培われる力もあります。教育委員会といたしましては、1ページの最後にあるように、「多くの意見を聞き、自分の意見を言える子ども」、「自分とは違う価値を知り、自分自身を深く理解する子ども」そんな姿を目指しながら明るい未来を築いてくれる子どもたちを育していくために今回の基本計画をつくっています。基本計画（案）は現在の状況から市長部局とも調整を進めながらまとめたものですが、長期の計画でもございますし、予測困難な社会になってくるというようなお話しをしましたとおり、さまざまな要因から計画の変更が出てくる可能性もございますが、基本的な考え方は、子どもたちの未来というところにございますので、皆様方にも十分ご検討いただきたいと思います。ぜひよろしくお願ひいたします。

※以下、事務局説明は省略※

【意見内容と回答】

○男性

二点ほどお聞きします。この説明会は、今後、このようなスタイルで何回か計画されているのでしょうか。それから、あまりにも若い方といいますか保護者の方々が、こちらに参画されていないということは、非常に寂しさを感じます。私はもう70歳を過ぎていますので、私が出るよりも、そういう方たちが、でるような雰囲気づくり、又は努力が必要ではないかと思っております。あともう一つ、学校の統廃合ですが、市の人口が減ってしまう、人口が減ることを防止することが大事だが、なんとなく同時に進行してしまうような気がしてなりません。学校が統廃合されれば、絶対的に学校の数が少なくなる。そうなると、山武市に住む魅力というものは非常に薄れてくる。そういうようなことを考えると、その整合性というのが、非常にもっと具体的に出てきてもいいのではと思っているが、そのことについて、今日、答えてくださいということではないので、よろしくお願ひいたします。

○教育総務課長

一点目の今後の説明会の件ですが、こういう形で、2月6日、7日、21日で市内の6中学校区で行います。その後、年度明けになってしまふと思うが、各小学校など、そういうところに出向きて、保護者の方が集まる機会とかに合わせて、また、学校と日程調整しながら説明会等をやっていければと考えております。

○企画政策課長

まず、人口減少対策につきましては、先ほども説明したとおり、人口ビジョンでどうしても減っていくということは、市のほうでも考えている。それを食い止めようと言うことで、このまち・ひと・しごと創生総合戦略の中で、いろいろな魅力を出していこうということで、これから展開してまいりますので、ご協力をいただければと思います。

○男性

もう少し具体的なものが頭の中にあるのであれば、それをお聞かせ願えませんかというニュアンスだったのですが、その程度でしか今のところ公表できないのであれば、それで結構でございます。

○企画政策課長

今現在、人口が減少しているというのは、日本全体で大多数が減少しているというところでございます。そのような中で、人口減少に対する対策というのは、大変重要だとは考えているというところでございます。山武市のほうでは、いち早くこども園化を進めたりとか、医療費を高校生まで助成したり、また、幼稚園等の保育料を第三子以降は無料化にするなどの措置を図りまして、子ども、子育て世帯の負担の軽減を図っているというところでございますけれども、さらに今後につきましても、このまち・ひと・しごと創生総合戦略によりまして、医療の充実を図っていく、そうすることで、出産や子育てへの不安感を解消していくことで、努力をしていきたいと考えております。さらには、先ほどの説明の中で、教育に力を入れたいと話をさせていただきましたけれども、このグローバル社会に向きました、多様な教育環境を整えていきたいということも進めているというところでございます。

○市長

ご質問ありがとうございます。人口減少の対策につきましては、市としてもなかなか効果のある対策というものがとれていないのは、これは現実でございます。それから、人口増加というのは、基本的には、出生率が上っていきませんと、この日本の人口の再上昇にはつながらない。どのような対策をとっても、これは長期的なものになろうかと思います。一方で、この人口減少については、既にこれから大量死の時代を迎えます。日本の社会は。人口減少は、これは急速にもうはっきりと数字で表れている問題でございますので、人口減少に伴います様々な施策と言うものは、これは対処をしていかなければならぬ、待ったなしの仕事でございますので、この学校の廃合も含めまして、子どもたちの数が将来減っていくという推計も、これから10年、20年の間というのは、既にはっきりしている訳でございますので、これについては、しっかりとした、対応策をとっていかなければなりません。一方で、人口を何とか持ち上げていくというのは、繰り返しになりますけれども、何とか若い世代に子どもを産んでいただく環境を、様々な形で整える中で、子どもを産むという意思が若い人たちの世代で、高まっていきませんと、これは、日本の人口が持ち上がりませんので、少し時間のかかる仕事になりますものですから、そのギャップはどうしても埋めていかなければなりませんので、二つの問題は少し分けて考えさせていただいて、今、地方創生では、少し長期的な見かたの中で、この地域の魅力をアップさせる、あるいは、子育て環境をしっかりと、どのように整えていくことで、子どもを産み育てる意思を高めていただくかという施策を、私たちとしては、精一杯やらせていただくということになります。一方で、このような学校統合その他につきましては、予定される人口減少に対しての対応策を、どうしてもとらなければなりませんものですから、備えとして、今、計画を立てて年次を決めて進めていくというような形になっているということで、ご理解いただければと思います。

○男性

わかりました。私、個人としては、義務教育は無料化にすべきだというような考え方をもっておりまして、そういうようなことも考えて、今日の、又はこれから教育を担う皆様方に期待したいと思っております。ありがとうございました。

○男性

四点ほどお伺いしたいと思うんですが、先ほどらい、いろんなお話を聞かせていただきまして、また、私も私なりに、人口推計、統計を見まして、ここ10年先、20年先を見たときに、児童生徒数がかなり減少していきますので、今この近々に、この先10年とは言わず、近々に学区の見直しと統廃合の計画

というのは、進めていかなければならぬと思います。例えば、ＩＣＴの関係で教育効果等を考えた場合に、一クラスの人数、25人とか30人とか、どのくらいの数がいいのかというところがありますが、仮に35人で計算しますと、10年後に、山武市内で小学校について、1年生から6年生まで複数学級にしますと、全体で5つの学校ぐらいの児童しかいなくなるというような数字が出ていますので、この辺は具体的にもう少し時間を早めに計画を組んでいかれたらと思います。お伺いしたいのは四点ですけども、一つはこの統合計画についてですけれども、先ほどからお話をありますように、統合する場合に一番肝心な、児童生徒への教育効果をどこに置くのかという点が、どうも薄いように思うんです。あるいは、今のお話の中では、児童生徒の数合わせだけで、学校、あるいは学校の位置等を検討されているように思えてしまうがないのですが、例えば、学校教育をどうするかについては、教育方針をしっかりと立てたうえで、じゃあそれにハードは何が必要なのか、また、工事する設備はどれくらい必要なのか、教員数はどうなのか、あるいは、教具、工具、備品等々は、どういうものが必要なのかということから、具体的な計画が始まると思うんですが、この辺がどうも検討されてないように思いますので、その辺を中心にもう一度、再検討されたらいかがなのかなということで、ご質問申し上げます。それともう一点は、この学校統合について、少子化対策であるとか、都市計画、あるいは、新市建設計画、公共施設等総合管理計画、今お話がありましたら、山武市まち・ひと・しごと創生総合戦略等々、それから、教育振興基本計画との関連がある訳で、この辺との関連がどのようにになっておられるのか、その辺をお伺いしたいと思います。それから、二点目なんですが、私が見させていただいた中で、教育委員会で出されている、適正配置計画の後に附属されている、住民アンケートがあるんですが、これの文面を見ますと、この住民アンケート内容の分析をしていないというような、審議委員会の中での議事録に載っているんです。これは、時間と経費をかけて、せっかく市民からアンケートを取ったものを、分析をせずにですね、市民の意識として、こういう意識があったよというものだけを付属しているというようなことですが、これは、せっかく良いアンケートを取られたのですから、この中身を分析しないで、ただタッチしているよというのは、これは、甚だ遺憾だと思うんです。こういうようなものを、きちんと精査をして検討内容の中身に加えることが必要だと思います。その中から、統合後の教育目標をきちんと設定して、この教育目標を達成するために、その環境をどのような形にし、その為にどのような施設が要求され、予算措置がどういう予算措置なのか、まちづくり、人口減少対策等と関連した具体的な施策が組まれるべきじゃないかと思いますので、これを二つ目のご質問とさせていただきます。三番目に教育理念についてですが、教育委員会のほうで教育理念が提起されておるんですが、これが、先ほどのお話の中からですと、いまグローバル化が叫ばれる中で、やはり教育理念をこの際、変更してきちんとした目的を持たせるということで、再検討されたらいかがかと思うんですが、例えば、教育理念を具体化して、児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、思考力や一人一人の資質を伸ばしていく、表現力、判断力、問題解決能力などを育んで、社会性や規範意識を身に付けさせること、というような教育目標をはっきりとした目標にされたらいかがかと思うんですが、いかがでしょうか。それから四番目に、昨年3億8千万円をかけてタブレットを導入したんですが、このタブレットを使っていく点について、文部科学省の教育振興基本計画の中でも、言語活動の充実、グループ学習、ＩＣＴの積極的な活用を始めとする、指導方法、指導体制の工夫改善を通じた、協働型、双方向型の授業革新というのが盛り込まれています。ただ、我が市のように、今、学級の児童生徒数があまりに少ない場合に、これは教育長のご専門だと思いますが、班活動やグループワークのパターン、協働的な学習で取りあげる課題に制約が生じてきます。こうしたことから、新たな時代に求められる教育

活動を充実させることができ、困難になるという課題も生じるのではないかと思いますが、この点についてお伺いします。

○教育長

最初の質問のこの計画について、教育方針が薄い、数合わせから入っているように思われるということございましたが、一番最初にも述べましたように、今後の子どもたちにとってどういった教育が必要か、そういうことを考えるところから入っています。その必要性としては、最初に述べたように社会の変化というのが大きくあります。その中の一つとして、少子高齢化という大きな問題があって、子どもの数が減って、学級減になるというような課題がある。さらには、グローバル化というようなもので、どんどんボーダレス化した社会の中で、必要な能力が変わってきてている。また、高度情報化ということで、ICTスキル等が必要になるというようなことで、様々な面から、将来、子どもたちが就く職業が変わってくるだろうし、大変予測困難な社会になってくる。そういう中で、どんな教育、どんな子どもたちが必要かというのは、最初に私のほうからも、学校教育課長のほうからも説明しましたように、これから生きる力として、21世紀型スキルを付けなければいけない。その為に、先ほどおっしゃられたような、アクティブラーニング、共同学習というようなもの、そういうものをしていくには、どうしてもある程度の規模が必要になってくる。そういうことから、その規模をつくっていくにはどうしたらいいか。子どもたちがどんどん減っていく、この今の山武市の状況の中で、といったこれらの子どもたちに求められる教育環境を整えていくには、やはりある程度、今ある学校の見直しを図りながら、一定の規模を維持し、そして、教員の数、環境、設備等についても、充実させていく必要がある。そうでないと、我々の求めるそういう教育を充実させることが難しくなっているというところで、今回の統廃合という形で表れているというふうに、ご理解いただければと思います。また、先ほども述べたように、社会の変化、これを求めてはいるんですが、変わる部分だけではなくて、もう一つ、人間社会の基本的なルールとか道徳、といった部分を学ぶにあたっても、やはりある程度の人間関係の規模がないと、十分な切磋琢磨等も行われていかないだろうというような点からも、一定規模が必要になる。そこから入っている訳でございまして、単純に数が少なくなつて、運営上の問題だけで数合わせをしていることではないというふうにご理解をいただければと思います。

○教育総務課長

アンケートについて、ご質問いただいている分析の度合といいますか、私どもでもクロス集計ということで、集計して内容についてどういうご意見が多くかったかというところでの確認はしております。それが分析なのか、世間一般でいう分析ではないというような形なのかはわかりませんが、アンケートはとりまとめて、どういう傾向があるという視点では確認し、意見交換をさせていただいております。会議録の中で、分析しなかったというように書いてあったというご質問だったと思うが、その確認はしてはいないが、アンケートは集計をして、その内容については、教育委員やあり方検討委員会委員の方々とも共有して、内容の確認をさせていただいて、基本方針策定の参考にさせていただいたという取り組みはしてございます。

○男性

今、お答えいただいたが、アンケートについて分析をしていないというのが、学校のあり方検討委員会の中の議事録に掲載されているんですよ。このアンケートを取ったのは、市民からこういう意見があるよと、それだけのことを添付資料として、このあり方検討委員会の答申の附属書類として付けますよということが、議事録として載っている。何が言いたいかといいますと、先ほどからここで皆さんにお

話されているように、これからのあるべき教育の姿、学校の姿、あるいは、児童生徒と教職員の数、学校の位置、それから、例えば閉校後の跡地利用について、どう思われるかというようなアンケートの中身について、分析もしないで、ただ回答した市民の数、意見の数がこういう傾向でこれだけありましたというのは、甚だおかしいのではということを言っているんです。と同時に、それと全く同じアンケートの附属書類が、教育委員会がまとめた適正配置基本方針の附属資料として付けられている。これは教育委員会として基本方針を策定された時に、なぜ中身を分析せずに、これだけのこういう意見がどれだけ市民からありましたと、それだけで載せているのは、非常にこれは経費の無駄遣いではないんでしょうかということです。

○教育部長

このアンケートの件については、ご意見としてお伺いしておきます。続いて、タブレットの件について回答いたします。

○学校教育課長

タブレット等ですが、その活用促進は進められていて、今、本市においても小中学校の学習の機会などで、様々な形で使われ始めております。そのグループについてどのようにするか、例えば、ある子は観察の分野で長けているので、その子を中心とした班グループをつくったりだと、あとは、情報収集に長けた子がいれば、そういう情報収集に長けた子をリーダーとした班グループだと、様々な一人一人の子どもの個性とか特性を活かしたグループ編制が、多ければ多いほどできるというふうに考えておりますので、そういう方向を模索していくためにも、ぜひ一定程度の子どもたちの学びが広がるような、学習集団をつくっていきたいというふうに考えているところです。

○男性

今、お答えいただいた方向で結構だと思うが、若干、理解が違うと思う。それは、ICTを使っての一番の教育効果というのは、いろんな多岐にわたる情報の中から、あるいは、生徒たちのいろんな意見の中から、今、何が必要でどの方向が正しいのかという判断力を付けさせるというのが、ICTという教材の使い方である。その辺は具体的に言うと、例えば1クラス20人で、5人編制でグループを組むと4つのグループしかできない。例えばそれを35人にしたら、同じ5人でグループをつくったら7グループできる。そうなると、グループ数が多い方がいろんな意見、多種多様な見かたというものが出てきて、生徒たちにこれを教材として使う時に、非常に効果として人数が多いほうが上ってくるんです。反面、1クラスの人数が少ないほうが、教員一人の目が行き届くという点もあるんですが、そこが、ICT教育と教員の目が届くところの両極端になるんですが、将来の、例えば1クラスの人数として、このICTを使った授業をやるという前提で、今、1クラス何人くらいが一番適当だとお考えなんでしょうか。

○学校教育課長

1クラスの適正な人数については、25人から35人程度だと考えています。それは、グループの班員を何人にするかにもよりますが、できれば、偶数ではなく奇数のグループが編成されるようにすることによって、様々な意見があった時に、民主主義ではないが、それぞれの班の代表の意見の中で、同数にならないような仕組みをつくって、そういうことも学べさせる機会になるのかなと思います。そういうことで、25人から35人が適正な人数だと考えています。

○教育委員長

今、質問のあった最初の話についてご確認させてください。先ほどの話で、適正規模とか、今の子ど

もたちの人数の推計をすると、例えば小学校の場合は、5校くらいで足りるではないかという意見ですよね。私はそういうように受け止めたんですが。その為に、もう少し早くいろんな施策を行ったほうがいいんじゃないかという意見と理解してよろしいでしょうか。そういうことも、一つの話としては、教育委員会として論議した経過があるんですが、地域をみて地域といろいろ話をしている中では、そういうことは中々できないよと、地域のコミュニティのために小学校が必要なんだという地区もあるんです。そういう意見も踏まえて、今の基本計画の中でどこからスタートしようかという案での今回の提案でございます。ですから、小学校の場合は当面、複式があるところを最初にまずはやろうではないかという提案でございまして、計画的には、その後の後半の計画も踏まえて、提案しておりますから、それぞれの地域で、またこのような話し合いの中で、うちの地域はもう少し早めて、この案を進めていこうとなれば、それはそれで、動きをとりたいという前提があることでございますので、ご理解いただきたいと思います。

○男性

少し補正させて欲しいのですが、私が小学校は5校でいいのではないかと言ったのは、そうではなくて、仮に10年先の人口推計から見て、児童生徒数を計算して、1クラス例えば30人から35人くらいで10学級で計算しますと、数だけで割り算をすると、5つの学校くらいで済んでしまうくらいの規模まで、生徒が減ってくるということなんです。ですから、早目に具体的な計画を組まれたらもっといいのではなか。もっと言えば、今、その地区的問題がでましたが、地区の中のコミュニティをどうするかという問題と、それからもう一つは、仮に20年先、それだけ児童生徒数が減ってくるのであれば、今の学区というものを見直して、山武市の中でもっと大きな学区で、より良い環境の中で、教育ができるような形を考えたほうがいいのではということです。

○男性

いろいろと教育委員会の皆さんも努力をさせているようですが、私どもも昨日、この統合の問題については集まりまして、2時間ほど話し合いを持ちました。市会議員の方にも来ていただきました。私どもは以前に、教育委員会の会議の傍聴も一度させていただきました。それから、市議会の傍聴も一度させていただきましたが、私ども税金を払っている市民としては、少し不満な点が多くあります。椎名市長が最初に市長選にでたときに、私の後輩の松井君、それからいま病んでいる土屋さんに頼まれまして、椎名市長と初めてお会いして、私はやはり近隣の市町村の首長さんとしては、学歴からしても、見識からしても、一番手ではないかということで、尊敬をしている訳でありますけれども、やはり、この人口が減っているということ。椎名市長は町長としても何期かやられ、市長として三期目に入っている訳ですが、何か先ほどのお話の中で、日本全体の人口が減っていると、少子化だとおっしゃっておりますけれども、増えている市町村もある訳である。それから、昨日の私どもの勉強会では、統合しないところの学校のほうが成績が上っているという、そういうデータも出てきている訳です。また、私、今回の説明会は、全ての会場に出席したいと思っておる訳ですが、そんなところで、もし、そういう例を教育長なりがご存じであれば、また教えていただきたいと思います。あと、この統合の問題は、これから我々の子どもたちや孫たちの将来にかかるべきなので、慎重に一つ頑張って欲しいなと思います。それから一つ、私の友人、既に亡くなってしましましたが、その友人が53歳の時に、小さな小学校の校長に始めてなりまして、そこで、全国的にも評価されたスマールスクールの経営をなさったようあります。私は、その学校を訪ねてみましたが、もう廃校になっておりまして、近所の人にも話を聞いたり、それ

から、最終的に昨年、芝山町で小学校の統合があつて、芝山小学校の校長にお会いして、その時に、廃校になった学校の資料などをいただきました。後で、教育委員の5名の方々に、その資料の写しを用意してきたので、ご覧になっていただいて、私は、午後の説明会、また明日の説明会にも出席しますので、一人一人の教育委員、教育長に、それについてのご意見をお伺いしたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。それから、司会の渡邊部長にお願いしたいのですが、今日は始める時に説明のほうは1時間で、なるべく皆さん方の意見を聴くということだったが、何か我々が意見を言う時間が40分くらいしかない訳なので、やはり、司会としてはその辺、十分に質問の時間、意見の時間をとっていただきたいと思います。

○市長

ご質問ありがとうございます。長い間、首長をやらせていただいて、人口が減少しているということでのお叱りも、あまんじて受けさせていただきますが、確かに同じような東京からの時間距離にある自治体の中でも、人口が増えているところ、様々な原因がありますが、例えば、同じ郡内でも人口が減っていないという意味では、例えば大網白里市も大体横ばいぐらいになっています。これから人口が減るという推計がありますけれども、そこには、過去に計画をされました団地構想というものが、やはりいきついて、良好な住宅建設とか様々な施策が、今、実っているなというような部分もあります。私ども山武市の施策の中で、もちろん地域コミュニティの活性化というのは、ずっと模索をしながらやってきてございますけれども、力の及ばない点もございまして、現実として急激な人口減少をきたしているという状況にあることは、これは認めざるを得ないということです。今回の地方創生の中でも、国のはうも、地方の人口をどのようにこれから持ち上げていくかということでございますから、そういう中で私どもも知恵も出し、汗もかかなければいけないと、これから地域をそれぞれの地域が工夫をし、努力をすることによって、持ち上げていくことで、日本全体の活力を増していくことになろうかと思います。私どもの今回の地方創生の中でも、国のはうでは雇用の創出ということを、まず第一に掲げてございます。雇用の創出ということになりますと、自治体が今までとてまいりました一番の施策と言うのは、工業団地の創設でありますとか、企業誘致ということであります。私どもがこの地域で、今始めております、企業にご訪問してご意見をいただくというようなところで、だんだん分かつてきておりますことは、必ずしも、この地域に雇用がない訳では無く、若い人たちが、何といいましょうか、昔だったら好んで就いてくれた職種に、なかなか就いてくれないというような状況も、わかってまいりました。そういうことで、若い方々の望む職業とこの地域にある雇用とのミスマッチというものも、出てきているという状況もあります。今回の地方創生の中で考えますのは、山武市単独でこの人口をもう一度持ち上げていくという施策は、なかなか考えにくいと言いますか、もう少しエリアを広げて、この地域の強みはなんだろうかというところから、山武市としてはどうしても東京経済圏からは少し外れてしまっている。県は千葉県を東京圏というふうに言っておりますけれども、東京圏というのは人口が増えているところを言います。その人口が増えている東京圏に、果たして山武市は入るかというと、私はそれは間違いだろうと思っておりますので、県のはうにも首都圏ではありますけれども、東京圏という考え方とはらないで欲しい、このことにつきましては、どうしても千葉県という県は、東京の隣接県でありますので、今でも微増している。しかしながら、千葉市から南、東のはうになりますと、間違なく人口減少が激しいという、共通の課題をもってございます。そういった中で、この地域が将来どのように人口を持ち上げていく計画、どのような戦略をとれるかということになりますと、私は今、やはりこの地域にある成田空港というものを、しっかりととした核として、この影響をできるだけこの地域で

も利用させていただくと、成田にある雇用、これは、成田空港も将来には労働力が不足するという推計を立ててございますので、そういったところをこの地域の雇用の場としては当て込んでもいいのではないかと、そのような戦略を考えてございます。そういった中で、この地域に住んでいただいて、少し離れたところに雇用があったとしても、この地域に住む魅力を高めていただく、子育てをする環境を整えていただくことで、なんとか人口を増やしていくことができるのではないかという考え方を、山武市としてはとらしていただいてございますので、これまでも、子育て環境については、なかなかご理解をいただいてございませんけれども、子育て環境についての環境整備というものは、かなり力を入れてきたところでございます。その延長線として、説明の中に度々出てきた言葉として、グローバル化という言葉がでまいりましたけれども、先生も海外の学校でご指導したこともあると聞いてございますが、どんどん国際化も進展してまいりますから、それに伴って子どもたちが将来就く職業の種類というものも、一説には、3分の2の小学生は、大人になった時に、今、存在しない職種に就くんだということまで言われておりますので、そういったことを考えますと、私どもがそれをなかなか想像することはできませんけれども、その中で、こういった国際化、グローバル化ということの進展ということは間違いないというふうに考えております。成田空港にも近く、首都圏からも70km、80kmの圏にございますので、私どもとすると、この地域の子どもたちにとって、そういったグローバル社会に生きていく能力というものを、他の地域よりもしっかりと付けてもらいたい、そんなことを今回のまち・ひと・しごとの戦略の中での基本の考え方というふうにさせていただき、今回の学校統合の中におきましても、あるいは、ICT化というようなことも進めさせていただく中で、子どもたち教育に力を入れていこうと考えてございます。そういった意味で、先ほどお話を申しあげましたけれども、その効果がこの1年、2年で出るかどうかということは、それはなかなか難しいと思いますけれども、必ずこの地域の魅力を上げて、この地域に定住をしていただく方が増えるだろうということで、今、私どもがやれることにつきましては、精一杯頑張っていこうという考え方で、今回の学校統合につきましても、そういったことを実現していく上で、どうしても統合というものは必要なんだという、教育環境の整備をするということを、私としても、これは時間をかけてここまで教育委員会のほうで議論を重ねて、まとめていただいた計画でございますので、なんとか市民の皆様方と共有をして、できるだけスピーディに進めていければと考えております。

○最後に教育長あいさつ

本日は、たくさんのご意見をいただきましてありがとうございました。今後の計画の詳細を検討していく中で、いただいたご意見を十分にいかしてまいりたいと思っております。今回、お示しいたしましたこの計画は、教育環境を第一に考えました教育委員会のプラン、考えに、現在の様々な条件等を加えまして、今現在で判断できるもっとも良いだろうという案を出させていただきました。しかし、社会状況の変化によって、変わってくることもありますし、また、何よりも地域の皆さんのご理解が重要だというように考えております。この計画案について、皆様方が考えていただきますことが、子どもたちの未来と地域の将来像をしっかりと見つめ直す、きっかけになってもらえることを期待しているところでございます。本日はどうもありがとうございました。

山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（案）に関する「意見を聴く会」の概要

期 日：平成 28 年 2 月 6 日 午後 2 時～

場 所：山武南中学校体育館

対 象：山武中南学校区

参加者：20 名

○市長あいさつ

皆様こんにちは。お寒い中をまたこのように土曜日、休日の時間をさいていただきましてお集まりいただきましてありがとうございます。今日ご説明させていただき、またご意見をいただきたいのは小中学校の規模適正化・適正配置の基本計画についてでございますけども、いわゆる学校の統合問題でございます。皆様方のお子様の将来に大変かかわる重要な問題でありますので、市としても議論を重ね、特に教育委員会では数十時間にわたる議論を重ねてこのような計画（案）を練っていただきました。実は今日そのほかに、まち・ひと・しごと創生総合戦略、あるいは山武市のこれから財政がどのようになっていくかについてご説明させていただくのは、学校の統合問題、教育問題ですから、子どもたちの教育にどうかかわっていくのかということと、特に地域の特に昔から地域にお住まいの方ですと、自分の通っていた学校が統合されてなくなってしまうということのコミュニティにかかわる問題というその関係で議論が進む場合が多いと思いますが、私たちが抱えている問題というのは、世の中どんどん非常なスピードで変わってまいりますので、その環境、市を取り巻く環境、子どもたちを取り巻く環境が非常なスピードで変化をしていく、このことにどのように対応していくか、という問題を抱えているというように考えております。そういう意味で、先程、高橋様から朝日新聞の記事に山武市がオリンピックのホストタウンに登録されたというこういったニュースの記事をいただきましたけれども、山武市がオリンピックでスリランカを応援しているというのも、2020 年にオリンピックが東京にまいりますのは、自治体を取り巻く、山武市を取り巻く環境が大きく変わるということを意味していると思います。当然、外国からたくさんのお客様がいらっしゃいますし、成田空港の近傍にある山武市にとりましては、これは大きな環境の変化というふうに捉えさせていただいております。山武市といたしましては、積極的にオリンピックにかかわっていく中で山武市の未来をいろいろ考えて築いていくことこのように取り組んでいるところでございます。その流れの中で、今回、まち・ひと・しごとといいういわゆる地方創生の枠組みも決まってまいりました。こういったことを今日、皆様方にご説明させていただく機会を与えていただいて、そういう幅広い山武市の将来計画の中で、子どもたちがどのように教育を受けていたら新しい時代に対応できるのかということを私たちと真剣に考えていきたいと思っております。学校統合問題は、効率の問題もさることながらお一人お一人の子どもさんの将来、そのお一人お一人の子どもさんが人生を形成していく中で、しっかりとしたキャリアを築いていくための基礎をこの義務教の中でどのように築いていくかということについて、私たちは最大限、皆様方と一緒に汗をかいていきたいと思っておりますのでご理解を賜れますようお願い申し上げましてご挨拶いたします。今日はありがとうございます。よろしくお願い申し上げます。

○教育委員長あいさつ

小野崎でございます。よろしくお願いします。ほんとに寒い中、たくさんおいでいただきましてあり

がとうございます。去年も素案の段階でこういう会を開かせていただき意見をいただきました。私が去年来た時にひとつ思ったのは、PTAの方で子どもがクラブのチームがこのままだと形成できなくなってしまう、どうにかしてほしいって言われた記憶がすごくあります。今日は、小さいお子さんがいて、ちょうどお子さんが小学校にあと2年ぐらいで入られると思いますが、そのくらいの時期の話なので今回のご提案の中の受けた感想とか、PTAや保護者の中で話されている内容とか、ぜひ、発言いただきたいと思います。今日は、市長はじめ、各部長、課長もたくさんいらっしゃいますので、耳がたくさんダンボになって聴けると思います。教育委員会でもいろいろ適正配置の話をした時に、やはり学校をつくることもお金がかかるし、学校を壊す時もお金がかかってしまいます、残った学校をどうしようかといった話もしなければなりません。ですから総合的に考えるということが必要だと言われて、前回の素案も少し訂正しながら今回、計画にしておりますので、ぜひいろいろご意見をいただければありがたいと思います。そういうことで去年1年間かけて論議してきたところがありますので、聞いていただきたいと思います。よろしくどうぞお願ひします。

○説明の冒頭で、教育長から教育委員会の考え方、今後の方向性を述べた。

どうもみなさまなん、今日はありがとうございます。詳しい説明に入る前に今回の小中学校の規模適正化・適正配置基本計画をお示しするにあたっての教育委員会としてどう考えているのか、今後の方向性について簡単にまとめさせていただきます。今、社会の変化がほんとに早く大きくなっている中で子どもの数がどんどん減ってしまっていることはみなさんご承知のことだと思います。これは、山武市に限らず日本の国全体での流れでございます。市内では既に複式学級にせざるを得ない学校も出てきておりまして、今後の児童生徒数の推計を見ましても大変急を要する課題となっています。そこで、適正規模・適正配置について山武市内全体を見て検討してまいりました。しかし、少子化だけではこの計画の本にあるわけではありません。そこには、グローバル社会の進展により世界中のさまざまな面で境界がなくなってきたたり、その中で経済的にも人的にも世界を相手にして考え方行動していく必要がある。また、高度情報化社会の進展によりまして将来の仕事が大きく様変わりしていくそういうような予測困難な社会を迎えようとしていることなどがございます。これからのお子さんたちは、今まで私たちが受けたような学校教育では対応できない社会を生きて行かねばなりません。求められる能力が大きく変わってきています。それは今までのような受け身の学習ではなく、自ら課題を発見し、解決していくことのできる能動的な学習でありまして、これはアクティブラーニングというふうに言われています。このアクティブラーニングとは、課題の発見、解決に向けた主体的・協同的な学びとしてグループ学習やプレゼンテーションなどをとおして行われるものでございまして、ICT機器を十分に活用していくことも必要になってまいります。このような学習をとおしてコミュニケーション能力、コラボレーション力、課題解決力などを21世紀型スキルと言われている能力を育てていくことが求められているところです。次第の1ページ目の最初に示しました、「今後の社会の変化に対応する力を身につけるため」と言います大きな目標、これからのお子さんたちは生きる力になるものだというふうに考えています。もちろんそこには今までとは変わらない人間社会で必要な道徳性や社会規律なども基本的な資質として備えていることが必要なのは言うまではございません。そして、これらの力はより大きな集団の中で自分以外の多くの意見を認め、自分の考えを大きく広げながら学び合うことで培われていく力でもございます。教育委員会といいたしましては、その1ページの最後にありますように、「多くの意見を聞き、自分の意見を言える子ども」、「自分とは違う価値を知り、自分自身を深く理解する子ども」そんな姿を目指しながら明る

い未来を築いてくれる子どもたちを育てていくために今回の基本計画をつくっています。基本計画（案）は現在の状況から市長部局とも調整を進めながらまとめたものではございますが、長期の計画でもございますし、予測困難な社会になってくるというようなお話をしましたとおり、さまざまな要因から計画の変更が出てくる可能性もございますが、基本的な考え方は、子どもたちの未来というところにございますので、皆様方にも十分ご検討いただきたいと思います。本日はよろしくお願ひいたします。

※以下、事務局説明は省略※

【意見内容と回答】

○男性

今日の適正化のテーマと違うかも知れませんが保護者の立場から聞いておきたいことがあります、最初の2ページ目のフロー図であらたな学びのスタイルへということで説明いただいたと思いますが、今までこういったことをされていて今回改めて説明されたものなのか、今回から新たに始めることなのか、新しいことにチャレンジすることになると関わり方が変わってくると思いましたので伺いたいと思います。

○学校教育課長

アクティブラーニングの部分も含めてだと思いますが、アクティブラーニングにしてもICT教育にしてもグローバル教育にしても今まで全然していないわけではなく、同じようなことはしていますが、今までの授業のスタイルで例えば、アクティブラーニングにするとグループ学習とかやってきてはいますが、その内容的なことについてもっと質の変化というか取り組みの重点を置いていくというような考え方です。ICT教育についてもやってきていて、今回山武市は機器を導入しております。全校タブレット等も配布していますのでそれをさらに有効的に活用していく、そういうような内容で考えているということです。ですから、まったくゼロからのスタートではなく、これまでそれに関わるようなことはしていますが、もう一度そこを工夫してさらに効果を高めていこうという考え方です。

○男性

ゼロからではないということなんですが、どのくらいこういったことはやられているのか。山武市独自ではなくて、千葉県とか国レベルかもしれません、山武市とか千葉県から見てどれくらいこういったことをされていて、こういうことに関わっている教職員の数は多いのか、新しく入ってくる先生方はこういった教育を受けて配属されてくるものなのか、そういったところが細かく教えていただけるのであれば教えていただきたい。

○学校教育課長

アクティブラーニングという言葉としては、次回の学習指導要領の改訂の目玉として入ってくる言葉です。今までの学習形態の中にこの言葉を使うことによって単なる班活動、グループ学習ではない目的を先生方に意識をさせて、その指導法の研究をこれから進めて行くという段階に入ります。それからICT教育の分については、ICT教育の研修を十分に受けてきているということではなく、山武市の方として研修会とICTに堪能な支援員を学校に配置しながら現在進めてきているところです。グローバル教育につきましては、英語教育だけではなくしっかりとした自国理解と読書活動の推進、そういうものをグローバルという枠組みの中でもう一度見つめなおしてやっていこうという段階にあるという

状況でございます。その詳細な数は申し上げられませんがそういった状況になっています。ひとつ例をあげれば、英語の先生の中で英検の準2級の取得者がどれくらいいるのかとか県全体でも調査が入っていて、全国、県レベルでもグローバル教育に推進については方向性が向いているところでございます。

○男性

4ページ目の将来を見据え、新たな取り組み、今後の重点としてたくさんの項目があがっているわけですが、どこが重点的に捉えて進められていくのかわからなかったのと、英語教育の充実というのは、小学校1年生を重点にしているのか、中学生からを重点にしているのか、対象としている各項目について、いつの年齢を対象なのか、具体的な全体像というか、そういったところ、今日聞けるとは思っていませんが、どういった形で目にふれることが保護者としてできるのかお伺いできれば。

○学校教育課長

対象年ということについては、具体的に申し上げますと、幼児期、こども園の段階からすべてここにある項目についてはその発達段階に応じてやっていくことが基本的な考え方です。例えば、幼小中を一貫した学習習慣づくりは、幼稚園の頃から山武市としてこういった学習習慣が望ましいだろうと、例えばきっちと先生のほうを見て話を聞けるだとか、そういったようなことが幼稚園、こども園の段階で身に付けさせる。その先に小学校の段階では、きっちと手を上げて返事ができるだとか、そういった連続性があるものなど、これらの教育のもとになるもののスタートは幼児期から始めていくものだと考えております。例えば英語などは、こども園からALTが入って英語で遊ぼうというようなことを既にやっています。それから小学校、中学校の段階にいて、最終的に中学校の段階では、英語に慣れ親しんでその理解力が高まったかという達成感、また自分の目標として英検を受験して、3級を目指していくというような方向に結びついていければと考えています。もうひとつ例をあげれば、読書活動にしても朝の時間に読書活動の時間を全小中一貫してやっていくということで、どのレベルでこれを重点的にあるのではなく、すべての段階でレベルをだんだん上げていくといった連続性の教育を考えています。

○女性

財政が大変だと思いますが、南中を改修して小学校をつくるということで、今ある小学校をなぜ使わないのか聞きたい。スクールバスが出れば、小学校を真ん中にしなくても大丈夫かなという意見もある。西小学校もきれいだし、日向小学校も体育館を改修したばかりだと思うので、そのところを教えていただきたい。

○教育総務課長

いろいろ今回のご提案をさせていただくのに検討しました。この学区、南中学校の学区でいえば使える選択肢とすれば、日向小学校、山武西小学校、先ほど説明させていただいている山武南中学校になります。そういう中で、日向小学校は今回、体育館を改修しましたが、校舎そのものは老朽化していて、いずれどこかで大きな改修、もしくは建て直しをしなくてはいけない状況にあるのかなというふうに考えています。山武西小学校は、建築年次とすれば山武南中学校と変わらない、同じ頃に建てたので山武西小学校でもいいのではないかという意見も確かにありました。そういった中で、やはりスクールバスを使って行けば遠くてもバスを使えば近いのではないかという意見もあるかと思いますが、実際のところ、距離についてシミュレーションをした場合でも、遠い方の距離はどちらの小学校を使った場合でもだいたい同じくらいでした。いろいろなことを想定した時には、やはり距離的に差のないところにあった方がまとまりがいいのではないかということでの提案を今回させていただきました。

○市長

最後の説明で財政的なことをお話しさせていただきました。学校を統合する場合に例えば2つの学校を統合する時には、新しくその真ん中に新しい土地を買って新しい学校をつくっていければ皆さん方にいちばんご理解していただけるとこですが、やはり、今山武市は4つの町村と合併したので施設をたくさん持ちすぎています。そういう中でこれからさまざまなかたちで数を制御していくかなければならない問題を含んでいる中では学校統合を考える時にも子どもたちの教育環境を確保しながらもできるだけ今ある施設を最大限使っていこうという基本方針、これは私ども財政の方から教育委員会の委員の皆さんにお願いをしてそういう中で検討してきたものです。例えばの話ですが、この地域の2つの小学校を統合した時に案としてはどちらかの小学校は使えるのではないかということは、まず最初に検討してきたと思いますが、今そのほかの距離の問題だとか、地域の皆さん方にとりまして一番ご納得いただける案というものも考えながら、ここの中学校を手入れしていくば、ちょうど距離的な問題その他で統合小学校として使えるのではないか。

いろいろな条件を入れた中で、お金もあまりかけられない部分もありましたので、その中でいちばん環境を整えていくける案というものを検討いただきつくりていただいたものが今回の案でございます。そういう意味で今日、地方創生の中で私たちが子どもたちの将来のためにどんなことを教育の中で盛り込んでいくかということと市の抱えている財政問題ということもあわせてご説明させていただいたところでございます。そういうことも含めてご理解をいただければと思います。

○男性

午前中も出させていただいた。今、男性の方から質問があった中で、例えば英語を指導する場合、小中学校の先生方の中で英検が何級を持っている方がどれくらいいるかなど、このへんはどうなっているのか。私の教え子から聞いた話であるが、今の小学校の状況では英語の方まで指導できないと、こんなことを言っていた。今の現場の小学校の先生方で、きちんと忙しい中で英語を教えられるのかどうか。どれくらいいるのか。それから、中学の場合は専門になるので、そのへんもお答え願いたい。

先ほど、スリランカ、ニュージーランド、韓国との交流をやっていると。その状況をお示しいただきたい。私はかなり前にニュージーランドに行って高等学校で日本語を教えていた。ニュージーランドは小さな国、40年前は330万の人口、現在450万人これは難民を積極的に受け入れている国である。しかし、その中でも小さいなりに小さい時から頑張っていこうという考え方。やはり大きくならないとうまくいかないんじゃないかな、そういうような形が午前中の話でも今の話でもあったが、そのへんが疑問に思うところがあるので、その2点について伺いたい。

○学校教育課長

教育の実態でございますが、基本的に英語教育については、中学校は教科化されており、小学校の5、6年生については英語活動ということで、活動が始まっています。山武市の小学校の場合、外国語の指導助手としてALTを毎日ではないが、各学校に行っていただき、教科とは別のところで英語活動を小学校の段階からやっていただいている。質問の内容は、先生方がそれに十分対応できる力を持っているかということですが、小学校の場合については英語教諭の免許は必要ないので、今現在やっている部分については、5、6年生の英語活動をやっている先生を中心にして夏休みに英語活動を実施するために研修会を毎年山武市内でやっております。基本的に英語活動ということですので、英語に慣れ親しみ興味を持たせることが一番の目的なのでそういうことの趣旨をしっかり理解した形で小学校の

英語に関わる先生方については、県でも動きがあるとは思いますが、山武市としても独自に考えていかなくてはいけない部分だと思っています。なお、中学校の英語検定の取得状況については、こちらの方で調査はしておりますが、本日は数字を持ってきておりませんのでお答えはできませんが、英検の取得が全然ない先生はいません。

○男性

生徒が少ないということで、ある程度の数を揃えないと、ということからこの統合の問題が出ていると思うのですが、どうも賛成できないので、そのへんをどう考えているのか。教育長の考えでも結構ですので教えていただきたい。

○教育長

大きく規模を求めるという点についてですが、確かに今まで小規模の中で十分にやってきておりましし、小規模校では人数が少ないので細やかな指導ができるというメリットが言われておりますし、確かにそのとおりだと思います。今までのように受動的な知識を高めるという部分においてはそれが大きく効果を表してくるものでありますし、実際に表しております。ただ、先ほどから何度も説明しておりますとおり、今後求められる子どもたちの能力というものが、単に学力を高めるということではなくて、社会の中で生きて行くためのこれから生きる力としてさまざまなものが求められている。それがアクティブラーニングとか言われる中にるように自ら課題を発見して解決していく、そういうことが求められているわけです。それはやはり少人数の中ではなかなかうまく実現できない、例えば、グループをつくるにしてもいくつか数が多いほうが多様な意見に接することができるということです。そういう21世紀型スキルと言われているような力をつけるためには、ある程度の規模を求めていかなくてはいけないだろうということで今回、少子化の問題とあわせて考えているところでございます。既に今後、20年後、30年後に職業が60%ぐらい変わってしまう、今ある職業がほとんどなくなってしまう、どんな職業に就くかもわからない、とういうような状況の中ではやはり、そういうスキルをきちんと子どもたちにつけていく必要があると考えています。英語の件ですが、小学校の英語の教科版というものが31年に進められておりますけども、それにあわせて文科省の方でも小学校での英語教諭の技術力を高めることについて検討されているところです。その中で英語教諭の実力という部分では、英検の1級(準1級)の取得者を50%まで高めるといった目標を言っているところもあります。今現在だと、1級(準1級)は英語教諭の中でも確か10数%しかいない。そういうことを今後求められてくると思いますし、そうなってくると国全体としてもそういう方向にむけての対策がおそらくとられてくるのではないかと思っておりますが、そういうことに先駆けて山武市では今、ALTをこども園、幼稚園から派遣し、また小中学校にはすべてALTを派遣したりというようなことを行っているところでございます。今後はさらにそれを充実させていきたいと考えております。

○男性

ALTというのは、どういう力をもって日本へ来て英語を教えているのかおわかりでしょうか。私は、ALTが初めて千葉県に来られたとき、印旛、香取地区に1年來られた。これは力をもった男性教師だった。2年間、一緒に各学校をまわりました。ALTはあくまでもアシスト、助手です。やはり、日本の中学や高校の英語の先生です。小学校の場合は、「さよなら」とか「ありがとう」とかその程度の英語ならかまわないけれど、一番大事なのは最初の英語をどういうように教えていくかということが非常に大事なんです。6年間、中学で英語を教えたが、中学1年生を教える場合、1学期は喜んでやるが、2学期になると英語が嫌いになってくる生徒が多くなってくる。小学校の低学年ほどしっかりとした指

導ができないといけない。小学校の先生がいてALTを使っているからいいのではなく、ALTはあくまでも助手、それを使うのはやはり小学校の担当の先生なので、そのへんを考えてもらわないといけない。

○教育長

小学校、幼少期からの英語教育についてですが、今考えている部分は英会話力です。これは、ある程度小さい時期からきちんととした発音を耳にし、発するということから理解をすることが大事だというふうに言われています。一方、英語能力、今学生に求められている英語力、つまり第二言語として、日本語から英語に翻訳するなどトランスレーションするような能力というものと、言葉としてコミュニケーションするための力は別に捉えています。これは、その英語教育が10歳ぐらいでないと効果が出ないと言わされている先生もいます。その年齢というのは、この間聞いてきた話では、自然の言葉として受ける英会話力とそれを第二言語として日本語に入れ替えたりしていく能力、それをあわせるにはある程度10歳ぐらいの年齢を迎えないといけないということですので、小学校低学年、今われわれがしようとしている英語教育については、あくまでもネイティブなコミュニケーションをとれるための英会話力というふうに考えています。今後、教科化されるようになってきた場合には、ある程度しっかりした日本の先生の第一ティーチャーのスキルが求められてくると思ってますし、その対応をしていかなければならないと考えているところです。

○男性

教育長と英語教育について議論するつもりはない。私はプロですから、プロフェッショナルな意見というものを聞いていただきたい。

○市長

今、先生からの話をいただき感じましたが、先ほど土屋さんから、今やろうとしていることということは、やってきたことの続きなのか、新しくやろうとしていることなのかということにつきましては、課長の方から、今までやってきたことを続けていきますという話だったのですが、私としては、むしろ新しいことを始めるんだというふうな感覚でおとりいただいた方がいいと思う。例えば今、先生から英語のお話しがありましたが、これからの中でも子どもたちにとってのグローバル、国際化、グローバル化という時代に子どもたちがこれからどういうふうに生きていくかという中で、今何を子どもたちに補つていくことができるかということについて新しく今まで成し得なかつたことを積極的にチャレンジしていくこと、こんなふうな考え方をもって、いつから始めるかということも含めて、積極的に取り組んでいくことという模索を始めているところで、新しく何かを始めていくというふうにおとりいただいて、PTAとしてお力添えをいただければと思っております。よろしくお願いします。

○男性

教育問題については、プロではないのでよくわかりませんが、今日、出席させていただいて、やはり統廃合というのが行われるということは、児童生徒数の減少とか少子化ということが原因としてからんでいるのではないかという気がします。しかしながら、もう一方でそういった子どもが少なくなっていって統廃合の検討をしなければいけない背景には、そのまちの発展性が将来どうなっていくのかということが非常に大きな課題になっていると思う。私は20数年前にこの山武というのは、非常に住みやすい、非常に気候も温暖であり、首都圏にも近い、産業についても農林水産業、林業が特に盛んであった。そういういた恵まれた自然環境の中で生活がしたいということで山武市にきた。ところが、最近の状況を

聞いていると、山武市はどんどん人口が減少して、いずれ近いうちに山武市がなくなるかもしれないということで、近隣と再度統廃合という問題に発展しかねないと言われています。私は決して、そんな形になってもらっては困る。この山武市をぜひ活力のあるまちにしていきたい、こういったことで教育問題とも非常にからんできており、重要なことだなと思っています。資料の中で、山武市まち・ひと・しごと創生総合戦略というものが出ています。私もこれについては関心があって、去年、区長をやっていたときにこの件についていろいろ意見を市に出させていただいた。やり方について、もう少し組織的に市民、行政、市議会などが協力して分科会等など作るなどして問題点について前向きに対処していくように組織的な動きをしたらどうなのかというお話しを担当部門にさせていただいた。その時の答えですが、非常に理想的ですがわれわれはそれだけの余裕はありません、上から指示されたことについてはやりますけど、前向きに分科会をつくったり、専門部会をつくってまちの活性化提案について取り組んでいく余裕はありませんと言わされました。その時に、ああそっか、そういう姿勢でやってたのではこのまちの将来は期待できないなという気がしました。しかし、今私が感じているのは、この山武市というのは一番恵まれた環境にあると思います。両サイドに成田空港、羽田空港といった両翼をもって、隣が東京という立派な首都を抱えているわけです。したがって近隣の各都市と連携をとってやっていけば、山武市はまだまだ活力のあるまちに育っていくのだろうと思っている。そういう取り組みをどういうセクションでどのように進めていくつもりなのか、たたき台ができているので進めていただければいいと思うのですが、やはり市民の方たちに関心をもっていただけるようなプロジェクトの推進とかそういう進め方をしていく考えが行政の方にあるのかどうか、それを聞いておきたいので教育問題と離れると思うがお願いしたいと思います。

○企画政策課長

この戦略に関しては、企画政策課が担当して進めてきております。またいろいろな施策に関しては担当それぞれに進めていくというものとなっています。先ほど、お話しのありましたような内容については、聞いていなかったのですが、大変申し訳なく思っております。せっかく提案していただいたのに、それは難しいと、ただ、この戦略をつくるにあたっては、期間が短かったのですがその中で外部のみなさまも参加していただいて、検討する会議も開催しましたし、ワークショップ等で市民のみなさまの意見を伺うことも短い期間だったので何回もできなかったのですがそのようなことをやってきました。そういう中でまとめあげたものなので、またこれからもそのようなことを続けて、みなさまと情報を共有しながら、絵に描いた餅にならないような戦略で進めさせていただきたいと思いますので今後ともご協力、ご指導をお願いしたいと思います。

○市長

今課長の方からお答えさせていただきましたが、実はこの頃の国の施策というものは、地方自体の方から言わせていただければ、非常に唐突に出てまいります。非常に短い時間で何かをやれと、しかも、こういった形でまとめるのを2、3ヶ月の間にまとめて、それを国が認めたところにさまざまな手当を出しますよと、いうようなものすごく短い時間で何かを、どちらかというとクリエイティブなものを示せと言われることが多くなってきました。そういうことで私たちは職員の間でできるだけ未来を想定するように、少し近未来において何が起こるかということを早めに想定していかないと追いついていかないという時代になってきたというふうに思っております。もし、なかなか時間がないので上から言われていることだけやってますという職員がいたなら、大変指導力がないことで申し訳ないと思っておりますが、できるだけそういうことがないように頭をやわらかくして、先に向かって進むように全員で取

り組ませていただきたいと思います。山武市ほんとにいいところであるのですが、私の考え方として資本主義の世の中が進んでくると、どうしても集中という現象がおこってくるように思います。お金がお金を呼んでお金があるところにお金が集まるようにどうも日本の社会そのものを東京にどんどん一極集中、これもおこっている。これはこういった世の中が成熟していくとどうしてもそういう現象がおこつてくるのかな。ですから、お移りおいただいた時は山武市もその当時は東京圏と言ったと思います。ところが今、東京圏というのはもっと小さくなつて、私こういつも思うのですが、東京に昔あんなにたくさん高層建築がございませんでした。東京に行くたびに思うのですが、また高層建築が一棟建つたな、どこかの村ひとつがつぶれるなどそんなふうに思います。つまり、東京が高くなっただけ、地方が東京圏から外れてしまうという現象がおこっている。そういうことで当山武市も非常に苦労しているというのが現状だと思います。これをこのまま見過ごしていくわけにはいかないので、やはり私たちはこの地域としてどういうふうに生き残っていくかということで今回の地方創生を考えていかなければいけないと思っています。そういう意味でお話しいただきました成田空港がこんなに近くにありながら、このポテンシャルを山武市としてほんとに協力しているかどうか、それを積極的に活用できているかどうか、ということはやはり国や県が何かしてくれるだろうということではなく、私たち山武市として成田空港圏にあるのだから、ここの空港圏をもっともっと活性化しようということを今山武市からも発信して提案をさせていただいて、この成田空港を核とした地域そのものの活力をあげていく、その一員として山武市をもう一度繁栄していこうと、ですからこのグローバル化という考え方も成田空港という国際空港を最大限活かしていくためには、その近傍に住む次の世代の子どもたちが成田空港でも十分活躍できるように、あるいはそこから飛び出して世界で活躍できるように、こういう子どもたちに育ってほしいという思いがございます。そういう意味で今回の地方創生において、成田空港の空港圏を活性化していく、繁栄させていくということを山武市としても強力にみんなに呼びかけをして地方創生に入っているところですので、なんとか、ある意味で東京に頼らなくてもいけるぞというぐらいの意気込みでやっていかなければいけないというふうに思っていますので、またお力を借りて、今後もぜひご提案いただいて、これからもよろしくお願ひ申し上げます。ありがとうございます。

○最後に教育長あいさつ

本日は、たくさんのご意見をいただきましてありがとうございました。今後の計画の詳細を検討していく中で、いただいたご意見を十分にいかしてまいりたいと思っております。今回、お示しいたしましたこの計画は、教育環境を第一に考えました教育委員会のプラン、考えに、現在の様々な条件等を加えまして、今現在で判断できるもっとも良いだらうという案を出させていただきました。しかし、社会状況の変化によって、変わってくることも多々あると思いますし、また、何よりも地域の皆さんのご理解が重要だというように考えております。この計画案について、皆様方が考えていただきますことが、子どもたちの未来と地域の将来像をしっかりと見つめ直す、きっかけになってもらえることを期待しているところでございます。本日はどうもありがとうございました。

山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（案）に関する「意見を聴く会」の概要

期 日：平成 28 年 2 月 7 日 午前 10 時～

場 所：成東中学校体育館

対 象：成東中学校区

参加者：24 名

○市長あいさつ

皆様おはようございます。大変お寒い中をお集まりいただきまして、山武市の小中学校の、平たく言いますと統合問題についてのご意見をいただく機会を開催いたしましたが、こんなにご参加をいただきましてありがとうございます。私の方からは、少し大きなところからお話をさせていただきたいと思いますが、ご承知のように山武市内にあります二つの高校の中で、松尾にあります松尾高校が昨年のちょうど今頃、ちょうど一年近く前になりますが、3月 31 日にスーパーグローバルハイスクールという、大変な難関を突破いたしまして、全国で 56 校の指定の中の一つに加えていただきました。なぜ、松尾高校がこのような難関を突破できたかと言いますと、その研究のテーマがですね、グローバルエイジング、地域初のグローバルエイジングを勉強するんだというテーマでございました。つまり高齢化というのは、今や人類全体の問題であるということで、日本では筑波大学が中心となりまして、そういった研究が進められております。文明が進むにつれて、保健衛生の施策も進みますし、医療も進歩したということで、子どもたちの年代で、昔ですと様々な病気で若いうちで亡くなる方もいましたけども、今は一定の年齢まではだいたい健康で過ごせる世の中になってきたことで、どうしても人口構成が昔のピラミッド型から、釣鐘型に世界的に変わってきたという状況がございます。これがもしも昔と同じような人口構成で子どもがたくさん産まれてくれれば、人類は爆発的に人口増加をいたしますので、地球上から人類が無くなってしまう。ある意味では自己防衛を人類がしているということにもなるかと思います。そういうふうに考えますと、出生率が低下をしていくというのは、文明が進めば当然起こってくる現象なのだろうなと考えます。日本も先進国の仲間入りをして、長い年月が経ちましたけども、その間に大変出生率が低下をいたしまして、むしろ人口が減少する、子どもの数が少なくなってしまった。このような大きな問題を抱えてしまいました。私たちの山武市といたしましても、今、こういった問題に直面をいたしております。これから子どもの人口が減っていく中で、どうしても今まで学校の数を維持していくことは難しいであろうと。いずれは統合をしなければいけないという事態を迎えているというふうに認識をさせていただきます。その中で、出来るだけ早く方向性を決めて手遅れにならないように、進めていこうということで、教育委員会の方で長い時間をかけまして、この適正な規模を探っていただき、このような案を皆さんにお示しする段階までいった訳でございます。統合を進めれば、それに伴いまして、いいことだけではなく、一番懸念されますのは例えば、子どもたちのご自宅から学校までの距離が伸びるであろうと。今、考えてもそういった様々な問題が出てまいりますが、今まで維持していくければいいのですが、なかなかそうもいかないという現実は、現実として受け止めていかなければいけないと思ってございます。そういった中で、この統合を通じまして私たちは、学校の数を減らして適正な規模にして、行政の効率を上げていけばいいという考え方ではなく、子どもたちが将来に向かう、次代を担っていく子どもたちにどのような教育をすることができるか、これからどんどん世の中も変わってまいりますし、私たちの想像を超えるような変化が、今起こってございますが、子どもたちが将来

生きる社会というのは、私たちが想像している社会の、もっと違うものになっていく可能性が非常に強いと思います。そういう中で子どもたちの能力を上げていかなければなりませんので、今、特に2020年にオリンピックを迎えて、日本は国際化の波が押し寄せてございます。あるいはコンピュータの文明がどんどん進んでまいりますので、そういうたなを子どもたちに身に付けてもらわなければならない。何とか新しい教育を探っていきたいと。そういうことを私たちとしては適正化の中に、大きなテーマとしてしっかりとその中に織り込んでいきたいと考えてございます。そしてまた世の中全体が小さくなりまして、山武市の行政も教育問題だけではなく、財政的にもこれから大きな問題を抱えてまいります。あるいは人口が減っていくことを、ただ単に手をこまねいているだけではなく、何とか回復させるためにはどうしたらいいかということで、ただいま地方創生のプログラムを組んで、この地域の活性化をしっかりとやっていこうと。そのような動きを大変活発にやってございますが、そういうことも併せて、ご説明をさせていただき、現在抱えております地域、山武市の問題を、ご認識をいただく中で、教育問題につきましても、出来るだけ前向きに子どもたちの将来のために、市民の皆さん方もお考えをいただく機会とさせていただければ、大変ありがたいというふうに申し上げます。時間的に十分とれないことになるかもしれません、精一杯子どもとしてもお答えさせていただきますので、よろしくお願い申し上げてご挨拶といたします。

○教育委員長（高柳委員長職務代理者）あいさつ

おはようございます。今日はお忙しいところご参加いただきありがとうございます。特に私の若いころから学校を色々支えてくださっていた皆さん、参加してくださっていることをとてもうれしく思います。どうぞよろしくお願ひいたします。テレビで白熱教室というのがあるのですけれど、たまたま一昨日の夜、ちょっと見ておりましたらば、心の回復は経験によるというふうなことで、心と脳の白熱教室ということで、エリ・ス・フォックスさんという方が、熱弁をふるっておられたのですが、色々な苦しみにあったときにそれを乗り越えられるかどうかというのは、その人がどれだけの経験をしていたかというふうなことで、かなり決まってくることが多いと言われていました。私もより多くの人と接し、多くのことを経験することの大切さというのを感じてきているところです。子どもたちがこの変化の多い時代を乗り切り、一人一人の力を伸ばし、そして共に生きる喜びを味わえる人生を送れる、のような子どもたちにするために、私たちはどのような環境を提供できるか、お互いに考え合いたいと思います。皆さまの建設的なご意見をお聞かせいただきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

○説明の冒頭で、教育長から教育委員会の考え方、今後の方向性を述べた。

どうもみなさま、今日はありがとうございます。具体的な小中学校の規模適正化。適正配置基本計画の説明をするにあたりまして、教育委員会としてどう考えているのか、今後の方向性について簡単にまとめさせていただきます。今、社会の変化がほんとに早く大きくなっている中で子どもの数がどんどん減ってしまっていることはみなさんご承知のことだと思います。これは、山武市に限らず日本の国全体での流れでございます。市内では既に複式学級にせざるを得ない学校も出てきておりまして、今後の児童生徒数の推計を見ましても急を要する課題となっています。そこで、適正規模・適正配置について山武市内全体を考えながら検討してまいりました。しかし、少子化だけではこの計画の本にある訳ではありません。そこには、グローバル社会の進展により世界中のさまざまな面で境界がなくなってきたり、その中で経済的にも人的にも世界を相手にして考え行動していく必要があること。また、高度情報化社

会の進展によりまして将来の仕事が大きく様変わりしていくそういうような予測困難な社会を迎えるとしていることなどがございます。これからの中もたちは、今まで私たちが受けたような学校教育では対応できない社会を生きて行かねばなりません。求められる能力が大きく変わっています。それは今までのような受け身の学習ではなく、自ら課題を発見し、解決していくことのできる能動的な学習であり、アクティブラーニングというような取り組みでございます。このアクティブラーニングとは、課題の発見、解決に向けた主体的・協同的な学びとしてグループ学習やプレゼンテーションなどをとおして行われるものでございまして、ＩＣＴ機器を十分に活用していくことも必要になってまいります。このような学習をとおしてコミュニケーション能力、コラボレーション力、課題解決力など、今、21世紀型スキルと言われる能力を育てていくことが求められているところです。資料の1ページ目の最初に示しました、「今後の社会の変化に対応する力を身につけるため」というのが私たちの大きな目標であり、これからの中を生きる力になるものと考えています。もちろんそこには今までとは変わらぬ人間社会で必要な道徳性や社会規律なども基本的な資質として備えていることが必要なのは言うまでもありません。そして、これらの力はより大きな集団の中で自分以外の多くの意見を認め、自分の考えを大きく広げながら学び合うということでおわられる力でもあります。教育委員会といたしましては、1ページの最後にあるように、「多くの意見を聞き、自分の意見を言える子ども」、「自分とは違う価値を知り、自分自身を深く理解する子ども」そんな姿を目指しながら明るい未来を築いてくれる子どもたちを育てていくために今回の基本計画をつくりています。基本計画（案）は現在の状況から市長部局とも調整を進めながらまとめたものですが、長期の計画でもございますし、予測困難な社会になってくるというようなお話をしましたとおり、様々な要因から計画の変更が出てくる可能性もございますが、基本的な考え方は、子どもたちの未来というところにございますので、皆様方にも十分ご検討いただきたいと思います。ぜひよろしくお願ひいたします。

※以下、事務局説明は省略※

【意見内容と回答】

○男性

この説明会の参加状況ですね。事務方の皆さんはどうお考えですか。参加人数。まず一つですね。伺いたいと思いますけどね。毎回このような状況のような気がするのですよね。だからもう少しやり方を工夫されて、特にこの教育問題というのは非常にデリケートな問題がありますから、本当に小さな単位で、例えば、まちの公民館単位とかを使ってやるという方法も一つはあるのではないかと、私は思いますけど、まずその点。それから色々と多岐にわたって質問したいこともあるのですけれど、一つはですね、あり方検討委員会の方で、色々検討されてですね、教育委員会の方で成案が、それがなされたということなんんですけど、その辺の経緯の説明がちょっとなかったんですけど、まずその辺を説明していただけませんかね。どういうところが、素案から修正されて、成案にいたったのか、あるいはその素案に対して、付け加えたものがあったのかということですね。その点と、それから財政の説明がたった今ありましたけれどですね、今回の統合案がどの程度財政の負担に寄与するものなのかと、その額を示していただきたいと思います。それから、創生戦略会議ですか、その中で話されている人口増ですね、これは喫緊の課題だということが言われましたけど、この統廃合の案は人口減に拍車がかかる案ではないでしょうか、これは。と申しますのはですね、廃校になって人口減に拍車がかかってくる例が、全国で

報告されていますよ。これは。この辺のところは当然ご存じでしょうね。その辺についても質問します。それから人口増を図るうえで、ワークライフバランスというのですか、それを希望している人たちがかなり都市部にはおりますね。そういうものを取り込む案というのは、あるのでしょうか。その辺についてもお伺いします。それから、これはちょっとデリケートな問題もあるんですけど、複式学級が全面的に否定されてしまって、なぜ複式学級がいけないのかというような説明が、このリーフレットを見ても伺うことが出来ない。その辺のところもお答えいただきたいと思います。それから成田空港圏のですね、潜在性を取り込むんだと、というようなことを今、話されましたけれど、ビジネス環境づくりの中で産業インフラですね、それをどう進めていくのかと、これは不可分の関係にあると思うんですよ。その辺の説明もなされていない。ちょっとその点についてお伺いしたいと思います。以上です。

○教育長

まずですね、今回確かにこのような状況になっているというのは、大変私どもとしても寂しい状況でございます。昨年、基本方針についても同じように、最初に各中学校区で説明をさせていただいたのですが、その時もやはり多くの方の参加はいただけませんでした。ですので、その後各小学校区単位、こども園等で、規模を小さくした単位での説明会を重ねてまいりました。それでトータルでは千名以上の方に聞いてはいただけてきましたのを除くと、そういった中で、この統廃合に関しましては、方針をお示しした時以上に关心を持っていただいているであろうと、我々としては思っていた訳ですけれども、そういった状況の中で、具体的な計画を今回お示ししている訳なので、より身近な問題として关心を持って参加していただけるのではないかというふうに考えていましたところでございます。周知に関しましては、この案内を学校経由で保護者の方たちにもお示しをしましたし、各戸に回覧等で配布もしておりますし、また、広報等でも十分な周知をしてきたつもりではございますが、結果としてこういう形になってしまったのは大変残念でございますし、また、それに対して新たな取り組みをしていかなければならぬと思っております。

○教育総務課長

あり方検討委員会から答申をいただいたて、教育委員会でその後の取り組みにつきまして、説明させていただきます。流れとすれば、今回の資料の15ページ、16ページに流れは記載させていただいておりますが、大きく変わった点というところで、答申の中でいただいた中で、具体的な組み合わせ、どういう形で規模を整えていくかというところで、ご提案いただいた、答申をいただいた中では、教育委員会に委ねていただいた部分について明確化していったところがあります。その工程につきましては、基本方針の中では、学校の今言っている組み合わせの部分でございます。小学校につきましては、13校を将来的には6校にしていく。その組み合わせについては、今回お示ししましたリーフレットにも書かれているこの組み合わせにするという所は、教育委員会で基本方針の中で明確にした組み合わせでございます。それと素案から基本方針の成案としたときの、違いにつきましては、今回の基本計画の案のリーフレット②のところ、学校規模の基準というところに書かれています望ましい学級数、この取り扱いがただし書きの部分を加えたというところが変更になります。クラス替えが可能な学級数を、望ましい学級数と素案の中ではしておりましたけども、地域の事情等を考慮して、複式学級を有しない6学級を下限の学級数としますという部分、複式にならない限り地域のコミュニティの問題であるとか、小学校ならではのきめの細かい教育という点も考慮して、望ましい学級数のところのただし書きを加えたというのが、基本方針の素案から成案に至る間の経緯となっております。大きな違いとすれば、その点が変わってくるところでございます。

○財政課長

学校に関する経費でございますが、26年度の決算におきましては、一般財源で小学校については3億2,800万円かかっております。そして中学校が1億7,600万円ということになります。学校の経費ですが、義務教という言葉のとおり、国の方から手厚く交付税措置されているところでございます。先ほどの小学校につきましては、3億2,800万円の経費が実際かかるのですが、これに対して交付税については3億2,400万円、ほとんど交付税が措置されているというのが現状でございます。中学校については、1億7,600万円の経費に対して1億7,100万円、交付税措置されるということになっています。学校の統廃合にあたりまして、統廃合することによって歳出ベースの方、実際経費の方が削減されていきますが、交付税の基準となります学校等の数が基礎となりますので、逆に交付税の方も減らされていくという形になります。従いまして、歳出も減りますけど歳入も減ってしまうということで、財政的なメリットは少ないという考え方でございます。あくまでも教育的な見地からの統廃合という考え方です。

○教育総務課長

統廃合を進めることによって、地域から学校がなくなる。そのことによりさらに人口減に拍車がかかるのではないかというご質問だと思います。確かにそういう側面はあるのかなということでの認識はしておりますが、教育委員会とすれば今の環境を将来的に見て、子どもたちの数が少なくなってくる環境の中で、先程お話をしていた中で、色々な角度で多くの選択肢を子どもたちの中に与えたいなと。そういうところの中から、どうしていったらいいかということで、今回の案を考えました。そういう中で教育委員会とすれば、まずは子どもたちに学ぶ環境を整えてあげて、その中で新しい取り組みをしていきながら、今後の対応が進んでくる難しい社会情勢の中で、生き抜いていく子どもたちの、この地域の中の子どもたちには力をつけていってもらいたいということから、今回の案を考えさせていただいたところでございます。

○学校教育課長

複式学級の部分につきましては、説明が不足していたことをお詫び申し上げます。まず、運営面での課題、それから学びの面からの課題があります。まず、運営面につきましては、教職員の配置に関わってきます。学級数に応じて教員が配置されますので、結果的に複式が一つできますとどこかの学年が一つのクラスになります。そうすると例えば5年生、6年生が複式学級になると、両方の学年の担当の先生が一人になってしまいます。そうすると授業をやるときに1時間の授業を覗いてみると、国語の授業を5年生と6年生がやる訳ですね。そうすると前半は5年生を対象に先生が一生懸命教えて、後半は6年生を教えると。というようなところでの、子どもたちにとっての学びの面での部分が厳しくなってきてしまうというのが、現状としてあります。また、学びの面でと申し上げましたけども、複式学級を有するような学校規模になってしまふと、児童数が10名以下というところがほとんどになってしまいますので、そうなってくると男女比というか、性差を問題にする訳ではございませんけども、男性が8名で、女性が2名だった、とかということでそういったそれぞれの固有の部分の中での関わり、とかが懸念されるところがあると。というようなところを課題としてとらえているところでございます。

○企画政策課長

成田空港圏の取り組みにつきましては、現在9市町におきまして、検討する会議を立ち上げまして、進めてございます。今年度に基本的には観光を中心として、進めていく形になろうかと思いますけども、今年度につきましては、9市町の観光案内を入れております観光案内用の雑誌を作成いたしまして、各地域に配布、または空港等に置こうと今進めているところでございます。

○男性

私一人で質問するのもなんんですけどね。ちょっと回答が回答になっていないようなところが結構あるんですけどね。例えば今の成田空港のですね。これ回答にならないですよ。例えば一例を申し上げますとね、3本目の滑走路ですね。まあ、成田がつくるというようなことで、これは有志の会が作られておりましてね、これに空港をとりまく各市町村が、山武市以外はみんな参加しているんですよ。この有志の会に。この有志の会が3本目の滑走路がどこがいいのかという検討をしましてね、この間4者会議というものが開かれましたよね。その中で本市では、中野副市長が参加されて、ところが他の自治体は全部首長が参加しているんですよ。4者で決められたことというのは、3本目の滑走路を造る有志の会がですね、その案を出した。その案がそっくり受け入れられているんですよね。だから、その有志の会に、なぜ我々の中から参加できないのか。そういう働きかけを市はしているのか。はなはだ私は疑問に思いましたね。まあ、複式学級についてもですね、ここでいろんな矛盾することが説明の中でなされていますよ。例えば複式学級の先生が、おっしゃることはよく分かりますよ。間接指導というのがあるんですよ、複式学級には。先生がつけない時間帯というのが、ここがポイントであってね、普通の生徒が先生がいないときの学習がどれだけ有効かという、こういう研究がですね、いっぱい報告されています。その辺についてもですね、もうちょっと勉強してお答えしてほしいというような気がしますけどね。ちょっと例を申し上げますとね、岐阜県の例なんですけど、岐阜県の賀茂郡白川町ということがあります、そこに白川モデルと言われる位のね、学校づくりをやった学校あるんですよ。この学校は色々な賞を受けています。数えきれない位の賞をいっぱい受けています。県や地方の。こういうところを見て来られたのかどうなのか。それからもう一つは廃校にした学校の校庭にですね、町営住宅を作りましたね、そこに子育て世代の、県外からそういう人たちを呼び込んで、学校を再開したと。という例がですね、これが熊本県の多良木町、これがですね本当にもう超限界集落と言ってもいいくらいのところですね。そういうところが学校再開して、人口増につなげる取り組みをやっていると。こういうね、色々な例を挙げたらきりがない位あるんですけどね、やはりこういうところも少し研究されてですね、本市の学校のあり方についてもですね、もう少し踏み込んだ案をですね、提出していただきたいなという感じはします。お答えいただかなくても結構です。

○市長

ご提案をいただきありがとうございます。ご質問の趣旨の中で子どもたちの教育に関わる問題と、それからどちらかと言いますと人口増を中心としましたコミュニティの問題を、ご提案いただいたと思います。様々な先進の例をいただきました。これは市としての施策の中で色々と、参考にさせていただければと思っています。一つだけ、成田空港の問題で有志の会の話を、なぜ山武市は参加していないのかということでございますが、有志の会はあくまでも有志の会でございます。私たち行政として、この空港問題は大変デリケートであります。3本目の滑走路というものは100%歓迎できるものではないということです。もちろん、空港の機能強化ということで、成田空港は生き残りをかけてやっております。そういう面では我々地域としても、成田空港の機能強化については応援していかなければならない立場にございますが、やはり滑走路が新しくできますれば、その下に新しく騒音の地域がまた出来ます。そういう問題をどのように地域として、これから受け入れていくのかという大変大きな問題でございますので、全て有志の会で「行こう。行こう。」という流れにですね、山武市として乗っているということではないことをご理解いただきたい。空港問題につきましては、4者協議会を中心としてやっておりますし、また様々な問題を自治体連絡協議会というところで、空港の振興策をどのようにやっていく

かを、ご質問いただきましたこれからの方創生につきましても、どのような手を打てるかということを具体的にこれから協力して、地域の連携の中でやっていきたいと。このように私共は考えてございます。滑走路の案もですね、有志の会から出たものではないと私は思います。あれはおそらく国、國の方の原案が当然あるということ。かなり専門的な知識が無ければ、どのような滑走路が一番いいのかということは出来ませんので、おそらくこれは國の方から、そういう案は一番最初に示されているのではないかと、そのように私たちは理解をさせていただいてございます。滑走路の問題は非常にデリケートでありますし、その前に成田空港も生き残りをかけていかなければならない。機能強化という中には、カーフューの弾力的な運用の拡大という、夜も飛行機を飛ばさなければいけないという問題がその前に出てまいります。こういった問題について地域としてはかなり慎重にその対策はどうするのかということをしっかりと求めながら、私たちとしては対応していかなければいけないと。そういう立場にございますので、空港問題については、成田空港がそもそも私たちの地域に与えてきます、経済的な効果を無視することはできません。その中で今、機能をかなり羽田の方にとられてしまっていることがありますし、さらに一番大きなアライアンスが成田空港から撤退するぞというような、かなり脅しに近いような、そういうような状況もあります。これは空港会社に言わせれば成田空港の機能が強化されない。競争力が保たれないのであれば、日本にいる必要はないという考え方も持っておりますので、無視することはできない問題であります。こういったことも含めて、成田空港の機能強化は、これは地域としても何とか受け入れていかなければならぬ立場にはありますけれども、そのことはこの地域に住む住民にとって、どのような影響を与えるかということについては、かなり微妙な問題も含んでおりますので、私たちは成田空港の機能強化は、自治体としても成田空港の経済に期待するところもありますから、これは積極的にお話し合いには乗っていきますけども、慎重にあくまでもやっていくと。そういう立場にあることをご理解いただきたいと思っております。

○女性

子どもは今、成東中学校の2年生で通わせていただいている。質問というかちょっと愚痴になってしまふかもしれないのですけども、せっかく参加したので、ちょっとお話をさせていただきます。昨年の3月に成東中学校の方で、ここを会場にして説明会があったときも参加させていただきました。その時に、ここでお話をさせていただいたのですけれども、統合の時に、単に人数の多い学校に統合するがないようにということと、それから子どもが学習するうえでより良い環境を考えて統合の方をお願いしますというお話をしたと思います。3月はちょっと皆さん忙しかったようで、ちょうど高校の卒業式と重なったりだと、そういう時期で参加が少なかったのかなと私は思っていたのですけども。参加しなかった保護者の方というか、ちょっと知っている方に私は参加したんだけどという話をしたときに、多分、だいたいもう決まってしまっているんじゃないのとか、成東中学校を建て替えて欲しいなとずっと思っていたけれども、それがかなわないで結局こういう形で、成東東中学校の方へ統合になってしまったという話があったので、ああそなんだ、という感じで私も思ったんですけども、まず一つ目の質問なのですから、リーフレットに書かれているので、成東東中学校と統合というのが決定事項なんですかね。ということと、それから決定事項だとすると、先程から環境を整えるというお話があるのですが、前回の3月の成東中学校を会場とした説明会のときに、じゃあせめてトイレはどうにかして下さいというお話が確かに出たと思います。統合するとなったら、あと7年位あると思うんですけども、その間に今のトイレ4か所ですかね、体育館、それと新しい校舎のところと、技術・家庭科室のところ、それから向

こうの校舎に一つあると思うのですけども、この学校は2階にトイレがないという状況です。うちは男の子なので、「トイレの数は足りてる。」と今日来るとき聞いたら、「大丈夫、だけど汚いのがちょっと。」ということだったのですけど。3月にお話があったときには、女の子が特に困るというお話が、たぶん小学校のPTAの方がいらしていたと思うのですが、お話をありました。母校がなくなってしまうのは個人的にはすごく悲しいのですが、せめてあと7年間の間に環境と整えると言って、トイレの方はどうなるのかなと。ちょっと気になっていましたので、せっかく参加したのでそちらの方を教えていただければと思います。よろしくお願ひします。

○教育総務課長

リーフレット、ここに書かれているそのもの、タイトルにも「案」ということで書かせていただいた内容から、教育委員会の中でも協議をしていき、市長部局と話し合いもして、どういう形が望ましいのかということで、考えた案がこちらに示されている、ということでございます。教育委員会とすればこういう形がいいと思って作ってありますけれども、今回のような説明会をさせていただき、これから市民の方のパブリックコメントでの意見をいただくこともありますでしょうし、そういうことの中から、改めて後で判断して、このままいくのか見直す点もあるのかを含めまして、検討させていただくというようなことでございます。2点目のトイレなんですが、私どもで28年度の予算の中で、まず成東中学校のトイレの改修のための設計を行います。工事そのものは、次年度の29年度に改修して行きたいと考えています。老朽化していたりとか、教育的に子どもたちの安全が保てないような状況というのは、統合するしないに関わらず、それは環境を整えて安全に学校に通ってもらえるような環境は確保していく、ということで考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

○教育長

今、トイレについて回答しましたけれども、併せてエアコンの方につきましても、整備をするように進めているところでございまして、環境整備については積極的に進めていきたいと思っているところでございます。

○女性

ありがとうございます。自分の子どもの時には間に合わないにしても、7年間の間に環境を整えていただけるというのは、とてもありがたいです。先ほど、「案」という話だったのですが、意見を言える場というのがこういう形になってしまふと、みんなの前で意見を言うのが、すごくドキドキだと思うんですね。私もすごくドキドキしながら、言わなければ後悔するかなと思って、今お話をしているんですけど、なので本音を話せる形をとるにはどうしたらいいのかなと考えても、みんなの前で意見を言うのはすごく難しいかなという感じがしました。すいません感想です。ありがとうございます。

○男性

ただいまご質問があったのですけども、やっぱり説明会のあり方というところで、もうちょっと小さい単位というか、例えば、小学校区単位でももちろんやるんですけど、やっぱり地域の方の考え方と、通っている生徒さんを持つ保護者の方の意見も大事だと思いますし、これから入学する方もいらっしゃるかと思いますけども、もうちょっと小規模な単位で説明会というか、意見を聞くという場を何度も設けていただけるということが大事だと思いますし、やっぱり私も小学校はというと、昭和の合併の時に旧山武が合併したという関係で、私は東金市の小学校に通ったという時期がありまして、実際、私は源

小学校という東金市の小学校を卒業して、新しい山武中に通ったという生徒なんですけども、そういうことを考えますと、廃校になるということが計画されているような、山武西小学校や山武南中学校の生徒さんとか保護者の方は、やっぱり廃校になるのはかなりこう、そういう意味では賛成なのかなって。確かに、実際に通っている方で人数が少なくなってしまうというところで、確かに授業とか大変かも分からないですけど、やっぱり小さい小学校なら小学校の良さがかなりあると思うので、出来るだけ継続していただけるような形をとっていいって欲しいなと思いますので、その辺ぜひたくさんの方の意見を聴いていただきたい、進めていただきたいということで、質問という訳ではないんですけど、意見として述べさせていただきたいと思います。本日はご苦労様です。

○女性

これを見ますと、蓮沼中学校は松尾中学校へ通うような形になるかと思うんですけども、蓮沼中学校の保護者の方ですと、成東東中学校に通いたいという意見の方がいたり、また、成東中学校では成東東中学校に通うのなら、松尾中学校へ通いたいという地区の方もいると思うんですけども、それはどのような対応をするようになるんでしょうか。希望が市の方に、学校入学前に出たときに対応していくようになるのでしょうか。あと、この話を聞きました時の、うちで子どもたちと主人を交えて話したときの感想なんですけれども、統合に関しては教師の数が少なくなるよりも、クラス数が増えて先生方が増えた方が、担当の先生が多い方が生徒たちはみな授業を比べます。比べられることによって、先生が授業を工夫されたりとか学校として質は上がるのではないかということで、統廃合に関してはみな賛成です。部活動がみな人数が少なくて、1年生で入学した途端にレギュラーという形よりも、競い合うことで向上することがあるのではないかということで、統廃合に関してはうちの中では反対意見は出ていません。ですがやはり気持ち的に成東中学校がなくなって、成東東中学校へこの地域が通うんだということにとても抵抗がありまして、私としましてはもう自分の子どもが卒業してしまうから関係がない、という気持ちは強かったんですけども、その先を考えると、自分の子どもたちが果たして大学に進学とか、就職している方もいますけども、県外に出ていた子どもたちが山武市に帰ってきてくれるのか。自分のところに将来的に帰ってきてくれるのかなという時に、母校がないというのはとても大きいということを言っていたんですね。子どもが。母校がなくなったにしても、自分の母校が統合することによって、新しく出来たというのと全く自分の学校がなくなって、成東東中学校へいったてしまったんだというのでは、全然印象が違うと。まあ、自分の通った成東中学校はなくなり、残っているのが成東東中学校となったときに、帰ってきたいという子、地元に残りたい、戻りたいという意識が薄くなるよね。寂しいことだというふうには話をしていました。何とかですね、今日は来てみて本当は一番参加している人数が多ければいいなと思ったのは20歳前後、成人式を迎えたあたりの子たちがもっと話を聞きにくればいいのに。これを聞いたときに娘にも友人を通じて、大学をよそに行っている子たちに参加してみればと呼び掛けてみればいいじゃないと。知らない子はたくさんいるんじゃないの。みんなこういう話に興味があるんじゃないっていう話をして、学校から配られたリーフレットを元に、ちょっとLINEなどで、みなさん広めたということだったんですけども、やっぱり決定事項だったらしょうがないじゃないって。もう変えられないなら行つたってしようがないよ、ということで来ないのかなと。保護者の方たちもやはりこう話を聞きにいかないと、意見がいっぱい皆さんあるんでしょうけれども、話を聞きにいかないことには進まないんじゃないって、個々では皆さん意見はたくさんあるんでしょうけれども、やっぱり見てみると、今これから山武市に税金を払う方、今払っている方、私もこれから15年

位しか税金払う機会がないんでしょうけれども、もっと自分より下の世代の人たち、話を聞きに来て欲しい人たちはなかなか来てくれていない。これ何とかならないかなというふうにも思いまして、区長さんとかを通して、例えば初集会とかでも言ってもらったりとか、こういう会がありますよとか、そんなときに渡していただくとか、そんなことはできないのかなとか。回覧とかで回っていてもよく見ていない方とかもいるかもしれないですし、もう少し、関心のある方はお互いにお母さん方、お父さん方が会った時に話し合いはしているでしょうけれども、何かもうちょっと皆さんが集まる場を作れたらなと思います。まとめがせんが以上です。

○市長

ご意見いただきありがとうございます。実はうちの子どももこの卒業生なので、統合の話をしたら、「えー。」というような話をされましたか、そういう心情的な問題というのは、当然のようにあります。もう一つ統合問題で私たちが一番難しいところは、親、あるいはその上の代かもしれません、昔からあった自分の地域の学校というのがシンボル的なものとしてのですね、大切さみたいなものがいつまでも残って欲しいということは当然そうだと思います。一方で、今日ご説明させていただく中で、財政課長も出席して将来こうゆう財政になっていくというのをお話させていただきますのは、教育委員会というのは予算というものを、教育委員会の方から要求はありますけれども、教育委員会にこれだけの予算を差し上げますという形にはなっていなくてですね、市全体の予算の中で今年学校を作れるか作れないかというのは、市全体の財政の中で決めていくというふうになる。教育委員会に予算の権限は持っていないことになります。ですから新しい学校を作るとか作らないとか、ということにつきましては、財政の担当、市長部局になります。こちら側の考え方方が非常に強くなります。そういう中で新しい学校を、今 19 校ありますが、これを統合していく中で、学校統合問題を解決していく一方で、今、山武市は学校だけではなく全ての施設が過剰にあります。それは 4 つの町村が一緒になったということで。これをできるだけ早く適正な数に落としていかなければ、どうしてもそこにあるというだけで維持費がかかってしまいます。ですがこれを有効活用できるものは活用していく。やめなければならないものはやめていくというようなことをしっかりとやっていかなければならぬ。这样一个ことからいたしまして、今回も新しい、例えば二つの学校を作るときに一番地域の理解を得やすいのは、真ん中あたりに新しい土地を求めて新しい学校を作る。そうしたら皆さん方の理解や得やすいかと思いますが、そういう財政的な考え方からいたしますと、今ある、市が持っている資産をいかに有効に使っていくか、という一方で大きな問題を抱えてございます。これを私たちとして教育委員会、最初からある程度お願いをしてですね、有効活用を図って欲しい。这样一个考え方をお示しさせていただいた中で検討していただいてございます。ですから基本的に新しい土地を求める前に、現在ある土地の中で、例えば、学校を少し改築することで何とかならないかということを十分考えていただいて、案を作っていたいということありますので、確かに廃校という問題は出てまいりますけれども、そういう中で案を作っていました、我々意見交換もさせていただいております。市長部局が、学校サイドと離れた場合には、どうしてもコミュニティを温存していきたいということからすれば、むしろ市長部局としては学校が小さくなってしまっても残して欲しいという皆様の気持ちは同じなのですが、一方で将来の財政の問題とかになりますと、これは一つの義務として、健全な財政を保っていくためには、学校の数もある程度統合していかなくてはならないと。しかしその中で今回は、将来に向けての子どもたちを育てていくということをさらに大きな目的として、今回の問題を適正規模の中でさらに教育をしていくということを

お願いをして作っていただいてございます。色々な問題があるので、必ずしも100%満足できるものには中々いかないということもご理解いただきたいというふうに思います。

○学校教育課長

学区の件でございますけれども、現在もいくつか申請を受けて、家庭の状況ですとか、住居の関係、引っ越しをするとか、教育的な配慮ということで様々な課題を抱えている方については、申請をいただき協議をして就学指定外の学校、要するに学区外の方の通学を許可しているところでございます。この統廃合がご理解を得て進んでいきます、というような段階になったときにつきましては、また幅広く変わってきてますので、再度そこは検討を十分にしていくべき案件だととらえておりますし、大切な問題であるという認識でございますので、基本的には隣接するような学区の所にお住いの方は、通学距離の問題でいけば、近い方がいいだろうというのは、あると思います。そういったことも含めて、統合準備委員会等で、様々なご意見をいただきながら、進めていけたらなというふうに考えているところでございます。

○女性

色々、教育的な立場から色々なお話分かりましたが、郷土愛というお話も出ていながら、先ほど自分の母校がなくなるという、ちょっと違うのかなと思いながらも、世の中の全体的な流れ、それや経済的なところから致し方ないと、認めざるを得ないところもあるのかなと思っております。その中でもやはり人としてはそんなに変わらないと思うんですね。色々なところを考えても、中学生になる時には大勢の人と触れ合っていく、さらに高校ではもっと大勢にというのはあると思うんですけども、子どものころに小学生、あるいはそれよりも小さい時には、自分がどれだけ認められているのか、自分が今ここにいるのは何なのかというところで、非常に愛されている、必要とされている、近所の人からも「誰ちゃん。今日は元気だね。」と声をかけてもらえる。あるいは学校はどこにあるのと言われただけで、この人は誘拐犯と見るような環境にはしたくないなと思っております。なので学校に上がってから、心がちょっと傷ついた子どもたち、あるいはその背景にある家庭、そういうものにもっと目を向けられる体制と作っていただけたらありがたいなと思います。また、中学校では勉強するにはとてもいいんですけど、先生方の負担をすごく感じます。一人が一人のひとを教えるというのはとても大きいんです。教科をびっちり教えなければいけないと同時に、部活の方で体力を使う、という意味で全部の部活とは言いませんけども、とても専門性を必要とする部活については、部活専門の臨時の先生がいるといいなと思っております。こういう時じゃないとお話できないので、ちょっとそういうお願ひをしたところです。すいません。ちょっと違うかもしませんが、よろしくお願ひいたします。

○女性

私のような年寄りがここに来るべきじゃなかったのかなと思って、玄関のところに立ちましたけれども、ちょうど私たち昭和9年生まれです。ここでほっとしたのは、校歌だけが残っております。ちょうど合併で大富中学校から成東中学校へ一緒になって、組合立という名前で、平野ヶ丘中学校という新しい名前を作って、校歌もあそこに展示されているような校歌、それから男の子の校章、それと女の子のバッジ、それだけを全校の生徒に提案してもらって、先生方に選んでもらったものが3点できた訳です。大富中学校はないのね、と言われたときは、どきっとしました。大富中学校はあったんですけども、校舎がありませんでしたので、その当時は、高等科というものがありましたので、その高等科のお部屋を

3つお借りしまして、そこで、忘れもしません。1学級72人です。先生、先日なくなりましたけど、なぎなたの棒を持って授業をしてくれていました。72人が1クラスの中に入ると、勉強どころではありません。女の先生が一生懸命やってくれているのですけども、中学1年、2年と過ごしてきましたので、ここへ来るときは新しい校舎を作るというお約束で村民は賛成したのですけど、事業が遅れまして来た時はまだ出来ていませんでした。今みたいにみんな太ってはいません。子どもですからかけ足をやります、みんな。廊下でかけたらミシミシという音でした。前にいらしゃる学校関係の人たちが、見に来てくれるんです。小学生・中学生だから落っこちないけど、大きい大人がかけ足やったら、ズボンと穴が開いてしまうような、そういう校舎に半年位かな、中学3年生を過ごしたんです。それから今、80歳を過ぎてクラス会をやり、同期会をやると人はみな集まってまいりますけども、大富の人は大富で集まる。成東の人は成東で集まる。80歳にもなると、中学校の容姿と今の容姿では全然違いますので、お話はしていますけれども、ちょっとトイレ行ってくるからと席を離れると、隣の方に今の方はなんていう人って聞かないと分からないです。ですから小さな学校から大きな学校へ一緒にしてくださるのは、私教師でしたのでうれしいのですけども、入ったあと何とか順調に1年間私たち平野ヶ丘中学校の生徒として、卒業しましたけれども、中身は大富中と成東中です。ですからやり始めたら、その期間までには何とかまとめてください。表に出るときは、平野ヶ丘中学校、教室に入ってしまうと、成東中学校、大富中学校、中身は一緒になれないんです。たった半年位では、私みたいにずうずうしいのは一緒になりましたけれども、仲良しになろうということができませんでしたので、今月の下旬に大富中学校時代の女の子だけでクラス会をやります。何とかやってください。みんなに会いたいので。そういうことがありましたので、今の合併と同じようなことではなく、合併と聞くと頭に当時のことが思い出されます。そうさせないでください。2町村よりももっと多い町村が一緒になる訳ですので、仲良く卒業できるようによろしくお願ひいたします。

○男性

色々ご説明の中で、財政的な負担とか、この案を作り出したということはある程度分かったんですけども、この計画案の中で通学距離とか色々とある訳ですけども、教育委員会さんの方ではですね、通学距離は概ね6キロ以内、中学生の場合。というような形でうたわれていますけども、この計画の中で、最大、例えば8キロ位の人もいるよとか、そういう内容というのはどの位、最大であるのか教えてもらいたいと思います。それから、学校は地域の中で防災とかそういう面もありますよね。成東地区が成東東中学校に移った場合にですね。例えば津波とかはないとは思いますけども、そういう影響とかはどう考えますか。そういうところを教えてもらいたいと思います。

○教育総務課長

私の方から通学距離についてご回答させていただきます。基本方針の中で示されています概ね6キロという距離はこれを望ましい距離として、それをベースに組み合わせを考えていこうということで考えてきた。その結果、この組み合わせになったんですけども、どうしてもやはりこれが4キロ、6キロの中になかなか収まらないところが出てしまう。けど、それ以上の組み合わせが出来ないという中で、今回こういう形でお示しさせていただいたということになっています。そういう中で、一番遠いところ、例えば成東中学校の組み合わせを成東東中学校でやった場合に、一番遠いところで約10キロ位の子どもが出てくる。そういう地域がでてくるのではないかということを想定しています。その中で、通学の足をどのように確保していくかということが、今後、統合準備の検討部会の中で、スクールバスを手配す

るとか、安全の確保を考えていくということでございます。他の組み合わせで、10キロを超えている組み合わせの学区もあります。6キロ・4キロに収まらない所が、各組み合わせの中ではそういう地区も実は発生してくるという形にはなっております。

○総務部長

先ほどのご質問の中で、例えば小中学校が統廃合した場合に、避難場所として指定している体育館等、こちらがすぐに解体するとか、そういったことはございませんので、当面は避難場所として利用することができます。ただし、新たな位置付けによりまして、従来の避難場所と比べて移動距離が遠くなるというようなことも出てまいりますし、また少子高齢化の部分の中で、大規模災害等ではこれから地域の皆さんとかの結びつきとかも大切になりますし、また日頃からそちらを強化していただくために、自主防災組織でありますとか、消防団であるとか、また地区的皆様が協力しあって避難行動がとれるような体制、こちらを今後構築してまいりたいと考えております。

○最後に教育長あいさつ

本日は、たくさんのご意見をいただきましてありがとうございました。今後の計画の詳細を検討していく中で、いただいたご意見を十分にいかしてまいりたいと思っております。今回、お示しいたしましたこの計画は、教育環境を第一に考えました教育委員会のプラン、考えに、現在の様々な条件等を加えまして、今現在で判断できるもっとも良いだろうという案を出させていただきました。しかし、社会状況の変化によって、変わってくることもありますし、また、何よりも地域の皆さんのご理解が重要だというように考えております。この計画案について、皆様方が考えていただきますことが、子どもたちの未来と地域の将来像をしっかりと見つめ直す、きっかけになつてもらえることを期待しているところでございます。本日はどうもありがとうございました。

山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（案）に関する「意見を聴く会」の概要

期 日：平成 28 年 2 月 7 日 午後 2 時～

場 所：成東東中学校体育館

対 象：成東東中学校区

参加者：18 名

○市長あいさつ

みなさんこんにちは。お休みのところまたお寒い中をお集まりいただきましてありがとうございます。このように教育問題につきましてのご意見を賜る機会を与えていただきありがとうございます。ご承知のように山武市は人口減少に大変苦しんでいる状況にございますが、これは子どもの数にも影響を与えておりまして、将来の子どもの数がかなり減ってまいります。この変化に何らかの形で対応していかなければならぬというのは、行政としてひとつの課題が生じているということあります。私ども地域社会を将来どのようにつくっていくかという中で今、地方創生のプログラムがというものが国の方から示されておりまして、それぞれの地域が戦略を練って人口増加策を示せというふうに言われております。山武市といたしましても積極的にこの地方創生に取り組んでいく所存でございますけども、どうしても人口増加策がある程度功を奏するといたしましても、これから 10 年以上にわたりまして子どもの数が減っていくというこの現象を食い止めるということは、なかなか難しい状況にございます。この状況を何とか、一番に子どもたちの教育を、子どもたちの将来に向かって、次の世代を生きて行けるような教育を保証できないかという考え方をとざしていただく中では今の学校数を維持することもなかなか難しいのかな。学校の数をある程度、減らすことはやむを得ないとしても、その中で教育の質そのものを向上させることも大きな目的に加えながら今回の適正化という案を教育委員会の方でつくっていただいてございます。将来の市の財政状況でありますとか、あるいは市全般にわたります総合計画もさまざまな形で影響を与えますので、今日はただいま取り組んでおります学校の規模適正化にあわせまして、今、取り組んでおります最大の課題でございます地方創生、まち・ひと・しごと総合戦略というものにつきまして少しお話させていただき、また、これから先の財政状況についても少しイメージをもつていただくために、財政課の方からもご説明させていただき、そういった中でこの教育問題ということも広い視野からお考えいただく機会になればなと思っておりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。今日はありがとうございます。

○教育委員長あいさつ

ご苦労様です。ほんとに寒くてなかなか元気が出ないかもしれません、寒さに負けないで過ごしていっていただければありがたいと思います。この会は、私は去年来ましたので、2回目になります。去年は素案の段階でいろいろお話をさせていただきましたけど、今回はそれらをもう一度教育委員会の中でもいろいろ練って、変更がありましたことも踏まえて今日のご提案でございますのでいろいろ聞いていただければありがたいと思います。実は今日の午前中、各一戸あたり一人ずつ出てくださいということで部落総会がありました。みなさんのところでもやっているかもしれません、約 60 人強が集まつたので、総会には私だけではなく、うちの部落には市議会議員さんもいらっしゃるので市政報告ということで少し時間をいただきました。その中で、先ほど市長がご挨拶いただきましたけど、山武市のも

ち・ひと・しごと総合戦略を取り組んでいますよという話とか、小中学校の規模適正化・適正配置基本計画もいろいろ論議してご提案していますよ、財政状況は厳しいですよとか市議会議員の先生にも話を聞いていただいて、私も適正配置の話があったものですから、地元のお母さん方がいましたので、いかかでしょうか？私のところの意見を聴く会は21日でございますからぜひ来てください。と話をしました。リーフレットが事前に配布されて、それなりに自分の地域のところは理解しました。もう行かなくてもわかりましたよ、と言われましたので、もう一度来ていただけるように声をかけてみようかなと思っています。いずれにしても、地元で話す機会があったので今日のテーマの三つの話ができました。みんなの地域でもそういった機会があったら、ぜひお話をいただきたい。こういうところでお話を聞いたことをまた地域でお話いただくと輪が広がるのかなと思っています。そういう中のひとつの機会であろうかなと思いますので、ぜひとも、今日はせっかくの機会ですので1時間説明は長いですけど、おつき合いいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○説明の冒頭で、教育長から教育委員会の考え方、今後の方向性を述べた。

どうもみなさまなん、今日はありがとうございます。具体的な小中学校の規模適正化。適正配置基本計画の説明をするにあたりまして、教育委員会としてどう考えているのか、今後の方向性について簡単にまとめさせていただきます。今、社会の変化がほんとに早く大きくなっている中で子どもの数がどんどん減ってしまっていることはみなさんご承知のことだと思います。これは、山武市に限らず日本の国全体での流れでございます。市内では既に複式学級にせざるを得ない学校も出てきておりまして、今後の児童生徒数の推計を見ましても急を要する課題となっています。そこで、適正規模・適正配置について山武市内全体を考えながら検討してまいりました。しかし、少子化だけではこの計画の本にある訳ではありません。そこには、グローバル社会の進展により世界中のさまざまな面で境界がなくなってきたり、その中で経済的にも人的にも世界を相手にして考え方行動していく必要があること。また、高度情報化社会の進展によりまして将来の仕事が大きく様変わりしていくそういうような予測困難な社会を迎えようとしていることなどがございます。これからの中もたちは、今まで私たちが受けたような学校教育では対応できない社会を生きて行かねばなりません。求められる能力が大きく変わってきています。それは今までのような受け身の学習ではなく、自ら課題を発見し、解決していくことのできる能動的な学習であり、アクティブラーニングというような取り組みでございます。このアクティブラーニングとは、課題の発見、解決に向けた主体的・協同的な学びとしてグループ学習やプレゼンテーションなどをとおして行われるものでございまして、ＩＣＴ機器を十分に活用していくことも必要になってまいります。このような学習をとおしてコミュニケーション能力、コラボレーション力、課題解決力など、今、21世紀型スキルと言われる能力を育てていくことが求められているところです。資料の1ページ目の最初に示しました、「今後の社会の変化に対応する力を身につけるため」というのが私たちの大きな目標であり、これからの中を生きる力になるもと考えています。もちろんそこには今までとは変わらぬ人間社会で必要な道徳性や社会規律なども基本的な資質として備えていることが必要なのは言うまでもありません。そして、これらの力はより大きな集団の中で自分以外の多くの意見を認め、自分の考えを大きく広げながら学び合うということで培われる力でもあります。教育委員会といたしましては、1ページの最後にあるように、「多くの意見を聞き、自分の意見を言える子ども」、「自分とは違う価値を知り、自分自身を深く理解する子ども」そんな姿を目指しながら明るい未来を築いてくれる子どもたちを

育していくために今回の基本計画をつくっています。基本計画（案）は現在の状況から市長部局とも調整を進めながらまとめたものですが、長期の計画でもございますし、予測困難な社会になってくるというようなお話をしましたとおり、さまざまな要因から計画の変更が出てくる可能性もございますが、基本的な考え方は、子どもたちの未来というところにございますので、皆様方にも十分ご検討いただきたいと思います。ぜひよろしくお願ひいたします。

※以下、事務局説明は省略※

【意見内容と回答】

○男性

一、二点お伺いいたします。まず、この基本計画を作るにあたりまして、教育委員会のホームページの中に、25人～30人ということが書かれていたかと思います。その25人～30人ということは、国からの今の教育制度の中の決まったことを、そのまま受けているのかなど。果たして山武市として、その辺が山武市でいかにそれが必要なのか、それが妥当なのかという検討はどういうふうにされたのか。という疑問を私は抱きました。それからもう一点、なぜそれを抱いたかといいますと、やはりホームページの中に残念ながら今、山武市の学習レベルといいますか、テストをやった結果が、あまり良くないと。国なり県レベルよりも低いということが、書いてあったと思います。その中で、この小中学校が合併をしていくと、小野崎委員長さんは地元だと思いますけれども、豊岡の子どもたちが松尾中学校に行つたときに、非常に優秀であるという噂を私は聞いています。これはかなり子どもが少ないところで、先生が集中的にかなり勉強をされて教えてている。その結果として小学校に行ってから落ちこぼれが出ないのではないかと思います。そのようないい利点もあるのにも関わらず、この問題を解決するのにどのような手立てを持っているのか書かれていません。ですからそれも考えた中で、やはりもう一度この合併に関しては、今日も残念ながら非常に少ない人数ですが、もっとみなさんにお集まりをいただいた中で、もっと深めた検討された方がいいかと考えますがいかがでしょうか。

○学校教育課長

学級の規模を25人から35人学級が適正ではないかというところの考え方のベースにございますのは、先ほどもこれからの学びのスタイルとしては、アクティブラーニング的な学習、要するにグループ学習、班学習を進めていくということで、この中でそのグループの友達、そしていくつかのグループがございますので、グループ同士の意見のまとまり等があります。そういう中で、グループ構成を考えたときに、5人一グループとすると、奇数のグループがあると最終的に一つの意見をまとめるとときに、3対2とかになります。そういうところも含めて民主的な部分で、結果的にもそういうところにも繋がってきます。ですので、そういうグループ学習の部分で、5人一グループで考えると5グループは構成した方が集団としての学習効果があるという考え方で、35人ということにつきましては、やはり奇数ということで35、5かける7で考えているところでございます。ただ、35人以上になりますと非常に厳しい状況もあります。ですので35人を超えた学級につきましては、今現在も市の方で派遣をしています、少人数指導講師、こういった方をそういう学級の中で35人を超えるところにつきましては、積極的に配置をしていくと。という考え方を持っております。また、テスト結果のことについてでございますが、学力・学習状況調査の結果の分かと思います。学力をどうとらえるかということになりますと、様々な議論がございます。確かにお話をいただいたとおり、山武市は県内の平均よりも、学力・学習状況調査

のポイント数では下回っている状況にございます。そこにつきましてはこれから学びの中でやはり少人数という部分、それは書類という形で提出したということがあります。学校が統合していって、クラスが増えても、学級一つの数というのが30人前後で収まっていくような状況が、32年度あたりになるとみえると承知しております。そういった意味で、ここにつきましても多くの児童を抱えるような学校については、少人数講師を今現在7名雇用しておりますけども、この前期計画で増やしていく、そういったところにきめ細やかな知識の定着という部分での、取り組みを進めていきたいなと考えているところでございます。

○男性

学校のことで、小学校の統合、南郷、緑海、鳴浜、これは後期計画で、38年度以降ということですね。38年度まではこの学校ですか。今の。そうすると中学校の方は、35年度に成東東中学校と成東中学校が一緒になると。これはどこの校舎を使うのですか。

○教育総務課長

中学校については、成東東中学校を建て直して間もないで、この学校は新しいのでここが使えるので、成東東中学校の校舎を使ってやっていくという案をここに書かせていただいたということです。

○男性

小学校はどの辺になるのですか。統合すると。

○教育総務課長

小学校3校の組み合わせ、今年度の計画の中で、いい学校今の考え方と同じようにやっていくとしたらこの3校の中で使える学校の中から学校を選ぶという形になるかと思いますけども、それは36年度以降の後期計画の中で、お示ししていくという形になります。今のところ、学校がどこかということは後期計画分については未定となっています。

○男性

中学校が成東の方に行って、3つの小学校がここにみんな集まるというふうに聞いていたんですけど、それは違うのですね。

○教育総務課長

これまでの話し合いの中で色々なパターンを考えていった中にも、一つの案としてはありましたけれども、今回学校の位置を決めるにあたって、先ほど申し上げたとおり、財政的な視点からも含めて考えた中で、この組み合わせの中で使える学校を使って、新たな土地を求めて新しい学校をつくるという考え方だと、後々、財政的な負担ができなくなってしまうので、使える学校を使うという案を今回お示しさせていただいたというところでございます。

○教育長

いくつか補足させていただきます。まず、南郷、緑海、鳴浜の小学校の件ですけども、今、課長から説明があったとおり、教育委員会として色々な案を考えた中では、一緒に統合した後ですね、成東東中学校を使うという案もございました。色々な検討を進めていく中で、基本方針を皆さん方にご説明を申し上げ、色々な意見を聞く中で、地域の小学校はなるべく残していくというご意見をいただいた中で、今回お示しした複式学級の解消を第一に考えていこうという方向性が出されましたので、それを優先してやっていくという形の中で、まだ複式にならない学校についてはなるべく地域に残していくということで、時期も後にもってきていると。そういった中で、中学校につきましては、成東中学校の老朽

化という問題が非常に大きくなってきて、早急に対応しなくてはいけないという中から、新たな学校がつくれればいいんですけども、先ほど来お話をしていますように財政的な問題等々で、新たな形である学校を建てることができないという中で、この成東東中学校の施設がまだまだ使えるので、ここを利用していくってはいいのではないかということで、現在考えられる状況の中では、これが一番であろうということでお示しをしているところでございますが、元々の教育委員会の目指す姿、適正規模を優先させられるのであれば、今言ったようなお話を時期も前後するようなことは、考えられないことではないかと思っておりますが、そういうことでございます。先ほどの豊岡小学校が優秀であるというお話をありましたけど、確かにそのとおりでございまして、少人数の指導ということがいいというふうにも言われておりますが、きめ細かな指導ができるという点におきましては、少人数指導は大変有効なことであろうというふうに思っております。ただ、最初にご説明しましたように、学力向上は大変重要なことなのですから、今後求められる能力としては、その学力を活かして、あらたな課題を自分で発見し解決していくような能力ということで、アクティブラーニングというような、先ほど説明があったグループ学習、そういうことを目指していくという方向になってきておりますので、ただ単に今までと同じような学力、知識を高めるだけではなくて、そこからさらに発展させた能力をつけるという意味では、ある程度の規模が必要であると考えて、進めているところでございまして、少人数指導というものを入れることによって、今おっしゃられているようなデメリット部分は解消していくような手立てをしているところでございます。

○男性

中学校の統合ということについて、私の見識が間違っていれば失礼しますけども、おそらく今の小学校1年生が中学3年生になったときに統合をするということでよろしいでしょうか。そうですよね。教育長さん、少なくともその辺のことは分かっていらっしゃるかと思うんですけども、小学校1年生が中学3年生になる時点で、成東中学校と成東東中学校という計画でございますよね。その前提の中で、やはり中学校3年生にとって、4月から入学する1年生が2年生になる時点ということになる訳ですけども、この子たちは中学校に上がる時点で、一度よその学校の子どもたちと一緒になるという、おそらくそこで色々なショックを受けて、戸惑うことがあると私は思います。また、これは特に今の小学校1年生は、中学3年生は今の教育制度の中でいけば、進学という問題がからんできます。そこへの対応ということは、細心の注意を払っていただかないと、非常に子どもたちの将来に不安を残すのではないかと思いますが、それについての今現在で、どういうふうに教育長さんなりが、お考えを持って進めたいと思っていらっしゃるのかお聞きしたいと思います。

○教育長

統合の時期で、ショックを受けるということにつきましては、確かに子どもたちにとっては、大きな影響を与えることになるかと思いますが、この年度をずらすとしても、どうしても連続してどこかしらでそういった。

○男性（マイクを持っていないので、聞き取れず）

（趣旨）年度は関係ない。ショックを受けるであろう子どもたちに対して、どのような対応を考えているのか、スムーズに統合するにはどのような方策を考えているのかを知りたい。

○教育長

ご意見に対しては、この場でお受けして詳しい今後の検討の中で、そういった問題も解決できるよう

に専門部会等々、色々な場面で考えていきたいと思っております。

○男性

私は、緑海地区で商いを行っているうえで、実際にあったお話なんですが、成東エリア、津辺や真行寺方面に行った時に、「何で緑海の業者から物を買わなきゃいけねえんだ」というような言い方をされている方が、未だにこのご時世にいらっしゃる訳です。確かに、緑海地区は昔は経済能力が低かつた歴史があると思うですが、そのような中で、学校を統合するにあたって、道徳性やいじめ等、そういうふうな家族内で、そういう意識をもった人間がいること自体について、スムーズに行くのかなという部分のクエスチョンがあるんですが、そこら辺はどうお考えですか。

○教育長

今いただいたようなご指摘までは、ちょっと検討はしておりませんが、そういった課題があるとすれば、そういうものを解決する方向で、今後、我々も考えていきたいと思います。

○男性

私は、これで3会場に参加して、出席の皆さんからのなかなかいいご意見を伺っており、考えさせられている訳ですが、まだ他の方も、疑問点やご意見をお持ちの方もおると思いますので、ちょっと私が気が付いた点を述べさせていただきます。先ほど、成東中学校区での説明会で、ちょうど野球部生徒が練習をしていましたので、顧問の先生に部員は何名ですかと聞いたところ、8名ということで、ただ、この資料には11名となっていて、ちょっとこの資料もずれてきている訳です。この部活の資料をみると、どの中学校も野球部は全然活動をしていないところが多いようである。これは、私の孫の話だが、幸い陸岡小の3年生で、成績はいいが行動面に問題があって、市の教育相談などにお世話になっているが、幸い陸岡小の校長先生以下、教務主任の先生、受け持ちの先生たちが親身になって、指導していただいている訳で、野球のほうもやって、これは社会人教育でご厄介になっているんです。昨年9月議会を傍聴したときに、和田議員のほうから、和田議員は少年野球の指導もやられたり、将棋の指導なんかもやられていて、私の孫も成東の中央公民館で、和田議員に将棋を教わって、これに非常に興味を持っている訳です。和田議員がその議会で、こういう社会教育に対して、市のはうの予算措置が少ない、私が自費で将棋盤とかを用意したという話がありました。私の孫は、今日も山武中の隣のグラウンドで野球の練習をしている訳ですが、ニュージーランドでは学校教育の中で、サッカーだとラグビーなんてものは、ほとんどやっていないんです。土曜日、日曜日に、地区の社会人が指導している訳である。ということで、お伺いしたいことは、市の補助金等はそういう野球なり、あるいは将棋なりを指導してくれているところに、出してもらえないのかその辺についてお伺いしたいと思います。それから、何かこの説明会を3会場にお伺いしているが、肝心の学校の先生方の姿が見えない、声が聞こえない、それはどうなっているのか。どういう形でこの案をつくる時に、学校の先生方が参画して、その先生方の意見を取り入れているのか、それについてもお伺いしたいと思う。

○教育部長

一番目の補助金の件については、ご意見としてお受けさせていただきます。

○教育総務課長

学校の先生方のご意見につきましては、学校の規模適正化・適正配置の基本方針をつくるまでの、一番最初の段階のあり方検討委員会という会を立ち上げて、今後の山武市の中学校のあり方について、

教育委員会から諮詢させていただいた、その会の中の構成員として、学校から校長会を代表して、先生方に入っていたといったところで、その会の中でご意見をいただいたということです。あと、先生方も含め、保護者の方、地域の方にアンケート調査をさせていただいた、その中からご意見をいただいたという形で、ご参画いただいているところでございます。その中の意見を参考にさせていただいて、この基本方針をとりまとめさせていただいたということになっております。

○男性

何か納得できない点もありますが、ご説明いただきましてありがとうございます。もう一つ質問させていただきます。ALTの問題が昨日の説明会で出ていましたが、これは、文部省で始めたのはJETプランということで、最初は始まって、名称はAETがありました。それが今はALTということで、これは、かなりの考え方の違いがでてきていると思う。JETプランやAETの千葉県の成り立ちはいろいろあり、ALTに至るまでいろいろな経緯がある。ALTの指導者についてもいろいろあり、現在は業者からの派遣と聞いているが、山武市はどこの業者からどういう形で今のALTを雇っているのか状況を教えてほしい。

○学校教育課長

ただいまのALTにつきましては、山武市の場合、民間の業者の方からの派遣できていたらいいです。実績等がしっかりとあるということと、各学校に派遣されている際に学校の先生方、子どもたちの反応を見て、きちんと教育委員会に報告していただき、業者の方に改善点を求めていくというような働きかけで現在、インタラックというところから派遣していただいております。

○男性

山武市の理想とする教育の実現ためには、今日いただいた資料の2ページから4ページのことが柱となる、そのためには適正化が必要だろうということについての趣旨はよく理解をしました。そういう中で要望になるかと思いますが2点ほどお願いしたいことがあります。ひとつは、もともとこの適正化の問題というのは、やはり少子化の問題がいちばん大きな問題であるということ。先程、冒頭で説明いただいたアクティブラーニングにも含まれると思いますけど、その背景となるものについては企画政策課長が資料の11ページで示していただいて、その中で若い世代が再び生まれ育った山武市に誇りを持って戻ってくることが重要であると、それから新たに市民になる方も山武市を愛して地域に貢献したいという意識を持てることが必要だと、これは非常に教育に期待する部分が大きいというふうに思います。そこで、教育委員会として、市としてこういった大きく市が捉えている方向性について、何か特別にそこの部分について、山武市に根付いてもらう山武市を愛してもらう、一生ここで暮らしていくという山武市独自の施策といったもの、ぜひとも柱に盛り込んでいただき、各学校で実現していただきたい。教育は実際、各現場において任されている、やはりそこは山武市としての将来を考えた時には非常にある意味では戦略的に将来の山武市のことを考えていかなければならぬという中では位置付けられているというふうに思いますのでご検討をいただければと思いますし、教育委員会制度が変わって市長さんのご意見が教育にも反映されるというふうになってまいりましたので、市の抱える、あるいは市の将来展望、市としてお考えいただければなど、教育に対してビジョンを示していただければなというふうに思っています。もうひとつは、適正化とは特に関係ないと思うのですが、子育て世代の支援ということにかかわっては、やはり継続性、一貫性、あるいは一体化ということで、行政組織の方も、例えば窓口に行って、保育に係ることは福祉関係に行ってください、教育に係ることは教育委員会に行ってくだ

さい、そういったことに現実はなっていると思う。これは、市は当然それぞれの分掌があって、私はしかるべきだと思いますが、これから将来にかかるわ、子育てにかかるわ、要するに地域を背負っていく子どもたちにかかることについては、そのあたりの整理についてはぜひともお考えいただければなと思います。よろしくお願いします。

○市長

先生ご意見ありがとうございます。子育ての窓口というか一本化については、先生にもいろいろお骨折りをいただきて先生のお考えの方向にぜひとも進めたいなど市長部局としては思っているところです。実際にやってみて、やはり縦割りの中でなかなか難しい面もあると思いますが、できるだけ保健福祉部局と教育部局が何か縦割りになっているという弊害はなくしていかなければいけないというふうに思いますので、組織の面でもできるだけそういう方向に向けて努力していきたいと思います。今回、私どもが地方創生の中でシティプライドということで、やはり地域に戻っていただくということは大きな施策に掲げなければいけないだろうということでこのようなシティプライドをいちばん上に書かせてもらっています。地元の高校をどのように守っていくかということで、松尾高校SGHの取得に向けて、市としても県立高校ではありますが、市がかなり力を入れてバックアップをしてきた経緯があります。その中で、私どもが理解したのは、もう既に高校間でも生徒の奪い合いが始まっていると、特に人口が少ないところでは非常な危機感を持って、独自の教育を考えていくという、全国から生徒を集めていこうというような動きが活発に行われているということが、市のといった松尾高校のSGHの応援の中でわかつてまいりました。むしろ、今、県教委よりも私どもの方がそういった意味では、高校の将来についての危機感とういうものを強くもたらしていただいている。そのように思っております。そういった中で、高校を存続させるためのグローバル化ということが、当然高校はグローバル化をしなければなかなか生徒が集まらないだろうということから、そういう施策をする中では義務教の方でも同じような方向性を持たなければいけない、いうことが当然しだいになってまいりますので、そこで義務教の方でも強くグローバル化に向かっていこうという施策が出てきたというところでございます。そういった中でお話しさせていただくと、しっかりととした教育をすることによって、逆に都会に出てしまう。これはある程度仕方がないことだと思う。確かに自分の活躍を求めて、地域にとどまらないで外にでる。これは私たちにとりましても、地域の子どもたちがそれだけ自分のキャリアをしっかりと形成して自分の幸せをつかむために積極的に自分の人生をかけていく、これは私どもむしろ喜ばしいことだというふうに思っています。そうすると、みんな外に出てしまうのではないかということも、多少いたしかたないということでございますけれども、その地方であるところのお考えでは、思い切って外に投げると。思い切って外に投げることによって、ブーメランのように地域に戻ってくると。そのような考え方を教えていただけております。そういった意味で、こういった教育にしっかりと取り組んでいくこと、そういったことを通じて、地域のプライドを持っていただけるのかなというふうに思いますので、この子どもたちの教育というものに、しっかりと取り組んでいかなければならないというふうに思ってございます。もう一つは、今回の地方創生の中で、やはり地域、完結した地域というものを考えないと、特に、千葉県が東京に隣接をしている県でありますので、東京の影響を非常に強く受ける。千葉県は東京圏ということで、人口はわずかながら増えているという位置づけにされていまっており、今回の地方創生のなかで。ですが、私は県には強く申し上げているんですけども、それは千葉からきた、それは東京圏という位置づけでいいんじゃないかと、ですけれども、現実に千葉から東、南のほうは、人口がこのように減っている訳ですから、東京圏ではありません。この東京圏ではない私たちの地域は、むしろ地方

と同じように、あるいは、それ以上に危機感をもって、この人口減少に対処していかなければいけないというところから、考えていかなければいけないというように思いますので、そういった意味で、今回、成田空港を核として、この地域を一つの固まりとして、そこの地域の中に留まってもらうということ、一つの考え方ではないのか。ですから、そういった意味では私たちがグローバル教育をし、その中でコミュニケーション能力を高めていくつて、特に英語の会話能力なんかも高めていければ、当然、成田空港の関連するところでの就職もかなり有利になるだろう。そういったことをもくろんで、この地域に定着をしていただくというような方向も、この中で見定めて、今回の地方創生総合戦略を謳ってまいりりますので、教育委員会のほうでは、今回、当然、先生がおっしゃるように、子どもたち数が減るということに対応する施策でありますけれども、それだけではなく、未来に向かって進むためにはどうしたらしいかということで、ＩＣＴのほうにもしっかりと取り組みますし、新しい教育のあり方である、アクティブラーニングというようなことにも、できるだけ積極的に取り組んでもらえるようにお願いをしているところでございますので、そういった意味では、市長部局と教育委員会は、今、一体となって進めているのではと思いますので、どうぞバックアップをお願いいたします。

○教育委員長

少し話をさせていただきたいと思います。いろいろと質問が出てきた時に話をしなければいけないかなと思っていた訳ですが、私は、学校のあり方検討委員会のほうから答申をいただいた時にも、教育委員としておりまして、この適正配置計画の話をずっと一緒になってしていた訳です。ですが、私は教育関係にずっと携わっていた訳ではないので、はっきり言うと統合と言うのは簡単だと思った。こっちとこっちをくっ付けて、二つを一つにすれば、すぐに統合できるのではと思ったんですが、実は、それはいかなかつた訳です。建物を一つにすればいいという問題ではないと言うことに気付きました。だから、今回も先ほどご質問のあったように、今的小学1年生が平成35年になつたら、統合するのかというのではなくて、合併をもししようとしたら、資料にも書いてありますが、合併をするには、その2年前から準備をすると提案していますけれども、それは3年前でも4年前でも、例えばの話で、成東中と成東東中だったら、3年前4年前から進めてもいい話なんです、一緒になろうとしたら。それで、その間に論議して、いろんな課題のあることを踏まえて、どうしようかということでいけばいいのではと思います。だから、そのくらい時間のかかることは、これは仕方のない話であり、承知をしなければいけないかなと、実は思いました。この基本計画の進め方も、このように計画はつくりましたけれども、具体的には内容を詰めてから、先生と保護者と地域の人と話を詰めて、それで、新しい学校になるんだということで、統合する学校同士で校歌はどうしようかとか、そういう話も全部していかなければいけないと思っておりますので、だから時間がかかるということです。そういうつもりでおりますということで、統合がそう簡単にはならないということを、十分承知しているということが一つであります。あと、もう一つだけ話をします。私は豊岡小学校にも何回もいっていますが、単学級の子どもたち、例えば8人と5人でいる訳です。それで、1クラスをつくっているんですが、今、いろいろな先生方の配慮で、具体的に学年をわける時には、少人数の先生がついて、8人と5人にわけて授業をする場合もある訳ですが、子どもたちにどうだと聞いたら、一番最初の私への返事が、ドッジボールができないと言われました。このことが非常に印象に残っています。だから、とにかく複式学級をどうにかして解消してあげないと、というのを非常に思っています。運動会を見てあげてください、各学年1レースで終わりです。やっぱり競技としては2レース、3レースあったほうがいいと思います。ぜひ、その辺は、最低限ここ

のところは、早めてあげたいなと思っていまして、松尾中学校区の意見を聞く会で、この話をした時にどういう反応があるかなと、実は思っております。学習のところはいいところもありますが、集団生活のところもみてあげなければといけないので、ぜひ、皆さんのご理解をいただきたいと思います。先生方からもいろいろなご意見があります。いいところもあるし、こういうよくないところもあるよという話も聞いておりまして、そういうことを踏まえての提案でございますので、ご理解いただきたいと思います。

○男性

ちょっと気になっているのは、適正化と言う言葉です。では、基準は何なのか。だから、全てを適正化、適正、これだからいいんだよとで、進めないでいただきたいと思います。私自身、豊岡小にいたこともあります。その時に感じたのは、小学校を核とした地域と言うのがある、地域文化、そういうものがある。だからそれを全てなくして、まっさらなところにつくるという訳にはいかないんじゃないかと思います。それから、山武中と山武南中が一緒になるということで、私は、山武中から山武南中が分離する時の1年目にその学校にいました。それで、校歌、制服、校章、ジャージ、そういうものを4月から11月の間に全部やりました。そういうことで、私自身は非常に思い入れを持っています。それが今度は消えてしまうということで、これは、致し方ない部分もあるが、そういう思いを持っている地域の人たちもたくさんいるんじゃないかと。そういうふうな思いを持ちながら、適正、適正ということでは、ぜひ進めないでもらいたい。そして、様々な学校に、様々な土地の文化が根ざしているということも、忘れずに進めていただければありがたいと思います。それからもう一つ、最後になりますが、適正化のほうではなくて、山武市のところで、若者たちが戻ってくることを想定した時に、家庭を持って、子どもが産まれてという話になった時に、ほんとうにどのくらいの産院があるのか。今、ほとんどなくなつて、東金市もなくなっている。そういう状況になっていて、Uターン、ここに根ざしてもらいたいというのであれば、産院はどのくらいあるのかと。そして、受け入れはどのくらい可能なのかと、そういうことも全て吟味した上で、いろいろ進めていただければありがたいと思います。

○市長

産婦人科のことについてふれていただきました。ここで医療、特に子育てにおいては、医療の充実は欠かせないということで、私どもといたしましては、この地方創生の中で、大変大きな柱に挙げさせていただいておりますし、市の重要な政策の中にも入っております。その中で特に、近年産婦人科が、東金の秋葉医院さんが産科をやめてからですね、山武郡内で山武市のさんむ医療センターに産科のお医者さんが一人しかいなくなってしまったというのが現状でございます。ここで、年間150くらいの通常分娩のお産をするだけになってしまっています。ですから、この問題については、それぞれの市町の首長、それぞれが努力をして、例えば、大網白里市では、産科のクリニックを誘致をしようということを、公約の中に入れて頑張っていただいている。それから、東金の東千葉メディカルセンターは、東京の私立のほうからきていただけるようなお話を聞いております。当山武市としては、現在いるお医者さん一人で頑張っていただいておりますので、この先生が疲弊をしてしまったら山武郡内に誰もいないという現状になりますので、ここで目標値を示させていただいて、産婦人科の獲得ということに向かってございますが、現状では1月からお一人、正式にはこの4月からになりますが、きていただいて2名になります。また4月からは、総合診療医で産婦人科に配属という先生にきていただいて、3名体制になります。これを、なんとか特徴として、活かしていきたいといいますか、産婦人科の先生の養成の

場にしたいというのが、私の考え方でございます。というのは、何が問題かと言いますと、そもそも産婦人科の先生が足りないと、これは、千葉大学の産婦人科の教授にお願いしても、手持ちはないよ、ということですが、この先生は非常に熱心でありまして、何かことが起こったらすぐに運べと、例え妊婦さんが亡くなってしまうかもしれませんとも、うちでなくなるようにしろと、それくらい責任をもって後方支援をするよと言っていただいております。けれども、通常分娩をする産科医を育てて、地域に配分するだけの手持ちはありませんと、それだけ入局してこないと、研修医が。それが現状と言う中では、どのようにこれから、産婦人科を確保していかなければならないということは、そう簡単ではありません。ですから、今、私どもとしては4月からお出でいただく先生が、家庭総合医の資格を取った方が、産婦人科の資格を取る。これは、アメリカではそういうパターンがあるということで、そういうことを目指している若者が結構いるのではと思いますので、民間の病院と協力をして、こういった先生をうちのほうの病院で研修できないかというようなことを、今、何とか実現したいなという方向で動いていっているところでございます。この問題につきましては、それぞれの首長が頑張っていますので、何とかこの地域、山武市だけではなく、山武郡内全体でたくさんお産ができるような地域にしていこうと、そういうことはそれぞれが、それぞれのやり方で頑張っておりまので、山武市にとりましては、既に4月から3名体制になるということでございます。

○最後に教育長あいさつ

本日は、たくさんいろいろなご意見をいただきましてありがとうございます。今後の計画の詳細を検討していく中で、十分にいかしてまいりたいと思っております。今回、お示しいたしましたこの計画は、教育委員会のほうで、教育環境を第一にした考え方をもとにして、現在ある様々な条件を加味して、今現在でもっとも良いと判断した案を出させていただきました。しかしながら、この社会状況などの変化によって、大きく変わってくることも多々あると思いますし、また、何よりも地域の皆さんのご理解が重要だというように考えております。この計画案について、皆様方に考えていただきますことが、子どもたちの未来と地域の将来像をしっかりと見つめ直す、きっかけになってもらえることも期待しているところでございます。本日はどうもありがとうございました。

山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（案）に関する「意見を聴く会」の概要

期　日：平成 28 年 2 月 21 日 午前 10 時～
場　所：松尾中学校体育館
対　象：松尾中学校区
参加者：24 名

○副市長あいさつ

みなさんおはようございます。本日はまだまだ寒い中、そして休日の中にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。副市長の中野と申します。本日はよろしくお願ひ申し上げます。本日は、教育問題にご意見を賜る場をいただいており、感謝申し上げます。早速でございますが、若干、あいさつと言いますか、話をさせていただきます。

人口問題でございますけれども、ご承知のとおり急速に人口の減少の時代に突入をしております。山武市も今 54,000 人の人口がありますけども、これが、45 年後の 2060 年ごろには、23,000 人になる。今の半分以下になるというようなデータが示されております。そして、その人口構成をみると、壺の形を想像していただければと思いますが、人口が下のほうに行くに従って少なっていく、そういう人口規模のもとでは、なかなか人口を増加させる、一気に増加させることは難しいというのが現実でございます。したがって、我々は出生率を、今山武市の場合は 1.12 ぐらいでございますけれども、この出生率をいかにして上げていって、出生率 2 に近づけていく努力をどうやってやるかということ、それから、いかにして外からの流入人口を増やすか、あるいは、今、高校を卒業すると、東京圏に出ていきますけれども、こういった流出の人口をいかにして抑制するかというのが、対策になっているということで、昨年の 10 月にまち・ひと・しごと創生総合戦略を打ち立てましたけども、その問題意識としては、そういうところに私たちは置いております。もう少し具体的に申しますと。若い世代の声をいかにして確保していくかと言うこと。それから、結婚とか子育ての環境をしっかり整えて、出生率のアップを目指す。もう一つは、地域の魅力を上げていって住んでみたくなるような、この山武市をつくっていく。外から移ってきたいというような、こういった魅力のあるまちづくりをしていかなければいけないと思っております。

例えば例で申し上げますと、近くに成田国際空港がございますけれども、ここの雇用は、空港内に 40,000 人勤務しております。この 40,000 人がどこから通勤しているかを調べますと、やはり成田市内で 36% 程度です。それから、東京から通っているというのが 7 % 程度。では、山武市からどのくらい通っているかというと 660 人くらい、率にしますと 1.6% しか山武市から通っていません。いろいろな事情があるかもしれませんけれども、成田国際空港に必要な人材が、山武市から供給できていないという事実が、調べてみると分かりました。従いまして、成田国際空港に必要な人材というのが、やはり、英語力であったりコミュニケーション能力であったり、それから、エンジニアのように技術を身に付けている人、こういった人をどんどん山武市から育てていくことが、必要なのではないかというのが分かりました。

それから、もう一つの例で申し上げます。今、山武市の 15 歳未満の人口は 5,300 人程度でございます。これが、10 年後の 2025 年ごろには 4,000 人を割ります。だいたい 10 年間で 27% 程度、15 歳未満の若者の人口が減ります。一方で、この山武郡内に県立の高校が 6 つございますけれども、そこの定

員、今の1学年の定員が1,200人です。単純に27%減りますと、1,200人の定員が880人でよろしいということになります。したがいまして、320人がこのままだと定員割れ、そして、2校分に相当しますから、1学年だいたい160人程度ですので、2校分、6つの高校が4つでいいというような、そういう状況に置かれてしまいます。そうしますと、高校の統廃合というのも起こってくる訳でございまして、当地に松尾高校がありますけども、市内には成東高校もございます。うかうかしていると定員割れになって、高校がこの地域からなくなるという、そういった危機感を我々はもっております。したがいまして、松尾高校に通ってみたいという、そういう魅力ある高校を作っていくということで、昨年取り組んだのが、スーパーグローバルハイスクールに松尾高校が手を挙げまして、非常に厳しい難関でありましたけども、見事に全国50数校の中の一校に入ったということでございます。こういうふうにして、高校の魅力度を上げてこの地域から高校が無くなるのを防いで、そして、松尾のこの辺りの賑わいを維持していく。松尾に洗心館というものをつくりましたけども、これはこれでよろしいかと思います。だけども、そこを使う人材、高校生がいなくなるということでは元も子もありませんので、我々はそういう点にも注目をして、施策を進めていかなければならぬと思っております。

こういった成田国際空港とか松尾高校の問題から分かりましたのは、これからは、いかにグローバルな人材を育てていくかというのが、大切なんだということが分かりました。したがいまして、山武市は幼稚期から一貫した英語教育とか、それから海外との交流、そしてグローバル化に対応できる人材を育てていく、当地から人材を輩出する、こういったことがこれからは新たに求められているんではないかということで、昨年10月に作りました地方創生総合戦略には、育てるということをキーワードにして、戦略の多くは子どもを中心とした施策になっております。

ご承知のとおり山武市は、これまでにもいち早くこども園化をしたり、あるいは、高校生までの医療費を助成する。それから、第三子以降の保育料の無料化にもいち早く取り組んでまいりました。それから、こども園にALTを派遣するとか、小中学校の全校にタブレットを配置する。それから、さんむ医療センターの特に、産科医は1人しかおりませんでした。郡内で今現在1人です。これを今年の1月からは2人体制にして、4月からは3人体制ということにしていくと、そういう予定であります。こういうふうにいろいろ考えてやってきた訳ですが、こういった施策の上に、更に今申し上げたような、グローバル人材を育てていくということを進めていきたいと思っております。

本日の大きなテーマである学校統廃合の問題も、それから先ほどいろいろ申し上げた地方創生の問題、これはいずれも人口の減少だというところが共通点であります。そして、子どもが中心であるというのも共通点でございますので、適正な学校の規模の検討、それから地方創生の施策を進めていく、これは子どもを中心とした車の両輪として、これを進めていきたいというふうに考えております。

最後に、本日は財政の問題につきましても、今の現状とか今後の財政がどのようにしていくかということも、ご説明させていただきます。人口減少というのは、税収の減ということで財政にも直接ひびいてまいります。財政問題にも向き合っていただきながら、本日の教育問題についての広い視野からお考えいただければ、非常にありがたいなと思っておりますので、限られた時間ではございますけれども、どうかよろしくお願いを申し上げまして、挨拶にさせていただきます。

○教育委員長あいさつ

おはようございます。今日は少し暖かくなりました。そういう意味では外にでるにも楽に出てこられたかと思いますが、これまで寒くて大変でございました。この会は昨年は素案ということで、昨年3

月にこういう機会を設けてお話をすすることができました。その中でもいろいろ出てきたのは、特に、豊岡小学校は、どうにか残せないかという問題もあるし、この地域コミュニティの一つだということで、そういう意見もたくさんありました。一方、松尾小学校は水漏れしたりして、建築から50年も経ちますので、建て替えの時期にきたりというそんな課題もあつたりします。なおかつ、まつおこども園のほうも150人で少々狭いということもあって、この地域の課題としては大きく三つくらいあって、みなさんからいただいた意見も踏まえて、昨年は教育委員会でも協議をしましたし、それから、本日出席している市長部局の財政とか、今後の地方創生戦略を踏まえた財政計画の中でどうしたらいいのか、片方では古い小学校を建て替えなければいけない、片方では地域に残さなければいけない、そんなこと也有つてどうにかして、そんな意見を踏まえながら教育委員会の中でも協議してまいりまして、今回の計画案ということでご提案をさせていただきます。

具体的に、いつ頃どうしようかというところで、今回は具体的な年限を踏まえてご提案をさせていただいておりますので、本日の皆さんからのご意見を伺いながらも、それなりに合意できたところから、早目にスタートできればしたいなというのが本音でございますので、皆様からご意見をいただきたいと思います。なお、本日午後には蓮沼のほうにいって、同じ話をさせていただいて、蓮沼地区の方の意見も伺うことになっております。いろいろ質問も意見もありますが、特に反対の方の意見が多いですが、こここのところは賛成だよという方がいれば、遠慮なく賛成の意見もあっていいのではと思います。賛成と反対があって、それらを踏まえてどんなふうにもっていこうかというのが、本日の場だと思いますので、時間は限られていますがよろしくお願ひしたいと思います。

○説明の冒頭で、教育長から教育委員会の考え方、今後の方向性を述べた。

今日はお集まりいただきありがとうございます。今回お示しいたします、小中学校の規模適正化・適正配置計画には、豊岡小学校と松尾小学校、そして、蓮沼中学校と松尾中学校の統合案は入ってございます。なぜ統合するのか、今のままではだめなのか、地域づくりを考えているのか、そういういろいろな疑問を持って参加をされている方もいると思います。そこで、教育委員会としてどう考えているのか、今後の方向性について始めにお話させていただきます。

社会の変化がほんとに早く大きくなっている中で、子どもの数がどんどん減ってしまっていることはみなさんご承知のことと思います。これは、山武市に限らず日本の国全体での流れでございます。市内では既に複式学級にせざるを得ない学校も出てきておりまして、今後の児童生徒数の推計を見ましても急を要する課題となっています。そこで、適正規模・適正配置について山武市内全体を考えながら検討してまいりました。しかし、この少子化だけではこの計画の本にある訳ではありません。そこには、グローバル社会の進展により、世界中の様々な面で境界がなくなってきたり、その中で経済的にも人的にも世界を相手にして考え方行動していく必要があること。また、高度情報化社会の進展により将来の仕事が大きく様変わりしていくそういう予測困難な社会を迎えようとしていることなどがございます。これからのお子さんたちは、今まで私たちが受けてきたような学校教育では対応できない社会を生きて行かねばなりません。求められる能力が大きく変わってきています。それは今までのような受け身の学習ではなく、自ら課題を発見し、解決していくことのできる主体的、共同的な学び、そして、それはグループ学習やプレゼンテーションなどを通じて行われる能動的な学習と、また、それに必要なＩＣＴ機器を十分に活用する力などによって育てられます。このような学習をとおしてコミュニケーション能力、コラボレーション力、課題解決力など、生きる力として能力を育てることが求められています。資

料の1ページ目の最初に示しました、「今後の社会の変化に対応する力を身につけるため」と言うのが私たちの大きな目標であり、これから社会を生きる力になるもと考えています。もちろんそこには今までとは変わらぬ人間社会で必要な道徳性や社会規律なども、基本的な資質として備えていることが必要なのは言うまでもありません。そして、これらの力はより大きな集団の中で自分以外の多くの意見を認め、自分の考えを大きく広げながら学び合うということで培われる力でもあります。教育委員会といたしましては、1ページの最後にあるように、「多くの意見を聞き、自分の意見を言える子ども」、「自分とは違う価値を知り、自分自身を深く理解する子ども」そんな姿を目指しながら明るい未来を築いてくれる子どもたちを育てていくために今回の基本計画をつくっています。基本計画（案）は現在の状況から市長部局とも調整を進めながらまとめたものですが、長期の計画でもございますし、予測困難な社会になってくるというようなお話をしましたとおり、さまざまな要因から計画の変更が出てくる可能性もございますが、基本的な考え方は、子どもたちの未来というところにございますので、皆様方にも十分ご検討いただきたいと思います。本日はよろしくお願ひいたします。

※以下、事務局説明は省略※

【意見内容と回答】

○男性

先ほど説明がありましたリーフレットの統合案、④番の蓮沼中学校と松尾中学校のところなんですかとも、ちょうど平成31年から平成33年が松尾小学校の仮校舎設置となっており、平成32年に蓮沼中学校と松尾中学校が統合して、その前年度に豊岡小学校と松尾小学校の統合があって、松尾中学校にみんなくるようになっている。そうすると、松尾中学校の人数が一気に増えるし、学校のカリキュラム的な部分はできるのかどうか。小学校が仮設できた1年後に中学校の統合ということで、様子を見てからの統合とかそういう考えはないんでしょうか。

○教育総務課長

今回お示ししている案では、松尾小学校の建て替え期間の施設として、この松尾中学校を利用してということになっています。確かに小学校、中学校が一緒にいて、果たして大丈夫なのかというご意見だと思います。ただ、今回の案は小中一貫校になるというようなイメージではなくて、例えば、使用する階を明確に分けて、2階部分は小学校が使うとか、足りない部分は小学校分として仮設を建てるとかという形で、後は共有して使う部分は当然出てくるでしょうけれども、それは小学校も中学校の中で、授業等のやりくりで支障がないような形で、組み立てていただいて、その仮設期間はそこで過ごしていただくということで考えております。そういう中では、逆に短い期間ですが小学校、中学校が一緒になるということで、メリットの部分も出てくるのはということもあるかと思いますので、何とかそういう形で支障がないような、仮設の増築部分と校舎の中の教室の使い方で対応できるのではと、今の段階では考えているところでございます。一年ずらしてあるというのは、やはり、統合のスタートが重なってしまうと、それはなかなか難しいのではという関係があって、小学校が先に入って1年間で小学生が学校生活に慣れた後に、中学校に入ってもらってということで、集中的な混乱を避けるために、1年ずらしてあるという計画でございます。

○男性

小学校が入って1年間の期間しかみてないので、2年間くらいみてから中学校の統合があつてもいい

のではないかと思う。何かハードスケジュールというか過密になっていて、それこそ松尾中学校に全部の児童生徒がくるような形で、先生同士のカリキュラムの調整が大分大変になるのではと思いますが、いかがでしょうか。

○教育総務課長

私どものほうで考えている、この規模適正化・適正配置の案をお示ししているという基本的な考え方は、今の規模、例えば、蓮沼中学校の各学年1クラスという規模は、やはり学んでいくという状況からすれば、教育環境としては好ましくない、それを早く解消していって規模を整えて学ぶ環境を整える。それで先ほど説明した、いろんな選択肢の中で学んでもらうという状況を、早く作っていったほうがいいのではという中から考えたというタイムスケジュールでございます。確かに、混乱するのではという心配はあるかと思いますけども、それは先生方にご協力いただいて、混乱が避けられるよう形で授業を進めていっていただいて、とにかく規模を整えるというのを早くして、子どもたちに良い環境で学んでもらいたい、というような案になっているというところでございます。

○男性

今の件に関連して、かつて豊岡小学校が改築するときに、松尾中学校の空き教室を使って授業をしたという経緯もありますので、今、越川さんが心配したことも含めて、ぜひ、スムーズに行っていただきたいと思います。

○男性

3点ほど質問がございまして、人数関係の部分もありますので、その辺の数値を教えていただければと思います。まず、豊岡小学校が閉校になってまつおこども園になるということだが、現在の豊岡小学校の収容人数が何名で、現時点でもつおこども園は何名いるのか。あとは、小学校だと1階、2階に分かれているかと思いますが、現実的に保育園としては1階部分が校舎になると思います。そこで、実際に使える部分として何名ぐらい収容できるのか。これが1点目の質問です。2点目は、先ほども意見がありました中学校についてですが、まず、現在の松尾中学校の収容人数がどれくらいなのか。たぶんカリキュラムなどについては、確かに施設がそれしかないとか、そういうところもありますので、いろいろ課題になってくると思うんですけれども、先ほどの回答を聞いただけだと、現場の先生に何とかしてもらうということで、結局は現場まかせになってしまふような気がするので、そこは今後、教育委員会として、どのような教育をしていくのかというのをお聞きしたいと思います。3点目は、まち・ひと・しごと創生総合戦略について、2番目のグローバル人材を育てる力の創生で、英語検定4級とありますが、正直なところ英検4級はすごく低いと感じます。3級以上は最低でも取らないといけないと思います。あとはTOEICとかそういう実際に国際展開されている英語教育の英会話という考え方、そういうものはないのか聞きたいと思います。

○子育て支援課長

まつおこども園については、現在、144名の園児が通園しています。豊岡小学校のほうに平成32年度から園児がそちらのほうに通うような計画でございますが、今現在の豊岡小学校の規模で、1階又は2階の教室を使って、十分入るようなスペースは確保できると考えております。

○教育総務課長

松尾中学校の現在の生徒数は、225名で7学級使っている状況でございます。教室数は、普通教室と

して 11 学級、今、違う目的として使っていますが、もともと普通教室としてできている教室が、10 学級ありますので、使える学級とすると 21 学級分の使える学級があるという状況になっています。

○学校教育課長

カリキュラム関係でございますけれども、想定しているのが、一緒になりますとグラウンドで中学生と小学生が体育の時間とかが重複してしまうとか、後は、特別教室、理科室などが、小学校と中学校ということで、様々あると想定されます。そういうものについては、調整するにあたり現場任せではなく、こちらのほうで一定程度の管理というのも含めながら、進めていくところだと考えております。それから、通常の教育活動における日課等につきましては、小学校、中学校それぞれの独自のカリキュラムがありますので、それについては、新たな見直しをするのではなくて、現行のものはそのままスムーズにいくように、教育委員会のほうとしてもアドバイスをしていきたいと思っております。

英語検定につきましては、今現在の山武市の状況として、4 級の取得者が 13% という状況でございます。まだこれについて、積極的に全ての中学生が取り組むという状況にはございませんので、まず、初期の段階として、4 級取得者を大幅に増やす中で達成感を持たせて次の部分にステップすると、それが最終目標ではなく、あくまでも日々の英語教育での自分の力を試していく、一つの指標として考えております。文科省のほうは中学校卒業までに 3 級取得者を 10% 程度ということをいつておりましたが、本市としての目標としては、ただ現実のスタンスとして、まず、こういった英語能力を高めていく、自分の力を高めていくことの取り組みとして、次年度以降にそういた取り組みを進めていきたい、というところで 4 級という位置づけをしております。

○男性

松尾地区は英語がかなり弱いといった懸念としてあったので質問させていただきました。将来の子どもたちのためにその辺は考えていただきたいと思います。ありがとうございました。

○男性

今回、1 回目を踏まえて私の記憶違いかも知れませんが、その時に丁寧にしてくださいと言った覚えがあります。今回は区長回覧をしていただきまして、併せて防災無線でも今日に対する説明をなされたことに感謝申し上げます。ありがとうございます。豊岡小学校で私ども参加させていただいた。その時にパブコメは回答しませんよというなかで、21 の意見を出させていただき回答もいただきました。その後、小学校の父兄に対して説明会があった。行っていいものなかどうなのかちょっと迷った経緯がありました。いずれにしましても今回のように機会をつくっていただきありがとうございます。2 点目ですけど、豊岡小と松尾小の統合が書かれてあります。その中で 5 つあるのですが、跡地の利用について豊岡の方はまつおこども園の開園、これが豊岡小の跡地利用として書かれている。私ども豊岡としてひとつ明るい光がともってきたという感覚。そう思っている。これをどう信じればいいのかちょっと疑問がある。地区の方は決まりだと喜んでいる。何て聞いていいのかちょっとわからない、そんな思いであります。

○教育総務課長

今回、お示ししている基本計画（案）ということで、教育委員会と市長部局の中で今後、跡地も含めましてこういう形が望ましいのではないかという案としてまとめさせていただきました。今後、検討していくかなくてはいけないところもありますけども、今、考えられる中での案としてお示しさせていただいたということでございます。

○男性

今、案と話でございましたが、まつおこども園は32年以降という形で考えてよろしいですか。32年度の枠の中に開園とありますよね。小学校は開校年度がマルで囲んであるので、こども園も同じ意味合いお考えいただければと思います。案だとちょっとさびしいなと思ったので。

○男性

山武市教育の方向性についてですけど、これから国際化社会になるということはもちろんあたりまえの話になるとは思いますが、その中でグローバル化に対応する人材を育成していくという話ですが、そこにいくまでにまず、日本人が日本人であるための国語能力をつけていただきたいというのもありますし、国際社会に出た時にいろいろな国の意見が出てくるなかで、日本人としての独自の今まで培ってきた日本人としての外の国とは違う意見が出てくるような人間が、将来に向かって育っていくような人材を小学生の間で基礎をつくっていただきたいなということがあります。国際社会の話に行く前に、まず自分の国の文化だったり、社会だったり、地域の交流、そういうものが基礎としてあって、思いやりだったり、優しさだったりという基本的な部分が国際社会にいった時にその基礎となり、考えの中心となつて国際社会に対応できる人間にぜひともなっていただきたい。例えば、合併して人数を多くしていろいろな話、子どもたち、それぞれ個人の意見ができるということですが、やっぱり教える人間がどう教えるかがいちばん重要で、カリキュラムにそった話をただ前に出て話をするだけだとただの流れをたどっているだけであって、本当に細かいところまで教えるということは教師の個人的な能力もありますし、教える人の人材の育成もやっていただきたいと思います。統合した時の学級編成のことですが、1学年を1学級だけにしてしまわないで、子どもたちのより細かいところまで先生が目に届くような少人数での学級をつくっていただくことはできないのでしょうか。小グループの学級をつくっていただいて、2つの学級でもいいんですけど、ある程度の交流を2つのグループに別れて話し合いを出来るような、人数が多すぎると意見を出せない子も出てくるので、なるべく少人数での教育を考えてほしいと思うのでそういうところも含めて検討していただけたらと思います。

○学校教育課長

ご指摘の部分につきましては、そのとおりだと考えております。まずグローバル人材が自国のことによく知るということで、自國文化の為の取り組みをしていこうと、日本語の復習ということで、読書活動の推進を毎日やっておりまし、日本文化の学習機会というのは、クラブ活動とか色々な時間の中で、運営するようなものを作っていくみたい。で、問題はそれを指導する教員ということになってくるかと思います。これが単学級よりも、2学級あれば、2人の先生が同じ学年を見ますので、お互いにこうするといいよという校内での勉強が進みます。一人だけだと見えなくなってしまうところが、実践されていく環境になりますので、それにつきましては校内での職員同士の切磋琢磨を期待したい。少人数学級ということにつきましては、現在、小学校の場合については、1年生については35人学級というものがあります。ですから、その線の中では無理で独自にということになりますと、学習を小さくする。県との協議にもなりますので、人数を少なくして、一つの学級を簡単に開くことはできないところです。ただ、少人数グループでの学習と保障ということについては、今現在も市の方で少人数の指導講師というものを派遣しています。豊岡小にも現に行ってます。そういう方を派遣して、出来るだけ小さな集団で学習が出来て、そして交流が出来るというようなことについては、力を入れてやっていきたいとなっています。

○高柳委員長職務代理者

今の意見は私も大賛成でして、グローバルという話が出たときに、それよりも日本の文化と教育の基本的なものをまず、と市長さんと色々をお話をしていたんです。日本人ですからそこを根源としながら、やはり平行してやっていかないと、小さい頃だと早く、言葉も自然な言葉の中で覚えていく。そんなようなことで、日本の伝統のうえでやはりグローバル世界を生き抜くという力がうまくつかめる、同時進行でやっていかないと。私どももそういう努力をしながら、やっていけるようにしていきたいと思っています。今のご心配ぴったりでした。ありがとうございます。

○男性

山武市はいい地域でいい先生がいらっしゃいます。みんないい先生だと思うのですが、教育委員の方々に日本一の先生を山武市に引っ張ってきていただきたいと思います。先程、合併特例債の話があつた。その合併特例債がいずれなくなってしまうであろうと、それがなくなるとどれくらい痛いのか、ちょっと教えていただきたいと思います。

○財政課長

特例債について簡単に説明させていただきますと、例えば 10 億円の学校をつくるとした場合、95% の 9 億 5 千万まで借り入れることができます。あくまでも特例債は借金ですので、9 億 5 千万を返していく際にその 70% を国の方で交付税としてみてくれることになっています。事業費の 95% を借りてその 95% の借金の 70% を国の方から補てんしてくれるというのが特例債の特徴です。市の持ち出しが少なくて事業ができるということです。さきほど説明したとおり、震災の関係でこれから 10 年間延長されました。ですので、必要な事業についてはこの 10 年間の期間の中で対応していかなければなということが財政課の考え方です。

○男性

今、特例債の枠が 10 年間延長になったということですが、金額にしてどれくらい借り入れできるのかというのが 1 点。統合の話の中で、蓮沼中と松尾中が統合する、その 1 年前に豊岡小と松尾小が統合する。平成 31 年に小学校が統合して松尾中にきて、翌年 32 年に松尾中と蓮沼中が統合すると、統合になった時、現在の松尾中学校で松尾小の校舎が完成するまでの 3 年間を共にここで学ぶと、そういうスケジュールだというのはわかります。実際に学校の中でムリがないのか、その辺が心配である。ただでさえ中学校の中に小学校が入ってくる、翌年には蓮沼中学校が入ってくる、生徒にしてもストレスがあるだろうし、職員の中でも急に人数が増えたり、いろいろ想像ができない部分がでてくるだろうと危惧しています。もうひとつは、将来の人口の予想が示されております。残念なことに子どもの数が入っていなかつた。20 年後、30 年後の人口推計で。山武市の現在の出生率が 1.1 とおっしゃいました。それでいくとおそらく 10 年後、20 年後のこれぐらいの子ども数ではないかというものが出てくる。学校を建て替えると、耐用年数でいくと 50 年とか 60 年、さらには 100 年ぐらいその場所で学校というものは残ると思う。そういう中で、じゃあそこに通う子どもたち、児童・生徒の数がこの中になかった。参考にしたくても実際どのくらいになるのか、減少率とか、その辺もできれば、今回なかったので次の機会にでも 20 年後、30 年後の山武市の子どもの数の予定を示していただけるとより参考になると思いましたので、この 2 点について質問させていただきます。

○財政課長

特例債の総額ですが、合併市町村数によって大枠が決まっています。山武市の枠としましては 256 億 9 千万円が上限です。

○男性

合併した時の金額であれば、残りの金額は。

○財政課長

その中で、平成 26 年度決算までで 54 億 5 千万円使ってございます。さきほど説明しましたように、7 割は交付税で算入されますが、3 割は自己財源で出さなければなりませんので、その分を検討した上で適正な財政運営の中で事業を選択していきたいと考えております。

○企画政策課長

子どもたちの推計ですけども、先ほど説明の時は省いてしまいましたが、資料の 13 ページのところにパターン 1、パターン 2 ということで表を示させていただいております。パターン 1 というのは、国が示した基準どおりに計算するとこうなりますよということで将来の人口 1 億人を維持しようという基準にのっとって出したもの。さらに、今、外に出ている若者たちが半分ぐらい帰ってくる、また出ていく人を半分ぐらいに抑えられればということで計算したのがパターン 2 となっております。パターン 1 パターン 2 で年少人口ということで数字が入れてあります、その年少というのは 15 歳以下の子どもたちの数字になります。率では出ておりませんけれども、人数で出ておりますのでこれでご確認いただければと思います。

○学校教育課長

小中が合同の場所で学習するという上での子どもたちの環境の変化、先生方の環境の変化、これに伴うストレスというのは十分考えられますので、それにつきましては丁寧に子どもたち、そして先生方と話しをしながら解消に努めていきたいと考えております。

○男性

平成 23~25 年度の松尾中学校で校長としてやらせていただきました。その際は大変お世話になりました。今日は、そういう立場で、学校を預かっていた立場から、基本計画についての意見をさせていただきます。まず 1 点、基本計画の考え方の中でさきほど中学校の話がありました。学校運営の改善という話をされました。私の経験の中でひとつ、やはり部活動の活性化、学校経営の中ですごく大きな役割をしていると思う。私が着任したときに、正直、課題がたくさんありました。どこからこれを、中学校を元気なものにしていったらいいかということで、その一つに挙げるのが部活動の活性化です。もちろん、学力の充実が大前提です。そういうことで部活動を通しての人間形成、それは中学校の部活動と高校の部活動は違いますから、高校の部活動はある程度勝負が、勝つことが求められると思います。中学校は、私は学校教育だと思います。特にその中で先生方にお願いしたいのは、もちろん県大会、全国大会に出場できるようになりました。だけど、負けたときに明日からもう一回頑張ろうという、そういうような指導を先生方にしてくれと先生方にしたんですけども、その中でやっぱり人数が少ないとどうしても部活動、顧問の先生も限られてきます。それから何よりも子ども達の選択、部活動の選択が本当に限られてしまう。私は中学校に行って部活動をやりたい、そういうときに中学校で希望する部活動ができるないということが出てきます。そういう意味で、蓮沼中学校には部活がないので、どうしても中学校に行ってバスケットをやりたいとそんな子ども達もいます。そういう意味で、先生方には統合の際

には、そういうことも見えるということで、松尾中学校を全国大会まで出させるようにした。それから、教員配置の充実ですけれども、今、人事異動も佳境に来ているところだと思いますけれども、やっぱり学校を預かる校長としては、一人でも多くの教員が欲しいわけです。先ほど学校教育課長の説明の中にもありましたけれども、教員の数は学級数により決められる。ですから、その中に増置教員を生徒指導だとか、教員が増えることによって、きめ細やかな指導が色々なところで出来るんです。ですから、そういう意味で、ある程度の規模、学級数が欲しい。それが結局はそういう流れにつながっていく。いい教育活動を展開できる12学級ですので、そういう面でも、私は統合を推進しています。

あと一つ、学校教育課長の説明の中にもありましたけれども、市の教育施策の中で、幼少期の指導・充実ということを話していましたけれども、今、たまたまおおひらこども園に孫がお世話をになっておりますけれども、その活動を見ている中で、掲げられていることが各こども園に浸透しているなど。各園での活動を見ていると、充実が感じられます。親にこだわっていると言われますけれども、いかに重要なことだと思います。長くなりましたが以上です。

○最後に教育長あいさつ

本日は、たくさんのご意見をいただきましてありがとうございます。ご満足いただけるような内容だったかどうかは疑問ですが、色々とお気づきの点がありましたら、遠慮なく問い合わせをしていただきたいと思います。今後の計画の詳細を検討していく中で、いただきました皆さんのご意見を十分にいかしながら進めていきたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。今回、お示しいたしましたこの計画は、教育環境を第一に考えて、教育委員会の意見をもとに、現在ある様々な条件を加味して、今現在でもっとも良いと判断した案を出させていただきました。しかしながら、社会状況などの変化によって、変わってくることも多々あると思いますし、また、何よりも地域の皆さんのご理解を得るということが大切だというふうに考えております。この計画案について、皆様方に考えていただきますことが、子どもたちの未来と地域の将来像をしっかりと見つめ直す、きっかけになってもらえることも期待しているところでございます。本日はどうもありがとうございました。

山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（案）に関する「意見を聴く会」の概要

期 日：平成 28 年 2 月 21 日 午後 2 時～

場 所：蓮沼中学校体育館

対 象：蓮沼中学校区

参加者：31 名

○副市長あいさつ

みなさんこんにちは。また、いつも色々とお世話になっております。ありがとうございます。本日は休日のところお集まりいただきましてありがとうございます。また、教育問題にご意見を賜る機会をいただきましたことに、重ねて御礼を申し上げます。早速でございますが、人口減少の問題について、少しふれさせていただきます。ご承知のとおり人口の減少の問題についてはなかなか特効薬がなく、それから劇的に人口は、今、山武市は 54,000 人の人口がございますけども、これをずっと維持しようという、そういうことには中々ならないのが現状でございます。大きな人口減少の流れは止めようがないことでございますが、しかし、手をこまねいていても仕方がありませんので、私たちは山武市の出生率 1.1 を少しでも上げていこうと、出来るだけ 2 に近づけていこうということを考えております。そうすることによって若い人の人口を少しでも増やそうと。もう一つは人口流出よりも、人口流入の方を何とか上回るような形にもっていって、昨年の 10 月に山武市のまち・ひと・しごと創生総合戦略というものを策定いたしました。この中では、2つのポイントがございます。ひとつは若い人たちの雇用、働き先を出来るだけ確保して、結婚、子育ての環境を出来るだけ良くすることによって、出生率のアップにつなげていくと。もう一つは、山武市の地域の魅力を上げていって、山武市に住んでみたい、住みたくなるような施策を展開する。そういうことによって、人口の流入を少しでも増やしていく、こういった二つの柱でできております。

例を申し上げますと、近くに成田国際空港がございますけれども、成田空港内に職員が 40,000 人ほど勤務しております。この 40,000 人がどこから通勤しているかを調べますと、成田市内が 36% 程度です。東京から通っているというのが 7 % 程度。山武市からどのくらい通っているかというと 660 人くらい、率にしますと 1.6% しか山武市から通っていません。成田に必要とされる人材が、山武市から供給できていないという実態がございましたので、出来るだけ空港の人材を育てていく。空港も、今後少子化に伴って、人材不足に直面してきます。ある意味、我々は今チャンスに立っていると思いますので、空港に必要な人材、すなわち英語力であったりコミュニケーション能力をしっかり勉強した人、あるいは、エンジニアのように技術的なものを勉強した人を出来るだけ市の中で育てたい、成田へここから通っていく人、成田空港への人材供給基地になるということでございます。

もう一つの例で申し上げます。市内に高校が成東高校、松尾高校がございます。このまま人口減少社会になれば高校の定員割れ問題が必ず出てくると思います。定員割れ問題が出てくると、次は高校の統合にもなりかねない。そういうふうにはなりたくないわけでして、松尾の中心地に洗心館というものを昨年、建設いたしましたけども、これはこれでいいことだと思いますけども、肝心のそこを使う人がいなければ、元も子もないわけでございますので、我々は松尾高校のスーパーグローバルハイスクール、県立高校でありますけども、相当関与させていただきました。狙いはやはり高校の魅力度をアップして、高校を松尾地域に残すということでございます。そのためにスーパーグローバルハイスクールは、グロ

ーバルエイジングというものを研究テーマにいたしました。世界的な高齢者問題を研究テーマに5年間かけてやっていく予定であります。

さきほど、成田空港の話、そして松尾高校の話をさせていただきましたけれども、両方共通しているのは、グローバル化ということに我々気が付きました。グローバル人材を育てていくということをこれから一生懸命やっていきたいと思っております。そういうたぐローバル人材を育てるということが、地方創生の大きな目的となっております。山武市では近隣自治体では先んじて、子ども園を造り、高校生までの医療費の無償化、第3子以降の保育料の無料化、こういったことに取り組んでまいりました。子ども園にALTを派遣するとか、学校に補助員の配置、これも進めてまいりました。医療の問題にしましても、特に産科医がつい先日までは、さんむ医療センターに1名しかおりませんでしたが、今年の1月から2名体制にし、そして4月から3名体制にしようと取り組んでおります。こういった取り組みを進めてきたわけでございますけども、その上にもう一つグローバル人材を育てるということを加えていきたいと思っております。学校の統合問題、これも人口減少から発生した問題でございます。それから地方創生の問題も、結局すべては人口の減少にどう取り組んでいくかということでございます。いずれの問題につきましても、子ども中心でなければならない。子どもを中心に動いて、統合問題と地方創生の問題を車の両輪として動かしていかなければならぬと思っております。

最後に、財政の問題につきましても、現状とか今後の財政がどのようにしていくかということも、ご説明させていただきます。人口減少というのは、税収の減ということで財政にも直接ひびいてまいります。財政問題も見据えながら、学校問題についてもお考えいただければ、そういうことを本日やつていただければと思っております。限られた時間ではございますけれども、積極的なご意見を賜れば幸いでございます。よろしくお願ひを申し上げまして、あいさつに代えさせていただきます。

○教育委員長あいさつ

ご苦労さまでございます。小野崎でございます。昨年の3月にこの場で素案のお話をさせていただきました。たくさんのご意見をいただきましたけど、いつからどういうふうなことを考えているのかということが色々ありましたので、以降、後ほどお話があります市の財政の問題も踏まえて、学校建設には費用がかかるということも踏まえて、協議をしてまいりました。そういう中での今日の計画の案でございます。非常に長期の話となっておりますので、すぐこの場でどうこうというわけにはいかないかと思いますけど、長い期間を経て地域の皆さんと話し合いをしながら、前に前に進んでいくというような考え方でご提示をさせていただきたいと思います。なお、蓮沼中学校の保護者の皆さんにもお話をする機会があったかと思いますが、今回の計画はその時に比べると少し変わってきているかと思いますので、改めて新しい話ということで、お話を聞いていただいてみなさんからのご意見をいただければと思います。短い時間ですけど、どうぞよろしくお願ひいたします。

○説明の冒頭で、教育長から教育委員会の考え方、今後の方向性を述べた。

今日はお集まりいただきありがとうございます。今回お示しいたします、小中学校の規模適正化・適正配置基本計画案では、ここ蓮沼中学校と松尾中学校の統合案は入ってございます。なぜ統合するのか、今までだめなのか、地域づくりを考えているのか、そういういろいろな疑問を持って参加をされている方もいると思います。そこで、教育委員会としてどう考えているのか、今後の方向性について始めにお話させていただきます。

社会の変化が本当に早く大きくなっている中で、子どもの数がどんどん減ってしまっていることはみなさんご承知のことだと思います。これは、山武市に限らず日本の国全体での流れでございます。市内では既に複式学級にせざるを得ない学校も出てきておりまして、今後の児童生徒数の推計を見ましても急を要する課題となっています。そこで、適正規模・適正配置について山武市内全体を考えながら検討してまいりました。しかし、この少子化だけではこの計画の中にある訳ではありません。そこには、グローバル社会の進展により、世界中の様々な面で境界がなくなってきたり、その中で経済的にも人的にも世界を相手にして考え行動していく必要があること。また、高度情報化社会の進展により将来の仕事が大きく様変わりしていくそういうような予測困難な社会を迎えようとしていることなどがございます。これからの中もたちは、今まで私たちが受けたような学校教育では対応できない社会を生きて行かねばなりません。求められる能力が大きく変わってきています。それは今までのような受け身の学習ではなく、自ら課題を発見し、解決していくことのできる主体的、共同的な学び、そして、それはグループ学習やプレゼンテーションなどを通じて行われる能動的な学習と、また、それに必要なＩＣＴ機器を十分に活用する力などによって育てられます。このような学習をとおしてコミュニケーション能力、コラボレーション力、課題解決力など、生きる力として能力を育てることが求められています。資料の1ページ目の最初に示しました、「今後の社会の変化に対応する力を身につけるため」と言うのが私たちの大きな目標であり、これからの中を生きる力になるもと考えています。もちろんそこには今までとは変わらぬ人間社会で必要な道徳性や社会規律なども、基本的な資質として備えていることが必要なのは言うまでもありません。そして、これらの力はより大きな集団の中で自分以外の多くの意見を認め、自分の考えを大きく広げながら学び合うということで培われる力もあります。教育委員会といたしましては、1ページの最後にあるように、「多くの意見を聞き、自分の意見を言える子ども」、「自分とは違う価値を知り、自分自身を深く理解する子ども」そんな姿を目指しながら明るい未来を築いてくれる子どもたちを育てていくために今回の基本計画をつくっています。基本計画（案）は現在の状況から市長部局とも調整を進めながらまとめたのですが、長期の計画でもございますし、予測困難な社会になってくるというようなお話をしましたとおり、さまざまな要因から計画の変更が出てくる可能性もございますが、基本的な考え方は、子どもたちの未来というところにございますので、皆様方にも十分ご検討いただきたいと思います。本日はよろしくお願ひいたします。

※以下、事務局説明は省略※

【意見内容と回答】

○女性

今回の統合の案を見たときに、松尾小の仮設校舎が松尾中にあるときに、蓮沼中との統合も同時にを行うような形になっているのですけれども、松尾小の子ども達が体育館を利用する場合には、松尾中の体育館をミニバスとか色々あると思うんですね。部活動と重なっていくと思うのです。そういう中で、蓮沼中と松尾中の体育館を利用する部活動の使い方の中に、さらに松尾小のミニバスとともに一緒に体育館を共有して、やっていくことになるのかをお聞きしたかった。みなさんご存じのように蓮沼中学校には男子バレーボール部がありまして、毎回県大会に出るように頑張っております。今、小学生の子ども達も蓮沼中学校に入ったら、バレーボールをやりたいということで、すごく今からワクワクしている子ども達が多いのですけれども、こういった小学校も体育館を共有してやっていく中に、元々松尾中

学校にバレー部がないので、そこで廃部になってしまうような形になるのかお答え願いたいと思います。

○学校教育課長

まず、部活動の運営につきましては、複数の生徒数が見込まれる場合につきましては、今、現在部活動がなくても、これだけの生徒の入学が考えられるので、部活動の再編ということで、学校等で考えていくことが出てくると思いますので、その中でどういう部活を設定するかという部分につきましては、学校の方針もありますけども、地域の方々のご協力を得ながら、考えていくように教育委員会としましても応援していきたいと思います。

施設の関係でございますけども、今現在も体育館を使用する部活動につきましては、曜日ごとに時間帯を決めてローテーションでやっています。そういう中でうまく回していく、使えないときには外を使うということは一つの方法としてあるかとは思いますが、様々なことを考えながら授業数を検討して、活動できるようにしていかなければと思います。

○女性

小学校のミニバスみたいな部活も入ってきますか。

○学校教育課長

当然、中学校に仮に小学校が入れば、体育館を使うということが前提になりますので、物理的にその活動を保障するものが、どの位入ってくるのか、もう一度精査をして他の施設も使用することも含めて考えていく必要があると思っています。

○女性

例えば、松尾小学校の仮設校舎がなくなつて、中学校だけできちんと体育館を確保できるようになってからの統合というのは考えられますか。意見として、今、男子バレー部は8チームあるのだけれども、上の4チーム位はどこが県大会に行つてもいいみたいな形で、すごく接戦で準決勝・決勝をやっているわけですね。そういう中で今すごくいい環境の中でやっていてもぎりぎりでやっている。それが体育館を使えないから外でやる、このあいだ体育館の改修工事で使えないとき、外でやって頑張ってきました。そんな中で県大会とか出ていますけれども、雨が降ってしまったときに外というのも大変ですし、天気が悪い週が続いたときに、あなたたちの部活はその日だから体育館は使えない、外でやる日だからしようがないでしょうと言われても困る。蓮沼中と松尾中の合併に関しては、特に施設を改修したりとかはないので、あえて小学校の仮設がある不便なときに行くというのもどうかなと思います。通常の中学校の教員数よりも多く、駐車場とかも多くなっているところに、小学校の先生もいらっしゃるような形で、その3年間にあたってしまった子ども達はかわいそうかなと思います。あと、部活動のことなんですかでも、そういうことを考えると、今小学校6年生はどの中学校に行くだとか、部活動を考えているので、新6年生はそれができますけども、新4・5年生は、1年・2年先にどこの中学校にいったら、バレーボールができるのだろうという話になつてしまうのですけれども、今の案で間に合いますか。

○教育総務課長

統合の時期につきましては、ここでお示しさせていただいた、32年度に蓮沼中と松尾中の統合につきましては、基本計画の考え方、学校運営の改善という視点から時期が早い方がいいのではないかということでお示しさせていただきました。実際の運営に支障が出てくると見込まれるということで、今後の検討の中で加えさせていただきまして、考えさせていただきます。どうもありがとうございました。

○女性

スクールバスの件でもう一つよろしいですか。うちは川下地区なので、スクールバスを利用することになると思うのですけども、スクールバスが登校時1回、下校時2回ということで、下校時は部活動をする子とやらない子でだいたい理解は出来るのですけれども、登校時の1回というのは部活動をしている人をメインにしたスクールバスなのか、それとも3年生の部活が終わった子たちとか、朝練のない部活動の子ども達をメインにした、登校時1回なのか、どちらを想定していらっしゃいますか。

○教育総務課長

スクールバスについては、基本的にこれから統合準備の検討部会の中で、ご意見をいただきながらどういう形がいいのか。今おっしゃっていただいたように部活動をどうするのかということが当然出てきますので、それは準備の中で十分話し合いをさせていただいて、一番いい形が取れればと考えております。

○女性

その件に合わせて、もう一つ質問なのですから、例えばスクールバスが1本だった場合に、それに該当しない形で子どもが学校に行く前に、自転車では無理そうなので、まして雨が降った日には自転車では通えないでの、親が送っていくという形になるかと思うのです。それは仕方がないとして、そういったときに、松尾小学校の仮設校舎が松尾中学校にあるということは、松尾小から松尾中まで距離が伸びたのに、大平小と松尾小の境のあたりから通ってくる子は、普通の今の松尾小学校の位置でも、結構雨の日とか大変だと思うんですね。その子たちが松尾中学校の仮設校舎に通うとなったら、雨の中松尾中学校までは歩いて通えないということで、保護者が送ってくる場合もあるかと思うのですけれども、松尾中学校はカーブであがっていくのも大変ですし、自力で自転車で行っている子どもの交通事故も考えられて、私は仮設校舎があるときの統合はどうかと思っていますがいかがでしょうか。

○教育総務課長

確かに色々な課題がこれから出てくるかと思います。それをどういった形で解消できるのかということを部会の中や教育委員会の中で、ご意見をさせていただいて、役所の中でも通学路の安全等の確保に向けて努力しなければいけないことが出てくるかと思いますので、十分検討させていただいて、開校の時期も含めまして今後考えていくたいと思います。

○男性

大きく分けて2点、お聞きしたいというか要望なんですけれども、まずこういった意見交換会をやってますけども、本当の意見が集まらないと思います。そちらの中に座っているみなさんの中で、小中学生の保護者は何人位いますか。手を挙げてください。二人しかいない。それで本当の気持ちは分からないうえです。本当の意見を吸い上げるのであれば、統合にあたって影響を受ける各年代の例えば蓮沼小、蓮沼中学校、その人たちの意見をちゃんと拾ってください。その学級、学年の意見を拾わなければ、何にも分からない。本当の実態は何も分からないでしょう。ここで話し合っていることは全部机上の上の話。絶対におかしい。それで本当の、例えばみんな忙しい、関心がない、本当は意見がある人はたくさんいるはずだ。そういう意見は絶対拾えない。それは行政が逃げているしか思えない。きちんと、教育長、全員の意見を拾って、各論をもっと聞いてください。絶対分からない。

それと、人口減少について色々とお聞きしましたけど、山武市はどうしているんですか。これから人

口が減る。銚子には港がある、旭には病院がありますよ。長生と茂原には、ジャパンディスプレイもあって、双葉電子もある。みんな行政には観光資源があります。山武には何もない。何をしているんだ。グローバルと、教育問題と、統合の問題と接点が何も見えてこない。それで子どもが増えるのですか。正直に言って、統合は今の状況でしようがないと思いますけど、こんな政策で進めて行ったって、子どもは増えないですよ。将来的に、蓮沼小学校がなくなる、蓮沼中学校がなくなる、この地域にそういう魅力がないということで、子どもを産む若い人が増えますか。増えるわけないだろ。根本的に学校教育問題うんぬんというよりも、この地区に若い夫婦、子どもが増える施策をしないで、どうやって山武市は戦っていくのですか。それが全然見えない。（拍手1名）山武市民はみんなバカなんですよ。私はすごい心配をしているんですよ。今、私は3年位地元を離れて、松戸、浦安に住んでいるんですけども、週末に帰ってくると非常に悲しい現場ばかりです。正直、浦安だって、松戸だって人口は減っています。それでも活気が出ている地区というのは、間違いなく子どもが増えています。松戸市内も全体的には人口が減っている。それでも48万人いますよ。その中で唯一増えているのが、東松戸地区なんですけれども、そこは何が増えているかというと子どもが増えている。学校の統廃合をすれば子どもは増えない。私だって蓮沼に10年はいますけど、小学校がなくなった、中学校がなくなった、そこに住むかというと住まないですよ。グローバルうんぬんと言っているけども、基本的には道路網、道路、交通、それがやっぱりこういった働くところと結びつけないと誰も住まないですよ。であれば、山武市がやらなければならぬのは、ねえ。道路、交通だと。それを成田と結びつけていくのだったら、教育もあるかもしれないけども、まず先に造成をしなければダメではないですか。そういうことはどう考えているのですか。山武市は。それが全然見えない。例えば、松戸、市川、船橋、蓮沼もそうですけど、全部東京に密接している。約1時間圏内で、東京都内まで入れちゃう。そっちで一番安い住宅地というのは、正直、山武市の空き家とタイプは違いますよ。その点で競争力というのが山武市はないわけですから、もっともっと地元のことを考えてやっていかないと、本当にジリ貧、今のままではみんなどうしようどうしようと考えているだけ。それをもっと市民を巻き込んで、真剣に考えていかないとこのままでは千葉県内でも一番だめな市になってしまいます。そんな気がします。以上です。

○副市長

ご意見ありがとうございます。私たちはさぼっているわけではないので、一生懸命考えているつもりではありますけども、まだまだ足りないということはよく分かります。道路を造ったり、交通網、特にJRの便が非常に悪くなっているということは、確かにありますので、そっちはそっちで毎年JRに働きかけておりますけども、なかなか難しいという現実があります。それから若い人の職場を確保していくというのが何よりも大切なと思って、先ほどもお話をさせていただきましたけれども、成田空港であるとか、こここの工業団地もありますけれども、工業団地も人が欲しいと言っておりますけれども、なかなかマッチングが出来ていない。そういうところも市として考えていきたいと思っています。それから子育ての環境というのも、さきほど私も申し上げましたけど、他の町や市に比べていい制度を持っております。そういうところもPRしながら、まだまだ足りない部分もあるかと思います。夕べのNHKの番組でも、その中に我々の市として該当するものが結構ありました。だけどないものもあります。何を増やしていくらいいか、政策を増やしていくらいいかということは、もっと考えてまいりたいと思いますので、色々な意見をいただければ幸いでございますので、よろしくお願ひいたします。

○男性

最後に、意見については一番影響を受ける、さっき言った各学年、蓮沼でも松尾でもそうだと思うの

ですけれども、統合により一番影響を受けますので、今、松尾とかいいましたけど、みんな色々なイメージを持っているかと思います。色々な要望やイメージもある。それを必ず聞いてください。それはね、ここにいる人たちだけでは不公平です。それは必ずやってください。是非お願いします。絶対みんな色々な気持ちがあって、今日来れない人もいるわけですから、みんな子どもを抱えて、きっちと教育長みんな考えているわけですから、その意見を必ず拾ってください。教育委員会も是非、よろしくお願いします。

○男性

これまで何回もこの案について伺っていましたし、色々意見も言わさせていただいておりましたけれども、結局財政の問題なんですよね。統合ってね。子ども達はあまり関係ないような気がしますよね。おっしゃっていることと、書いていること。きれいごとばかり言ってますけど、一番最後におっしゃった最後は財政のことですよと、これが原因だということがすぐに分かりましたけど。まず学校教育課長がおっしゃっていたんですけど、学習指導面で今の現況がいいねという部分は、児童・生徒一人ひとりに目が届きやすい。細かな指導を行いやすい。まあ、それで問題ないとして、学習指導関係というか学習意欲の減退につながるとか、色々書いてありますけれども、結局それって人数が増えたからと言って、変わる問題ではないのでは。本当はこれを作っている人が、現況でお子さんいるのかなと、そういう不信を抱いてしまいますよね。とつつけの理由としか私は考えられない。どうですかね。副市長がおっしゃってましたよね、出生率が1.1、国の出生率は1.3近いのでしたっけ、それを大幅に下回っていますよね。何ですかね。山武市って何でそんなに出生率が低いのでしょうか。どう思います。副市長。まあ、地域的なものもあるから仕がないことも多少はあるのですけれども。じゃあこれで出生率を1.2、1.3にしたいと書いてありますけれども、さっきヨシダさんがおっしゃったように、当然、統合して学校数が減ったら、児童はますますいなくなりますよ。これは間違いないです。絶対にいなくなります。小学校もそうですよね。平成38年度の後期計画で、大平と蓮沼小学校統合とか、わけ分からぬことがありますけど、どんどんいなくなりますよ。それで人口を増やそうというのは、ちゃんとやらおかしいですね。なんで子ども達が市の財政の犠牲にならなくてはいけないのですか。やっていることと、言っていることが大ウソつきばかりですよね。本当に。いかがでしょうかね。まあ、あと閉校うんぬんとか、おっしゃってますけど、まずは各々の地元、特性というものがやっぱりあると思うんですね。特に蓮沼なんかは山武市の中では、かなり優秀な観光地域だと思いますよ。まあ、道の駅とかもありますしね。だいぶお金は他の地域から比べると、大分落ちている地域だと思うのですけど。そういう地域の良さを伸ばそうという施策は出来ないです。何か今日おっしゃっていることを聞いていると、現況を変えないで、変えようとはしているかもしれないけど、それではしょうがないからこうしましょう、ああしましょう、人数減るからこうしましょう、そういうふうにしか受け取れないですね。そもそも、蓮沼もそうですけど、成東中と成東東中だってあれだけの人数がいて、なんで統合させるのですかね。もう言っていることが意味わからないですよ。本当に。それで人数が増えたところで、一クラスの人数が34になりました。じゃあ、それできめ細かい学習指導をしましょうと、出来るわけないじゃないですか。何をおっしゃっているんですか。副市長、教育長そこら辺はどうですか。お二人の意見を聞きたいんですけど、お願いします。

○副市長

地域の特性を活かした経済政策といいますか、地域の振興策をおっしゃられましたけど、やっぱりここ

の蓮沼は蓮沼で、おっしゃるとおり観光だと思います。そういうことで、お配りした資料の中にも書かせていただきましたけれども、着地型観光といいますかね、インバウンド、成田に降りた外国人がここに入ってくる。それから、もし中学校が統合されるとこここの場所が浮いてきます。ここをどのように、例えばスポーツツーリズムであるとかありますけれども、そういった観光で、ここをどうやって使っていくのかといったものは、この地方創生の中に入れております。蓮沼はやっぱり観光だということを私たちも認識を持っておりますので、それは進めていきたいなと思っております。

それから財政問題ありきで、子どもが犠牲になっているのではないかというのは、確かに財政問題を横目で見ながらやっていかないと、財政が破たんしてからでは学校の一つや二つも建ちませんので、そのあたりは考えていますが、最初から説明したとおり、どっちかの学校の敷地を使いましょうというのが、基本的なものです。学校と学校の中間に土地を取得して新たに作りましょうというのは、極力避けたいと思っております。財政問題が影響しております。A 校と B 校の間に作ればみんなが幸せになれるかもしれない。だけども、そういったことではなくどっちかにもっていきましょうと。これは財政の問題が大幅に影響しているところだと思います。しかし、そこは是非ご理解をいただきたいなというのが我々の考え方でございます。

○教育長

色々お話をいただいた中で、まず、子ども達が犠牲になるとう話が今ありましたけれども、我々は子ども達を犠牲にしないように、このプランを考えています。先程来説明しておりますとおり、どんどん世の中が変化して、求められる能力というものが変わってきています。これは本当に様々な面で変わってきてています。確かに少人数指導できめ細やかに指導すれば学力は伸びるかもしれない。でも、今必要とされているのは、学力だけではなくてその学力をどう伸ばしていくのか、いかに自分たちで課題を見していくかという、盛んに言われているアクティブ・ラーニングというものをどうやって実現するかということが求められていることなのです。それは極端に少ない子ども達の中では、とても限られたことしか実現できない。これから時代に必要なそういった能力を育てるには、一定の規模が必要なんだという考え方の元で、我々は教育環境としてそういうものを求めている。そのためには、小さいままの学校にしておくことこそが、犠牲にしていることだと考えています。また、地域の中で学校があればいい、なくなったら本当に人が減るのかという問題、絶対に増えないとおっしゃいましたけれども、極端に少ない人数で子どもたちにこれから必要な教育を与えられない学校に人は来るのでしょうか。そういう環境の学校よりも、ある程度の規模を保って、これから必要な教育を受けさせられる環境を整えた学校に、おそらく子ども達を育てようとしている親たちは、そういう学区を選択してくれると思っています。現に、今求められている英語教育等については、公立学校を選ばずに高い月謝を払いながら、幼少期から一貫した英語教育をするような学校を選択していく方も非常に増えてきておりますし、そういう学校自体も増えてきている現状もあります。それは確かに特殊な例かもしれませんけれども、これから求められるそういった環境に少しでも、近づけていかなくてはいけないというものが我々の考え方でありますので、教育環境という面からいえば、統合することがマイナスなことだというふうにはとらえていない、ということは申し上げておきたいと思います。もう一点、さきほど、成東中と成東東中は人数が多いのに、なんで統合するのかと、話が全く違うというご指摘をいただきました。確かに数字だけを見ればそうかもしれません。しかし、成東中学校には老朽化という大きな問題があります。築 50 年が過ぎ、地域からは学校建て直して欲しいという、署名が上がってきております。そういう環境の面からも併せて考えていく中で、今回、成東中と成東東中を統合する年度を見ていただくと分かるのですが、平成 35

年以降という形になっております。本来であれば、成東中学校の要望を聞けば、もっと早い時期に統合、建て直しということに手を付けなければいけない問題だと思いますが、先程来出ている市の状況とか、財政とか色々な問題からなかなかそれはできない。そういう中で、最善の子ども達の環境を整えるためにはどうしたらいいかということで、2校の学校の生徒数が一つの学校として、ちゃんとやっていけるような最適な状況が得られる時期を目指して考えてきたプランでございます。ですので、ただ単に人数だけとか、そういったことでこの計画が立てられているわけではないということはご理解をいただきたいと思います。よろしくお願ひします。

○教育委員長

最初に私確認しますけど、大ウソつきという表現はやめていただけますか。私ども教育委員も、前6人いて今は5人ですけども、一生懸命話し合いをしてきました。あり方検討委員の委員長さんもいらっしゃいますが、あり方も色々な話をしてきました。だから、そういうことで皆さんも真剣に考えていらっしゃいますけれども、私どもも一生懸命考えたこの2年間ですよ。それを一蹴した言葉で言われると、私、非常に不愉快でございます。まず、そのことだけ伝えておきます。それと、私このリーフレットの最初に書いてある、豊岡小学校と松尾小学校の話が出ていますよね。豊岡小学校は複式で、少ないところが5人ですよ。1学年。さっきはバレーボールチームの話をされましたけど、バレーボールチームが4チーム出来ているというのは、うらやましいですよ。1学年5人しかいないところをどうにかしないといけないでしょう。そういうところも考えて私も行ってみたら、その中ですね、ドッジボールできないと言われたんですよ。その子どもたちの小学校のことも考えないといけないんですよ。ですから、そういうこともあって、こういう話、今回はここに書いてあるようにまずは複式を解消しましょうという選定で進めているんですよ。そういうことも一つ頭に置いていただきたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

○男性

ありがとうございました。私が言いたいのは、複式になっているところをそのまま維持しろなんて一言も言ってないです。今現在、当たり前に運営できている学校をなんで統合させるのか。まあ、教育長がおっしゃったので、まあ、おっしゃることは分かりますよ、よく。ですけど、この地域ではない学校の話になってしまいますが、さっさと校舎を建て替えるべきではないですか。そうでしょう。松尾にある洗心館だってね、あれ、そんなに急いで必要だったのですかね。取り壊しはわかりますけど、あえてそのまま作る必要はなかったのではないかと僕だって率直に思いますよ。だからやっていることが、とんちんかんだとはっきり言って思いますよ。まあ、それで嘘つきという言葉が気に障ったのだったら、謝罪しますけども。ただ、はっきり言ってあなた方よりも、私たちの方がよっぽど煮えくり返っていますけどね。この話が出た最初のうちから、まだまだ、統合が分からぬですよとおっしゃってましたけど、一番最初はね。だけど、この財政の表を見たら分かるじゃないですか。財政のやつが大前提で、じゃあという感じでしょうね。そこで、さっきさんむ医療センターの話とか出ていましたけど、そんなもんね、建て替えるとかおっしゃってましたけど、バカじゃないのかと思いますよね。さっさと東金のメディカルセンターの中に入ればいいんですよ。市長は何をやっているのかしらないけどね。自分がこうやって裏返してまでやっているんだからね。それはどうでもいいことですけど。だから、財政の件はもっと合理化しようと思えばできるのではないですかね。と僕は思いますけどね。まあ、あまり話すとぐだぐだになってしまうので、もうここでやめますけど、ただ、言いたいのは誰のための規模適正化なのかとか、そこら辺をもうちょっと、先ほどヨシダさんもおっしゃってましたけど、関わっている

家庭全員に質疑できるような形をとって欲しいですよね。まあ、いつのこと住民投票をしてもらつてもいいかなと思いますよ。ほんと。まあ、出来るのであれば、そのくらいやって欲しいなというのが僕の希望です。以上です。

○男性

今、教育長と教育委員長さんが、まあ、財政がどうこうというのは抜きにしても一生懸命グローバル化を出来る人材を育てるんだと、おっしゃってくださったと思うのですけども、その表の2に、2ページにありますよね。真ん中に身に付けさせたい力を4つ書いていますけど、私は二つほど抜けているのではないかと思います。やっぱり地域愛、さつきシティプライドとか言ってましたけど、そういう人がいないと、最低でも地域愛、日本愛がないと、そういういたグローバル社会では、頑張っていっても山武市はおろか日本にすら帰属しない人材を送り出すだけになってしまって、何の意味もないと思います。やっぱりそういうのは平行して、伝統文化を大事にするような心を育てる、そういういた教育も絶対必要だと思います。それからもう一つ、様々な価値観の混入とありますけど、まあ、確かにそのとおりだと思うのですよ。幕末とかの時代に一生懸命やっていた道学等を持っていた人たちは初動教育というか、前も教育長が言ったと思うのですけども、論語なり儒教なり、何でもその部分のいい部分を持てば、やっぱり普遍的な価値観が身に付くと思うので、そういういた教育も一緒に行っていたけたらなと。それは地域の方であれば、地域愛でも密接につながるので、そういういた方向でやっていけたら、ありがたいのかなとちょっと思ったりもしています。是非、こういったことをやるとおっしゃっているのであれば、ちゃんとやっていただきたいなと思います。よろしくお願ひします。

○女性

さきほど、あり方検討委員会とかで、色々と検討しましたとありましたけれども、ヨシダさんが言ったように、私、今中学生と高校生の子が小学校に上がる位のときに、こういったことを聞こうとしたアンケートということで、子どもの数だけ書いてくださいと、それぞれの年代の子どもを持つ立場として、二種類書きました。その後、しばらくなくて、あり方検討委員会というものが設置されているということも知っていましたし、そのあとアンケートがなかったでしょうかね。私、色々を意見を持っていたんですけど、そういういたところを拾っていただけなくて、私が聞きたかった、取り入れていただきたかった意見が反映されていればいいのになと、こういったことをもっと聞きたいなと、いっぱい持っていたんですけど、やっぱり今日、今、私一番上が今年成人式になりまして、下が小学校3年生で、中2、高1と4人いるので、やっとこういった場にも子どもを安心して置いてこられて、逆に幅広い年代で子どもを育てているので、色々な立場のお母さんの気持ちも何となく、その立場にはなれないんですけども持っているとは思うですね。そういういたことを考えますと、本来であればこういったところで色々な意見を話すのは、実際に小学校も統合になってしまふかもしれない。私なんかはちょうど一番下の子が中学校の統合に関わりますけれども、ちょっと延期されれば全然関係ないことになってしまいますよね。例えばそういういたことを具体的に、統合の準備委員会の中でやったときには、もしかしたら子どもを持つ親として意見を言えない年代になってしまふかもしれないということなんですけども、今、こういったところに小さなお子さんがいて、話を聞けない。本来であればどういったことを思っているかということを意見として言う場合にも、こういった説明を聞かなければ何も意見持てないと思うのです。だから、よく分からぬうちにこういうことが決まったみたいになってしまふので、もっと、例えば蓮沼なんか、他に比べれば特殊な地域なので、お母さんたちがどう思っているかみたいな考え方聞くよう

アンケートみたいなものをやっていただけだと。そういうことに関しまして、基本は松尾中との統合ということなんですかけれども、南八区・九区、南浜の方の人たちは、成東東中の方が近いですね。部活動で選択するのではなく、学校が近いということで選択を希望したら、例えばうちなんかは川下ですけれども、ちょうどどっちにいっても同じ位の距離なんですよ。でも、松尾小の仮設があって、ちょっとそういったことも考えて、男子バレーボール部もどうなるか分からないのなら、中2で松尾中に行けというよりも、中1から成東東中を選択したいと思ったら可能なのかとか、実際潜在的に蓮沼中に行くべき子ども達が統合になったときに、松尾中に行くとか、成東東中を選択するとか、どういった意見を家庭で話されていて、どういった意見を持っているのか。そういうことも含めて、もっと考えて意見を聞いて欲しいということと、現時点では成東東中に流れるということをどれくらい想定されていますか。これはちょっとお考えをお聞きしたいと思います。

○学校教育課長

学区の部分でございます。自宅から学校が仮にですね、松尾中、成東東中という立ち位置にあった場合には、居住区によって、例えば今現在、自分の行くべき学校に部活がない場合については、部活のある学校へ就学指定の変更が可能という形の申請を受けてやっています。もう一つ、就学区域外の学校へ行く場合には、距離要件というものがあります。明らかに自宅から本来行くべき学校よりも隣の学校の方が近い、というような条件がある場合については、それは就学指定校変更ということで、申請に基づいてやらせていただいているということです。ですから、今後そういう方向にいった場合には、かなり隣接する学区というのが出てくると思いますし、ご心配いただいた部活動の問題も出てきますので、その辺りについては、どのようにして考えていくか、現況の基準である程度対応できますが、もっとレアケースが出てくると思います。そういうことを想定しながら詰めていこうと考えています。

○女性

ありがとうございます。6年生くらいになりますと、プレ思春期みたいな思春期にはなってないんですけど、ちょっと体の変化も出てくるころですし、6年生のときに自分はどうしたらいいのか悩んでしまうこともあるかと思うんですね。そういうことも含めて、統合は中学に入ってからということになる場合であっても、もう6年生のころから、心のケアから、友達とバラバラになってしまふことが想定されますので、そういうところのこともなるべく早めに、分からぬといふことで不安を抱きながら修学旅行に行くのも可哀想ですし、そういうことがきちんと解決してから、先に統合の期日ありきで、間に合わなかつたところは、ドンドンドンとやってしまうのではなくて、きちんとそういうことも含めて、この統合にかかつた2~3学年の子どもたちが、きちんとした学校生活を送れるような形で、統合の期日と準備を決めていくて、ここに書いてあるのは、私は短いかなと。そこに間に合うようにこれから頑張っていただけるのか。それとも統合しなくなるのか、私は分からないですけれども、やっぱり旧市町村に一つあった中学校が無くなるということは、蓮沼の子ども達は蓮沼が大好きで、蓮沼に対しての誇りと言えば、小さいながらもある程度これが蓮沼だというところがありますので、そういうのもしかしたら、何十年か後、戻ってきてここで支えてくれるかもしれない。今、オライ蓮沼とか観光で頑張っている人たちがずっと頑張れるわけではないので、きちんとそういうところを世代交代していくような形で、学校の統合を考えていっていただけたらと思います。自分たちが育っていく中で、俺たちのことは何も考えてくれなかった、統合に関わった子ども達は可哀想だと思われながら、俺たちは何だっただろうみたいな感じで、蓮沼への楽しい思い出がなくなってしまうと、可哀想かなと思いますので、よろしくお願いします。

○教育総務課長

統合に向けて、こういう形で話し合いをしていくって、まずはこの考えに地域の方、保護者の方みなさんにご理解いただく形じゃないとなかなかスタート出来ない問題です。こちらで強制的にやるという主旨のものではございません。ここでお示ししたのは、あくまでも私たちが今まで、あり方検討委員会で意見をいただき、教育委員会で考えてやってきた中で、こういう時期にこの学校を使って統合していくのが一番望ましい形ではないのかという案をお示しして、ご意見をいただいたというのが今日の意見を聴く会になります。そういう中で、統合を先に進めていく、もしこれがこの期日に統合するという話になりましたときには、その前までに今お話をいただいたような心のケアみたいなものには十分配慮し、統合に遗漏のないように進めていくというのは、こちらで配慮しなければいけないと考えております。まずはこの考え方方が、全ての皆さんにご説明できたということには、なかなかならなかったという事ですでの、今後もご意見をいただく、こちらの考えを伝えていくような機会を作っていくことを考えて、意見をまとめていければと。そのうえで進め方、色々と配慮しながらやっていければと考えておりますのでよろしくお願ひします。

○女性

私、このパンフレットを子どもが学校から持ってきたときに、決定なのと思いました。ここには案ということは一つも書いていなくて、(え、あります、ここにあったんですね。)でも、ここを見たときに、これって決定なんだと思ってしまったんです。その中にも中学校のことが書いてあるんですけど、中学校の先生にもう決まり何ですかと聞いたたら、そうではないらしいですよと。私も最初見たとき決まりなのかなと思ったんですけど。やっぱりこれを見て、もう決まったんだと思っている人はすごく多いと思うんですよ。私、一番下が小学校3年生、それを考えたときに、中学校の途中に松尾に行くんだと。しかも南浜なので、成東東中の方が近いので、最初から成東東中に行かせた方がいいかなとか、色々と考えを巡らせてしまったんですね。で、その時に決まりではないんだよと言われて、訳が分からぬ状態。じゃあどうしたらいいの、うちの子の進路、中学校の先に高校があって、そういう先のことを考えていたときに、何も見えない感じになってしまって、訳が分からぬなと思って、私はここで案なのだとということを聞いたので、一回、成東東中に行かせようという考えを止めることができたんですけど、それが分からぬで、どんどん考えている人も中にはいると思うんですね。なんかそのパンフレットの書き方が、乱暴というか、ちょっと伝わりにくいかと思ったんですけど、その案だよということをもうちょっと分かりやすくするような作り方を、今後は考えてもらえませんか。

○教育総務課長

分かりづらいリーフレットになってしまって申し訳ありませんでした。あくまでも案としてお示しました。先ほどから申しましたように、24年度からあり方検討委員会を立ち上げて、話合ってこの案を作ったという中では、何が一番教育委員会として、子ども達の将来を考えていったときに、こういう選択肢が与えられる場にしていくとしたら、こういうものが望ましいのではないかという案としてお示しました。こういう形で説明をさせていただく機会は、今後も必要だと思っておりますけれども、保護者の方の意見を伺えるような機会を他にも考えていいきたいと思います。今のところ、私どもが考えているのは、この状況でやっていけたらという案でお示ししたものには変わりはない。決定という意味合いではないですけれども、教育委員会とするとこれが今のところ考えられる一番望ましい姿としてお示ししたというところでございますので、その点ご理解をいただければと思います。

○女性

パンフレットって、隅から隅まで見ないですよ。ぱっと見て、こういう感じなんだなということがあると思うんですね。例えばこのスケジュールのところに、(案)とあれば大分違うし、表紙だけに(案)とあっても、分からぬ人って多いと思うんですよ。だから、こういう計画の期間(案)とか、きっちと面倒くさいんですけど、それがあると案なんだなと理解できると思うので、次に作るときにはそうしていただけだと説明会に来れない人にも分かりやすいかなと思うので、是非よろしくお願ひします。

○男性

私、睦岡小学校に孫がいて3年生です。それから、2年生。男と女の子です。睦岡小は私の母校で、私ども4人兄弟、全て睦岡小の出身で、姉は睦岡小の教員もやつたこともありますし、私もかつて睦岡小学校北分教場で教鞭をとったこともあります。私の親は学校医として、睦岡小それから睦岡中学校にも30年ほどお邪魔をしていました。私、六つの会場すべてに出て、皆さん方の声を聞きました。成東中での意見で、若いお母さんが意見を言うには勇気がいるんだということで、発言をされておりましたけれども、今日もお母さん方が発言をされてですね、本当に今日はみなさんの腹を割った意見が出たと思います。中でも住民投票にかけたらどうかと、そういうような意見も出ましたけれども、その位のこれから山武市の教育をどうしていったらいいかということについて、私も83歳ですから、先行き何年も生きられないかと思うけれども、二人の孫のためにはやはりきっちとした責任をもって、適正化については取り組んでいきたいなと思います。今私はですね、友人達と山武市民の会というものを作りました、病院問題、教育問題を考えておりますから、幸いなことに学校教育課長、それから財務課長にもですね、意見を伺うような機会もありましたので、これからも一つ是非ご指導を願いたいと思っています。

加茂市というものがありまして、28,000人の市で、先週私電話をしまして市長に話を聞きましたけど、加茂市は28,000人だけれども、絶対に小中の統合はしないと。そういう市長の意見だそうです。そういうところもあるということを、教育委員の方にも参考としてお考え願いたいと思います。それから、今朝、酒田市にも私の友人がですね、2月10日付けで副市長として、大学の教員、市町村の統合の専門家で、大学の教員を辞めまして、女性ですが、ちょっと電話を掛けましたら、酒田市は10万人ほど、1万人ほど人口が減っているそうですが、これは統合の問題についてもやはり真剣に考えていかないといかんということで、市としても取り組んでいるという話をしていました。それから白井市の前の教育長、山本氏に聞きましたところ、白井市はどんどん人口が増えている、学校統合も問題にならないということでございました。それから館山市の校長にも聞きましたら、南房総市の方は、色々と問題がある。小中一貫校があるという話も聞きました。その辺も色々とこれからお考えを願って、やはりみんなが腹の底から賛成できるような統合を行って欲しい。スマールスクールということで、教育委員の先生方の中でですね、五木田先生がまだご発言ですね、ありませんでしたので、先生は大学を出られて、小さな学校ですね、教鞭をとられたということで、先生のご意見をちょっとお伺いできたらと思いますよろしくどうぞ。

○五木田委員

私は、蓮沼中学校、ここが母校でございます。当時450名でした。私が3年生のときに、ここに高知尾議員がおりますけど、高知尾議員が1年生で、その時が一番多かった年代です。まさか、こんな少子化になるとは夢にも思っておりませんでした。今、畠戸さんが申し上げた昭和44年に芝山町立菱田小学校、今年度芝山小学校と統合しましたけれども、芝山町は1校になりました。当時はまだ三里塚に大

きな桜の木があって、そこへ菱田の子ども達は遠足に行きました。御料牧場。そんなふうにして、菱田小学校の思い出はありますけれども。私は教育理念として、子ども達の学習環境を作るのは、大人の責任ではないかと、そう思っております。勉強は一人でもできますけれども、社会性とか道徳とか、そういうものを学ぶにはある程度の集団の中で学ばなければ、出来ないことだと私は思っております。この学校のあり方も、色々な様々な議論が、意見を聞く会でありますので、皆さんの意見を拝聴しておりますけれども、みなそれぞれ真剣に考えてくださっているんだなと思っております。皆さんの意見を持ち帰って、教育委員会で検討することあります。よろしくお願ひします。

○男性

私が知らないだけかもしれないんですけども、教育委員会の統合を考えているメンバーの方に、議員さんは入っていらっしゃるのでしょうか。山武市の選挙なので、結構マニフェストとかで統合に賛成とかいう議員さんがいたと思うのですけれども、そういう住民の意見が届いているのかなというところがちょっと分からないので。

○教育総務課長

統廃合の話し合いをするあり方検討委員会という組織を立ち上げて、最初答申をいただくための会議を開きました。その中には議会代表として、議員さんも入っていました。検討委員会に答申を作っていてください、それを元に教育委員会で、まだ再度内容を検討しながら、この基本方針・基本計画を作っていましたという形になります。その段階では議員さんは中には入っておりません。最初のあり方検討委員会の中に入っていたという形になっています。

○男性

今のメンバーには入っていらっしゃらない。

○教育総務課長

現在あり方検討委員会は存続しているんですけども、今は教育委員会が考えた基本計画（案）、基本方針（案）というものが出来た段階で、意見を聞くという形で参加していただいているんですけども、その中には議員さんはお願いして入っていただいております。

○女性

私もプリントを子どもが持つて帰ってきて、やっぱり決定したんだと思いました。蓮沼中学校はもう統合なんだなと思っていたんですけど、案なんだということを聞いたので、ちょっと意見なんんですけど、蓮沼中学校は海に近い中学校、一つだけだと思うんですね。ここがなくなってしまうとみんな海の方は、空港道路を使って通学しなければいけない。通学の心配が出てくるなと思うのです。蓮沼中学校の近くに上堺小学校の子たち、今年うちの子が中学1年生になるんですけど、やはり上堺の小学校から一人入ってくるということで、今の蓮沼中学校に緑海小学校から来ている子がいると聞いている。だから、位置的に考えて、他の地区の小学校から蓮沼にという子が増えた場合は、残して増えた場合は、蓮沼中を魅力的な学校にして子ども達を集めて、増やしていくって欲しいなと、希望で思ったりしております。通学なんかの心配も、民家がある方が安全ではないかなと思ったりしているので、そういう意見もちょっと考えてもらいたいなと思いました。

○男性

今日はお忙しい所これだけの方々に集まっていたので、まず、私来たときに、非常に愕然としたのが、これだけしかいないのということです。蓮沼に住んでいて、子どもがいれば、学校がこれからどうなっていくのかということは非常に重要な問題だと思います。私も、保育園に2人、妻のおなかにもう3人目がいるんですけども、一番影響があるのが今小学生とか、保育園、もつというとこれから生まれてくる子にもろに影響があるんですね。見てもらうと分かるように多分、男性の方で私が一番若いのかなと、30歳なんですかね。私くらいの年代の人がほとんどないですよね。これって周知的に問題はなかったのかなと。私は子どもが保育園に行っているので、保育園経由でこの会があるのを知ったんですけども、中には保育園に行っていない子どもの親御さんもいますよね。そういう方々には、こういう会があるよというのは分かっているのか。非常にこれだけの方が集まっていたりしているのに、聞く側がこれ位しかいないというのは、本当に現状を物語っているというか、蓮沼これで大丈夫なのかなど非常に思うのですよね。案に関しては見させていただいて、非常によく考えられた案だと私個人的には思います。逆に言うと、もうこれしかないのかなと。統廃合に関しては、理想を言えば蓮沼に住んでいる人が増えて、蓮沼の学校がそのままあって、みんなそこにいければそれが一番いいと思うんですけども、現状を考えたら統廃合は仕方がないのかなと。今中学校に上がるときに、やりたい部活がないからという理由でよその中学校にいってしまう子どもとかもいますので、それもどうなのかなとずっと前から思っていました。学校がなくなれば人が住まなくなるというのは間違いない、そのとおりだと思うのですね。じゃあ、学校があれば人が増えるかというと、確かに増えないと思います。学校があってもなくても蓮沼は人が減っていくと思います。それを増やす努力はしなければいけないのでしょうけれども、そもそもこういう会があるのに、これしか人が来ないというのは、その時点でどうなのというのは率直に思いました。やっぱり子どもが社会性を身に付ける上では、先ほど教育長の方からもありましたけれども、一定の人数がいないと、社会に出ると色々な人がいると思うのですね。職場でもどこでも。そういうってやっぱり学校でもある程度の人数がいないと、社会性というのはなかなか育っていないのかなというのはあるので、そういうのも考えると致し方ないのかなと。まだ、案なのでこれから色々と検討されたりするのでしょうかけれども、まず周知っていう意味で、先ほど忙しく来れない方もたくさんいらっしゃるという話がありましたけれども、それはそうだと思います。忙しくても興味がある方は、来ると思うのでけれども、まず全体的に周知していただいて、色々な意見を聞いていただければなと。あと、細かい話ですけど、先ほど統廃合の中身についてこれから詰めていくという話をされていましたけど、バスなんですかね、1日1本・2本ではさすがにそれはつらいかなと思うので、これから詰めていく中でもうちょっと増やしていただければなと思います。よろしくお願いします。

○教育総務課長

私どもが、周知をどうやったかについてだけご説明します。学校経由と保育園等にお願いして配った形で、子どもさん経由でいった分と。あとは区長さんにお願いして、全戸配布という形でお願いしてあります。ですから区に入っている方には全員にお配りしているような形になりますので、それと広報紙にも今回の開催については記事を載せさせていただきました。それと防災行政無線で、今日の開催についての案内をさせていただいたということで、行政で通常やり得る案内の仕方として想定できるものはやってみたんですけれども、今回3日間、6か所でやったんですけれども、どこも同じような感じで集まつてこなかった、という結果になってしまったところです。また、周知の方法については、これから色々と考えていかなくてはいけないかなと思っています。

○男性

私が知らなかっただけで、すいませんでした。そこまで周知していただいたということであれば、単純に住民が関心がないということだと思うので、それ以上の周知の方法はないと思うので、失礼いたしました。

○男性

副市長にお伺いしたいんですけど、先ほど五木田委員が当時 450 人いらっしゃった。で少子化とおっしゃってましたけど、少子化じゃないですよね。原因は。結局出た人が帰ってこない。死んでいるわけではないので。今、移住者を受け入れをちょこちょこやつていらっしゃるかと思うのですけれども、山武市全体にゆかりのある方が帰って来るときに、なんか補助しますよ協力しますよ、そういう事業というのは、される予定というのはあるのですか。そういうのを、ちょっと帰りやすいというような、まあ山武市であれば千葉や成田に通うことができるわけですか。今、その辺に出てる方もいらっしゃるわけで、頑張れば東京だって通えなくはないというところで、そういう方たちが帰ってもらえば、多少は子ども達が増える。生活基盤がちょっと増えるのではないかなど。新しい方に目を向けるのではなくて、出ていった方に対して、補助を行うというような考えはありますか。お願ひします。

○副市長

椎名市長と色々と議論をします。そうした場合ですね、日本の人口が減っていっているんですね。大体どこも。東京は人口が集中していますね。で、東京圏以外の東金もそうです、大網もそうです、こういったところで人口の取り合いっこは基本的にしたくないと。したくないという気持ちこれはみんなそうなんですね。日本全国の人口は一定規模で減っていって、増えているのは東京だけ、東京からとつてくるようにします。だけど、その他の人口の取り合いはしたくないという本音でございますが、そうはいっても、やっぱりそういう施策をやっているところに、皆さん引き付けられていくわけですから、施策で負けたくないということで、基本的には取り合いっこはしたくないんだけれども、負けたくないでの、やるというのあります。一番の代表例として、こちらに入って来た人に、100万円上げますだとか、新築住宅を建てたら、100万円上げますとか、これはかつての政策ですと全く否定されていた政策でありますけれども、そうせざるを得ない部分があると思います。ので、それは部内でも議論をします。しますが、その1点だけはまだ越えていません。政策をしようとするようにはなっていませんが、ただ単にお金を配るということがいいのかどうかという議論ですね。それ以外のところで間接的に優遇しますとか、そういうものはどんどん今やっている途中ですけども、今の現状を申し上げるとそういうところにあります。

○男性

昔から、地域って人がいて、地域が重要で上はどんどん繰り上がっていくということで、地域が大事だと思うのですよ。それを遠慮して取り合いっこしたくないだとか、そういう話ではないと思うのですよ。いずれ補助金とか交付金とかは無くなるものではないですか。それまでにある程度やっぱり、今頑張って力をつけたところに人は集まって、そこが中核となって、実を結んでいくわけじゃないですか。そういういためはした方がいいと思います。私は。

○副市長

タベ、NHKを見たといいましたけども、フランスの少子化政策、家族政策らしいのですけども、3人目が生まれたら、1千万円位くれるわけですね。そうすると増えるはずですよね。大なり小なりそういうものは必要かなと昨日テレビを見ながら思いましたので、色々と勉強してみます。

※男性マイクを持たず

今聞いていて思ったんですけど、副市長が中途半端に動くことは、山武市が中途半端になってしまふんですよ。だから、そこがおかしいじゃないですか。

○副市長

今、そういうことをやりますとは言えませんですよね。

※男性

こういう中途半端な回答をするから、中途半端になてしまう。

○副市長

私の責任の範囲で言えるところまで、言ったつもりでございます。

○最後に教育長あいさつ

本日は、たくさんいろいろなご意見をいただきましてありがとうございます。今後の計画の詳細を検討していく中で、十分にいかしてまいりたいと思っております。今回、お示しいたしましたこの計画は、教育委員会のほうで、教育環境を第一にした考え方をもとにして、現在ある様々な条件を加味して、今現在でもっとも良いと判断した案を出させていただきました。しかし、社会状況などの変化によって、大きく変わってくることも多々あると思いますし、また、何よりも地域の皆さんのご理解が重要だというように考えております。この計画案について、皆様方に考えていただきますことが、子どもたちの未来と地域の将来像をしっかりと見つめ直す、きっかけになってもらえることも期待しているところでございます。本日はどうもありがとうございました。

※終了後（全部の録音は出来ず。）

※男性

・・・・ここでお話をすると、話ができないので、ただそれだけ感情的になる位の意見を皆さんを持っている中で、ああいう態度を。分かります。皆さん一生懸命やっています。大ウソつきではありません。だけど、どのように後ろを向いて何かあったら抑えてくれと、そういう態度をとられると、単におそらく何も言えなくなっちゃう。たくさんいらっしゃるので。

○委員長

私は色々な意見を言ってもいいですよ。でも、大ウソつきはやめてくれと。

※男性

分かります。だったら、ここで討論して話をすればいいじゃないですか。

○委員長

そうそうそう、だからそのことはいいですよ。

※男性

そうじゃないですよ。何も言えないような雰囲気が出てしまうので。高圧的にされると、私なんかは言えますけど、それを感じてしまう方もいらっしゃるので。

○委員長

そこは分かりますよ。

※男性

それだけ一生懸命考えていらっしゃるので。

○委員長

はい。

別紙資料②

山武市立小中学校規模適正化・適正配置基本計画(案)に関するアンケート集計結果(単純集計)

平成28年2月24日 現在

問1-1(性別)		成東中学校区	成東東中学校区	山武中学校区	山武南中学校区	蓮沼中学校区	松尾中学校区	割合
男性	37	4	9	3	4	7	10	59.7%
女性	25	3	3	2	6	10	1	40.3%
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
計	62	7	12	5	10	17	11	100.0%

問1-2(年齢)		成東中学校区	成東東中学校区	山武中学校区	山武南中学校区	蓮沼中学校区	松尾中学校区	割合
10歳代	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
20歳代	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
30歳代	15	1	3	1	1	5	4	24.2%
40歳代	17	0	2	1	5	7	2	27.4%
50歳代	12	2	1	0	1	5	3	19.4%
60歳代	11	4	5	1	0	0	1	17.7%
70歳代	4	0	1	1	2	0	0	6.5%
80歳代	1	0	0	1	0	0	0	1.6%
無回答	2	0	0	0	1	0	1	3.2%
計	62	7	12	5	10	17	11	100.0%

問2(子どもの有無)		成東中学校区	成東東中学校区	山武中学校区	山武南中学校区	蓮沼中学校区	松尾中学校区	割合
未就学児童	22	2	7	1	5	3	4	25.6%
小学生	33	1	6	3	3	15	5	38.4%
中学生	14	0	0	0	1	10	3	16.3%
子どもはない	16	5	3	2	3	1	2	18.6%
無回答	1	0	0	0	0	0	1	1.2%
計	86	8	16	6	12	29	15	100.0%

※複数回答あり

問3(基本計画(案)について、どう思われたか。)

		成東中学校区	成東東中学校区	山武中学校区	山武南中学校区	蓮沼中学校区	松尾中学校区	割合
理解できた。	32	5	5	4	7	4	7	51.6%
理解できない。	11	1	2	1	0	7	0	17.7%
どちらともいえない	12	1	2	0	2	4	3	19.4%
無回答	7	0	3	0	1	2	1	11.3%
計	62	7	12	5	10	17	11	100.0%

問4(統合を進める上で、配慮を要するもの)

		成東中学校区	成東東中学校区	山武中学校区	山武南中学校区	蓮沼中学校区	松尾中学校区	割合
学校の配置や位置	13	4	2	2	0	5	0	11.5%
児童生徒の通学手段	28	2	5	2	4	7	8	24.8%
児童生徒の教育活動	24	3	2	2	7	6	4	21.2%
児童生徒の数	3	1	0	0	2	0	0	2.7%
学校施設の整備状況	5	0	1	0	2	1	1	4.4%
地域活動とのつながり	16	2	5	1	3	5	0	14.2%
廃校される学校の跡地利用	15	2	5	0	2	0	6	13.3%
その他	4	1	0	1	0	2	0	3.5%
無回答	5	0	2	0	0	2	1	4.4%
計	113	15	22	8	20	28	20	100.0%

※複数回答あり

成東中学校区

問3 基本計画(案)の内容について、どう思われましたか。

回答区分	回答数	理由(記載のあるもののみ)
理解できた	5	・市の考え方等は分かった。 ・本日の丁寧な資料、説明でさらに良く理解することができた。
理解できない	1	・学区の中心に！
どちらともいえない	1	・やはり決まった答えです。
無回答	0	

問4 統合を進める上で特に配慮を要すること。

回答区分	回答数	その他と回答した方の内容
その他	1	・今後、人数が増えた時はどうなるのでしょうか。

問5 自由意見(類似の意見は集約)

- ・母校がなくなるのは正直、非常にさみしいですが、自分の子どもを含め、この地域の児童生徒のより良い教育や成長を願えれば、計画どおり進めていくべきだと思う。
- ・統合より先に行動できる部分(部活動を先行して合同で活動する等)は、早急に取り組んでも良いのではと思う。
- ・いろいろな問題、いろいろな住民の声があり大変かと思いますが、全ては子どもたちのために、より良い決定ができればと思う。
- ・市になって良かったのでしょうか。駅のまわりがきれいになり、でも市の中心、駅のまわりには何もない。これで人口増になるのか。
- ・人数が少なくなった、老朽化したので使わない、建物が新しいから使う。なぜ、海に近い学校に行くのでしょうか。津波等の対策は考えていますでしょうか。3.11を忘れないでください。
- ・今回の説明会では、グローバル化、人口減少を強調されていましたが、省略された資料P5～7こそ、詳しく述べるべきである。P14にしても、関係する箇所の説明だけで良いのでは。統合にあたってもっと細かい説明があるものと思っていた。

成東東中学校区

問3 基本計画(案)の内容について、どう思われましたか。

回答区分	回答数	理由(記載のあるもののみ)
理解できた	5	・孫が思春期の時、中学校の統合について、孫が上手に対応できるのかなど、とても心配に思います。ひたすら、強い心の人間に育つて欲しいと願います。教育ほど大切なものはありません。 ・道理にかなっている。 ・大変難しい問題をここまで進めていただいて大変だったと思う。統合は必要なことということは、確かにことだと思う。
理解できない	2	※記載なし
どちらともいえない	2	・これから保護者たちの意見を多く取り入れてください。
無回答	3	

問4 統合を進める上で特に配慮を要すること。

回答区分	回答数	その他と回答した方の内容
その他	0	

問5 自由意見(類似の意見は集約)

- ・成東中と成東東中の統合が気になって、今回きました。それ以外の話も聞けてよかったです。
- ・小学校の統廃合については、通学方法について十分検討をして通学路を決めていただきたい。
- ・成東中と成東東中の統合。学校名はお決まりですか。本当にすんなり行くのでしょうか。保護者の声は、いろいろな考えがあります。
- ・教育環境整備、通学環境整備の面では、親と子どもの気持ちの準備が必要となります。計画(案)が変更となった時には、説明会等で報告を行っていただきたいです。
- ・地域に若者が帰るように願っています。

山武中学校区

問3 基本計画(案)の内容について、どう思われましたか。

回答区分	回答数	理由(記載のあるもののみ)
理解できた	4	・我が家にいる子どもたちが、山武市の大切な一人であったことに気付きました。しっかりとそだてないといけないと思います。
理解できない	1	・一方的な説明。
どちらともいえない	0	
無回答	0	

問4 統合を進める上で特に配慮を要すること。

回答区分	回答数	その他と回答した方の内容
その他	1	・教育効果の向上の検討

問5 自由意見(類似の意見は集約)

- ・子どもたちが安全に登校できる学校づくり(配置)を考えていただきたい。
- ・後期計画の前倒しも必要ではないか。
- ・財政的にみれば合理化は必要。
- ・教育的に考えれば、学校を大きくすれば良いとは思えない。
- ・若い人の意見をよく聞いて進めてください。
- ・一方的な資料説明では、賛成できない。
- ・家庭教育を基本として、親が子どもの将来を考え、子育てができるようにして欲しい。

山武南中学校区

問3 基本計画(案)の内容について、どう思われましたか。

回答区分	回答数	理由(記載のあるもののみ)
理解できた	7	・子どもたちの関係が固定化しないよう、大規模化が必要。 ・複式学級はさせていただき、多くの子どもたち(適正数)の中で教育を受けて欲しい。
理解できない	0	
どちらともいえない	2	※記載なし
無回答	1	

問4 統合を進める上で特に配慮を要すること。

回答区分	回答数	その他と回答した方の内容
その他	0	

問5 自由意見(類似の意見は集約)

- ・アクティブラーニング、ICT教育、グローバル教育の考え方はとてもいいと思った。
- ・計画が予定、理想で終わらず、実現、実績として形となっていけばいいと思います。
- ・安全で安心して学習や活動ができる環境を望みます。
- ・参加者が少なくて驚いている。子どもがいる家庭では誰かに預けての参加になるので、平日の屋間に開催して欲しい。
- ・説明の内容が難しい内容だった。小中学校の統合の話をもっと聞きたかった。
- ・今後の統合に向かい、保護者も積極的に話し合いに参加していきたいと思う。
- ・市の財政がとても心配になった。
- ・中学校の統合に際しては、小学校と中学校のPTAが一緒に考えてつくりあげて欲しい。
- ・子どもたちは多感な時なのでメンタルを特に気をつけて、混乱しないように対応していただきたい。
- ・閉校後の説明は全くありませんでしたが、日向小も山武西小も通りに面していないので、たまり場となってしまうことが心配です。
- ・跡地利用としては、多様な利用方法と昼夜問わずに使える方法を考えたいと思う。
- ・ぜひ、オープンな意見交換の場をお願いいたします。

松尾中学校区

問3 基本計画(案)の内容について、どう思われましたか。

回答区分	回答数	理由(記載のあるもののみ)
理解できた	7	<ul style="list-style-type: none"> ・(案)として理解した。 ・山武市の将来がより良い地区となるよう、役職員全ての人が認識をもってくれば良いと思う。 ・市と地域の意見交換を今後もしていただきたい。 ・子どもたちのために必要性を感じた。 ・児童数が少ないことは事実で、これからも上昇する見込みはないため、緊急度が高い順に統合を行う計画は納得できる。
理解できない	0	
どちらともいえない	3	・松尾の小中学校と蓮沼中学校の統合スケジュールが、やはりきびしいと思う。
無回答	1	

問4 統合を進める上で特に配慮を要すること。

回答区分	回答数	その他と回答した方の内容
その他	0	

問5 自由意見(類似の意見は集約)

・松尾小の建て替えの間、松尾中へ仮移転する件について、小学生が充実した遊具で遊べないのではないかと思う。最低限の遊具がないと、子どもたちが友だちと楽しく遊べない。
・方向性や合併は、早急に進めなくてはいけないとは思いますが、急ぎすぎるような計画ではないかと思う。
・方向性は理解できます。今後も地元に戻れる環境づくりが必要だと思います。地域の活性化には、若い世代と老人世代の融合が必要だと思います。
・教育指導者も、教育者としての道徳を含めた育成も必要かと思います。
・グローバルな人材と言っていますが、まずは、一人の人間として育てることをお願いしたい。
・若者がしたい仕事と山武市にある仕事のギャップに大きな差がある。若者が集まる場所がない。
・統合準備専門部会(仮称)に推薦したい人がいる。
・児童の安全のため、通学路の整備にも力を入れて欲しい。
・まつおこども園の移転について、働く保護者としては、まつおこども園の立地はとてもよい場所にあり、敷地は狭いが預けやすいう場所だと思います。仮に移転した場合、子どもを預けている大多数の親は豊岡小の場所まで預け、迎えをすることになり相当な負担になると思います。また、松尾小に兄弟がいる親は、洗心館(学童クラブ)と豊岡小の2ヶ所に送迎することになると思います。
・松尾地区の中に、こども園があつたほうがよいのではと思いました。
・本日の説明会には未就学児の保護者世代の参加が非常に少ないといましたので、こども園保護者への説明をしていただければと思います。
・グローバル社会に貢献できる人材を育てるにあたり、自国の文化の理解も視野に入れとありました。自国を知る、また、郷土愛を育てる土壤となるのは、幼少期におかれられた環境によるものも大きいと思います。山武市は山あり、海あり、田あり、畑あり、子どもが成長していくには、大変すばらしい環境にあります。その特色が活かせる教育をぜひ大切にしていただきたいです。
・豊岡小学校の跡地がこども園になることですが、豊岡小は自然に囲まれ、子どもたちがのびのび学校生活を送っています。地域の人とのかかわりもあり、その良さをぜひこども園にも引き継いでいただきたく、お願ひいたします。

蓮沼中学校区

問3 基本計画(案)の内容について、どう思われましたか。

回答区分	回答数	理由(記載のあるもののみ)
理解できた	4	<ul style="list-style-type: none"> ・内容は理解できましたが、賛成はできません。 ・市の考えは理解できたが、反対である。
理解できない	7	<ul style="list-style-type: none"> ・全員の意見を聽取せよ。 ・統合は必要ないと思います。 ・そんなに急がなくても、もっとじっくり考えて欲しい。 ・こんな素のままでは、不安で賛成できない。
どちらともいえない	4	<ul style="list-style-type: none"> ・いつまで(案)ですか。 ・先が見えない。 ・財政力がないということでしょうが、後半の説明は今回の意見を聴く会に必要だったか疑問に思います。
無回答	2	

問4 統合を進める上で特に配慮を要すること。

回答区分	回答数	その他と回答した方の内容
その他	2	・統合は必要ないと思います。

問5 自由意見(類似の意見は集約)

・検討が足りない。
・市長以下、リーダー陣の強いリーダーシップを望む。ビジョンが見えない。
・合併に伴う子どもたちへの影響を全く考えられていないと思います。パレードやりたい子どもたちは、松尾へ行ったら今までのような練習はできません。子どもたちの夢をこわさないでください。子どもがパレードができなくなるかもとガッカリしています。
・受験を控えた子どもたちへの影響も大きいと思います。今までのよう落ち着いた環境で勉強させてあげたいです。
・説明途中に寝ている担当(その様に見えたのかも?)がいました。委員の態度がその様でよいのか。本気で取り組んでいるのか疑問です。
・もっと腹を割って話しましょう。
・統合する年に関係する年齢の子どもを持つ親として、自分の子どもの進路を決められない、中途半端な状態になりそうです。先が見えなく不安でいっぱいです。
・お話しもありましたが、交通網の整備をぜひお願いしたいと思います。
・統合後の小中学生及び高校生の通学の変更について、考えていただきたいと思います。スクールバスに高校生も乗れるとか。
・地域と学校のつながりを大きくして、地域愛を育てていって欲しいです。
・市の教育施策、これから山武市教育の取組の話を聞きましたが、これからどういう人を育てたいのかわかりません。幼稚園から英語を教えて、成田空港に勤める人を育てたいということですか?それなら、自分の子どもを山武市で育てたいとは考えません。
・グローバルな人間って、どんな大人ですが?そんなことより、「学童保育を6年生までみます。」としたほうが、近隣からも子どもが集まると思います。
・住民の意見に寄り添って進めていただきたいです。
・魅力ある街づくりから始めるべき。
・小中学生の保護者全員の意見も聞いてください。
・子どもたちが蓮沼に愛着をもって育っていかれるよう、基本計画を進めていただきたい。

山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（案）についてのパブリックコメント手続きの結果

意見の募集期間 平成28年2月1日～平成28年2月29日

意見の提出者 4人

意見の件数 32件

山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（案）については、平成28年2月1日から2月29日まで行った意見の募集において、 4 の方から32件のご意見が寄せられました。 寄せられた意見などの概要とそれに対する市教育委員会の考え方を次のとおり公表いたします。貴重なご意見をありがとうございます			
--	--	--	--

※山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（案）は、山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本方針を踏まえ、実施時期・実施方法などを定めたものです。規模適正化・適正配置の基本的な考え方については、基本方針の中に示しております。

No.	意見等の要旨	意見数	市の考え方
1	学校統合時における、基本的な考察及び議事が行えていない。 次に示す、基本的な考察を再度検討することを提案する。 ①教育目標の設定：教育理念を定める ②教育環境向上：校地面積、校舎面積、校舎の位置 ③具体的な学校統合計画	1	教育理念につきましては、平成23年度に策定された教育振興基本計画の理念に基づき、今後の基本計画案を作成しました。教育本計画や校舎の面積につきましては、基本方針に記載しております。本計画案につきましては、基本計画策定後、対象学校区の実施を予定しております。 (基本計画(案) P3～P14 基本計画(案)の付属資料P3～P4)

小・中学校では一一定の集団規模が、確保されていることとが望ましいものと考えられるが、「学校の小規模化」問題は、学校における教育活動や学校運営等、様々な面に影響を及ぼすことに影響する。適正化の課題となる背景について伺う。	1 2 教育活動や学校運営等、様々な面に影響する。適正化の課題となる背景について伺う。	日本は少子高齢化を迎えて、人口の減少は避けられず、本市においても同様の状況においで減少傾向を示す。児童生徒数が進んでいます。現在、多くの小中学校で「学校の小規模化」が進んでいます。それぞれの学校で保護者や地域の方々の協力を得ながら、少子化の波は、児童生徒の教育環境、学校機能をも損なう恐れがあります。(基本方針P3～P15)	1 3 地域コミュニティの衰退、三世代同居の減少、共働き世帯や一人親世帯の増加、世帯当たりの子供の数の減少といった様々な背景の中での、家庭や地域における子供の社会性育成機能が弱まつているため、学校が小規模であることに伴う課題が、かつてよりも一層顕在化している。山武市の少子化の進展等の状況変化について伺う。	山武市の児童生徒数は、平成8年度の6,880人をピークに年々減少し、平成33年度の推計では、2,950人となっています。このことは、若年層が、進学及び就職のため山武市を離れ、大都市圏で生活するものが増えていると考えています。若年層の流出は、将来活供を産む年齢層の流出につながり、少子化を進行させる原因と考えています。(基本計画(案)の付属資料 P1～2・9～11)	1 4 現在の教育理念は、抽象的な成果目標であり、また、教育委員会がいう教育理念と本来据えるべく、教育理念とは整合性に欠けた思想。グローバル化が叫ばれる中、教育理念を具体化し児童生徒が集団の中で、多様な考え方と触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や一人一人の資質や能力を伸ばしていく表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせること、と変更すべきと思う。	地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、平成27年9月に山武市教育大綱を決定しました。山武市教育振興基本計画に掲げる教育理念を踏まえ、次の4つの目標を掲げ、各施策に取り組んでまいります。 ①幼少期重視の人づくり ②自立を促し、未来を切り拓ける人づくり ③地域を支える人づくり ④グローバル社会で活躍できる人づくり 以上を目指す中で、身に付けさせたい力を育成します。	1 5 一定の規模の児童生徒集団が確保されていることや、経験年数、専門性、男女比等についてバランスのとれた教職員集団が配置されていることが望ましいものと考えられ、このようなると考える。また、一定の学校規模を確保することが重要となると考える。
---	---	--	---	--	---	--	--

教員の指導力や学校教育の質の向上が期待されるが、教育の質の向上について、現在配置されている教員について、県の採用試験時の序列はどのような状態であるか。	全国的に比較可能な理科教育振興法、産業教育振興法に基づく設備、備品の充足状況、学校図書館図書標準達成状況に基づく教材・教具・基準充足数等について山武市の充足率はどうなっているか。	小中学校は各地域のコミュニケーションの核としての性格を有するところが多く、防災、保育、放課後子ども教室推進事業、放課後児童健全育成事業、地域の未来の担い手である子供たちを育む営みでもあります。学校教育は地域のあり方と密接不可分であるという性格も持つてあります。まちづくりのあり方と教育委員会の見解を求める。	学校規模の標準は、「12学級以上18学級以下」が標準とされていますが、小・中学校ともに「12学級以上」と教育委員会としてどのよくな字級数を想定されているのか。	学級数が少ない学校においては、児童生徒数や教職員数が少なくてなることによる影響も含め、学校運営上の課題が生じる可能性があります。ありますが教育委員会としてどのような方策を取るのか。
1 県全体としての採用となつていることから、採用時においてお願いします。	1 平成26年度の学校図書館図書標準達成状況については、小学校については75%以上が6校、100%が7校、中学校については25%未満が1校、75%以上が2校、100%が3校となっています。必要とされている最低限の備品については、整備されています。なお、随时入れ替え等を行ながら、整備していきます。	1 学校は市民共有の貴重な財産であり、貴重な空間であります。地域の意向やニーズに十分配慮し、有効活用されるよう統合準備専門部会（仮称）で検討していきます。（基本計画案）の附属資料P18	1 学校の方検討委員会から、小学校12学級以上、中学校9学級以上が望ましいという答申をいたしました。その後、行われた以基本方針についての意見を聴く会や、学校等での説明会でのご意見を踏まえ、教育委員会で協議した結果、小学校については12学級以上が望ましいが、地域の実情等を考慮し、複式を有しない6学級を下限の学級数としました。中学校については、教科担任制であります。（基本計画案）の附属資料P5	1 市独自の少人数指導講師を、現在7校に7名を配置しています。その他の、教育支援員や心の教室相談員も配置していきます。また、学校間の連携を深める取り組みについても積極的に進めていきたいと考えます。

導入された、タブレット型PCを用いICTを活用した教育を取り入れていく事でしょうが、学級の児童生徒数が余りにも少ない場合、班活動やグループ分けのバーションや、こうした新たな時代に求められる課題に制約が生じることが困難になるという課題も生じるのではないか。	一般的に小・中学校共通して、学級数が少なくなるに従い、配置される教職員数が少くなるため、様々な問題が頭在化し、結果として教育活動に大きな制約が生じる恐れがあることに留意が必要となると思う。	学校運営上の課題が生じた場合、児童生徒に影響を与える可能性がある。また、小学年1学級教員を配置するため、1学年2学級以上であることをが望ましいと考へる。中学校においては、少なくとも1学年2学級は、同学年にあることをが望ましいが、また、全ての授業で教科担任によって指導を行う為、少なくとも9学級以上の学習指導を行ふべきである。	学校運営会議として、子どもたちが豊かな学校生活を送るために制約が生じることがないよう、一定の学校規模を確保し、教育効果を発揮できるように環境を整える必要があると考えます。(基本方針 P10～P15)
11	12	13	14
協働的な学習に制約が生じることがないよう、一定の学校規模を確保し、教育効果を発揮できるように環境を整える必要があると考えます。(基本方針 P10～P15)	教育委員会の責務として、子どもたちが豊かな学校生活を送るために教育環境、充実した集団活動の中で、切磋琢磨しながら成長できる教育環境の創出、それに伴う学校の運営面や教職員の指導力の向上も含め、一定の学校規模を確保し、教育効果を発揮できるよう環境を整える必要があると考えます。(基本方針 P10～P15)	学校のあり方検討委員会から、小学校12学級以上、中学校9学級以上が望ましいといつての意見を聴く会や、学校等での説明会でのご意見を踏まえ、教育委員会で協議した結果、結果、小学校については12学級を下限の学級数としました。中学校については、教科担任制であります。(基本計画(案)の附属資料P5)	将来推計に基づき、1学級あたりの児童生徒数を考慮し、判断材料としました。教職員数については、小中学校定員配置基準講師や、教育支援員、心の教室相談員などの配置を進めていきます。(基本計画(案)の附属資料P5)

学校規模のあり方等について検討するにあたり、学校全体の児童生徒数、中長期的な今後10年以上の児童生徒数の動向、予測、児童意識の育成の状況、社会性やコミュニケーション能力、規範意識の育成の状況などを踏まえて総合的な判断を行なうことが望まれると思う。また、平成38年の児童生徒数の予測状況はどうなっているのか。	推計については、平成26年4月2日から平成27年4月1日に山武市で生まれた子どもたちの数を抽出し、平成33年4月に小学校へ入学、平成39年4月に中学校へ入学します。住民基本台帳から年齢別の人數を、該当する小学校・中学校へ進学したとして積算しています。 全体的な推計については、まち・ひと・しごと総合戦略の人口ビジョンを参照しています。 (基本計画(案)の附属資料P9～P11)
地域の実態を踏まえた方針や基準を定め、具体的な検討を進め、地域の将来像を全体的に構想する中で、時間的な余裕を持つて学校統合の適否に係る検討を行うことがあると考 用であると考 える。	平成24年11月の山武市学校のあり方検討委員会への詰問から始まり、3年間をかけて検討した結果をお示ししました。今後は、対象地域（学校）ごとの実施計画を作成し、統合準備専門部会（仮称）を設置、3年間をかけて統合にあたっての準備を進めしていく考えです。 (基本計画(案)P1、P3～P12)
徒歩や自転車による通学距離の基準を定めている市町村も相当数あります。そのほとんどが小学校でおおむね4km以内、中学校ではおおむね6km以内という基準として定めている現状があります。現在の状況と学校規模適正化・適正配置を行つた後の小・中学校の通学距離はどうになるのか。	現在も学校により、通学距離が小学校4km、中学校6kmを超える児童生徒は存在します。規模適正化・適正配置による最遠距離は、小学校4km、中学校6kmを超える通学者がいると想定してい ます。遠距離通学者については、スクールバス等の交通手段について検討していきます。 (基本計画(案)の附属資料P5)
	開校に向けて立ち上げる、統合準備専門部会（仮称）において、様々な取り組みを検討してまいります。その中で、いただいたご意見を参考にさせていただきます。 (基本計画(案)P17)

20 過去の統合事例における統合の効果について、客観的な条件が似ている地域の具体的な事例をよく研究し、構想中の学校統合においてどのような効果が期待できるのかを見極めた上で、地域や学校の実態を踏まえて統合の適否を判断をする必要があると思う。	21 統合の効果について、児童生徒への直接的な効果、指導体制、指導方法、環境整備に与える効果はどのようにして統合するのか。	22 施設整備については、中長期的な方針に基づき進めていくことが大切であり、学校規模の適正化や適正配置に置くことに関する検討は教育委員会と首長との緊密な連携の下で進めなければならない法律」の改定により、地方公共団体の長は、総合教育会議の協議を経て、地域の実情に応じ、当該地方公共団体の大綱を定めることとされています。また、「まち・ひと・ひと・じごと創生法」に基づき、各市町村には「市町村まち・ひと・じごと創生戦略」を策定することが求められています。また、教育振興基本計画を定めることで課せられる力義務として課せられており、この様な状況の中、教育委員会の取組について知りたい。
1 山武都市内では、平成27年4月から芝山町の3つの小学校が1校に統合されています。先進事例として課題や効果等を確認しながら、進めています。	1 多面的な教職員が多面的な観点で指導できるようになる、校内研修の活性化、グリーブなどの学習や班活動が活性化、集団で行う教育活動・運動会活動などの多様な指導充実、部活動の充実、少人数指導や習熟度別指導など施設設備が改善され教育活動が展開しやすい、保護者同士の交流関係の広がりなどが期待されます。	1 教育大綱については、総合教育会議に諮り、平成27年9月に山武市教育大綱を策定しました。また、平成27年10月に山武市まち・ひと・じごと創生戦略を策定しました。教育振興基本計画につきましては、平成23年に山武市教育振興基本計画を策定し、毎年見直しを図っています。

<p>統合に伴い学校施設を新増築又は改修する場合、地域への学校開放を前提としてコミニティースペースをあらかじめ設けるとともに考えられ、このことに対する社会教育施設などはいつた社会教育の時間と空間的効果が期待できさるほか、土曜日や休日における社会教育また、児童福祉施設、社会福祉施設、児童福祉施設、社会福祉施設なども考慮され、地域人材との連携がしやすくなるといつた学習効果を参考にします。また、廃校後の施設利用について財産処分手続きが大幅に弾力化されおり特色のある活用を検討されていると思うが合わせて見解を知りたい。</p> <p>23</p>	<p>日向小、山武西小、蓮沼中、成東中については、跡地の利用が定部局と協議を進めています。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。</p> <p>1</p>	<p>推計については、平成26年4月2日から平成27年4月1日に山武市で生まれた子どもたちの数を抽出し、平成33年4月に小学校へ入学します。住民基本台帳から年齢別、平成39年4月に中学校へ入学し、該当する小学校・中学校へ進学したとしたとして積算しています。</p> <p>全体的な推計については、まち・ひと・しごと総合戦略の人口ビジョンを参照しています。</p> <p>1</p>
<p>少なくとも今後10年以上の児童生徒数の動向等を踏まえ計画立案を行っているのか?これまで再度度々に見直さなくてはならない。早急に今後10年後の児童生徒数を把握した立案の再提案を求める。</p> <p>24</p>	<p>統合後の学校の位置、老朽化に伴う改修、増改築等、スクールバスの運行支援等、また、跡地利用等の具体的な方策及びこれまで積算し学校規模適正化・構築して提案される事を求める。</p> <p>25</p>	<p>基本計画は、前期計画と後期計画に区分し、前期計画は新市建設計画及び財政計画との整合性を図り、平成37年度までの10年間として学校の規模適正化・適正配置を進めしていくこととしました。松尾小新校舎の建設や山武南中学校の改修についでは、財政計画に含まれております。その他のこのから生ずる経費については、今後の協議の中で、より具体的な協議を行ってまいります。</p> <p>1</p>

26 学校統合を行う事における教育環境の向上について、小学校・中学校適正配置の中では学校におけるゆとりある教員が確保されておらず、また、具体的な教員数が各議論が見直し再度提案をする事を求める。	1 統合後の小学校については、増置教員1名の12学級以下となりますが、複数の学年で2学級となり、教職員相互での学び合いにより教員の質の向上が見込まれます。中学校については、増置教員6名の9学級以上となり、教科担任制による国語・数学・社会・理科・英語に複数の教員配置が可能な学級数で、教育環境の充実が見込まれます。	1 遠距離通学者にあたっては、スクールバス等の交通手段を検討し、運行経路や運行計画等を統合準備専門部会（仮称）で検討していきます。 成東中の校舎は老朽化が進んでおり、建て替えが必要な時期に来ていることは十分承知しておりますが、今後においても生徒数が減少する見込みがある中で、単独での校舎の建て替えではなく、大規模改修を行つておると、校舎を新しく耐震性のある成東中の校舎をつくり、教育環境の整備を別に考えています。 （基本計画（案）の附属資料P12）	27 成東中・成東東中の統合について 成東東中までは距離もあり、道も危なく、特に部活動などで遅くなる年頃の女子を通学させるのは親としても心配である。 また利便性が良いはずの駅の近くに中学校がないということは、山武市にとってマイナスになると思う。	1 今回、お示しさせていただいた基本計画は、教育的視点から山武市の子どもたちのためのものです。小学校についても、12学級以上が望ましいと考えます。地域の実情等を考慮し複式学級を有しない6学級を下限の学級数としました。 地域から学校が無くなれば、子育て世代が減り、地域の高齢化・過疎化が進み、地域が衰退しないかどりうござります。今後も説明会等を通じ、保護者や地域の皆様から様々な意見をお伺いながら、より良い方向性を見出していく予定です。 （基本計画（案）の附属資料P14）

<p>29 「豊岡小学校跡地利用について」「豊岡小学校」跡地が子ども園になるとのことで、地元住民としては大変うれしく思う。「豊岡小学校」は自然に生活を送つてのつながりもあり、子どもたちが伸び伸び細かい指導のきめ細かさが生き生きとしながら生きてからでもせりあがる。少人数ならではの、先生方のきめ細かさが生き生きとしながら生きてからでもせりあがる。「まつおこども園」になつてからでもせりあがる。豊岡の環境の中で、のびのび子どもたちが安心して園生活を送ることができるような経営をしていただきたい</p>	<p>1 いただいたご意見を活かせるよう努めてまいります。</p>
<p>30 山武市の今後の学校・学級編成について 子ども減少の実情から、今回の統合はいたしかたのないことと思う。今後さらに全国的にどこの地域でも人口減少は大きな課題かと思う。 千葉県では積極的に「学級少人数化を実施」しているところを目標としているが、引き続き少人数で教員の目が行き届く教員定数をめざす。日本の中学校では40人学級と定められていて、「1学級30人以下」という目標をめざす。法律はすぐには変えられないが、地方から県へ県から国へと「その地域、その時代」に即した教育のあり方を提言せらるべきである。法律はすぐには変えられないが、地方から県へ県から国へと「その地域、その時代」に即した法律となつていい。 ひ、継続的に現場の皆様にご尽力いただきたい。</p>	<p>1 千葉県教育委員会連絡協議会を通じ、千葉県教育委員会へ、引き続き、要望活動を実施してまいります。</p>

<p>山武市のグローバル教育について</p> <p>今回の統合として、「グローバル教育」を掲げているとの説明があつた。今の時代確かに世界に通用する日本人を育てることの大切さと思う。ただ、英語教育に重点を置く、日本について学ぶ、ということだけで、本当にグローバルな人間が育つのでしょうか。</p> <p>いただいた資料に、自國文化の理解の方法として「読書活動の充実」とあつたが、知識とともに語学から学ぶことは大切ですが、自國文化を知ることで、自分生きている土地と人間とのかかわりを知ることだと、それが郷土愛につながり、強いどかなる基礎となることだと思う。</p> <p>幼少期、小学校低学年では、「身を持つて地域を知る」ことがグローバルにつながる基礎かと思う。</p> <p>山武市は幸いにして、山あり海あり、田畑あり、しかも成田空港も近い。子どもたちが成長するのにこんなに素晴らしい条件はあるません。子ども英語を学ぶ、自國文化を知識として知る、というこどもは山武市でなくともどこかの地域の学校でもできること。「山武市特徴」をもっと前面に掲げた「グローバル」教育の目標ができるのか?</p> <p>31</p>	<p>地域を知り、日本を知り、日本文化を根源としながら、平たく生きる力を育むための取り組みを積極的に推進してまいります。</p> <p>1</p> <p>豊岡小学校について</p> <p>今回の統合問題については、現在全校50名足らずの生徒数と聞き、残念な思いと共に、一日でも早く統合計画を推進すべきと感じます。社会背景を観ても、多くの人々の中での意見は多くはないかと思います。豊岡小学校についてには、大正、昭和してかけられました。現在お示しできる適切な案として、本計画を練つてまいりました。現在お示しできるところです。今後も丁寧な説明に努め、基本計画(案)を進める取り組みを進めてまいります。</p> <p>32</p> <p>豊岡小学校について</p> <p>今回の統合問題については、現在全校50名足らずの生徒数と聞き、残念な思いと共に、一日でも早く統合計画を推進すべきと感じます。社会背景を観ても、多くの人々の中での意見は多くはないかと思います。豊岡小学校についてには、大正、昭和してかけられました。現在お示しできる適切な案として、本計画を練つてまいりました。現在お示しできるところです。今後も丁寧な説明に努め、基本計画(案)を進める取り組みを進めてまいります。</p> <p>32</p>
--	---

<p>豊岡小学校跡地利用について 「豊岡小学校」跡地が子ども園になるとのことで、地元住民と しては大変うれしく思う。「豊岡小学校」は自然に園生活を送つて いる。少人数ながらも、子どもたちが伸び伸びと学校の生き生きとした姿も見 れる。少人数ならではの、先生方のきめ細かい指導も子どもたちの問題もある。 29 いじめその他の問題もある。「まつおこども園」になつてからも、子どもたちが地域性を引継ぎ、豊岡の環境の中で、のびのびと子どもたちが安心して園生活を送ることができるよう経営をしていただけたらうれしい。 29</p>	<p>1 いただいたご意見を活かせるよう努めてまいります。</p>
	<p>山武市の今後の学校・学級編成について 子どもの減少の実情から、今回の統合はいたしかたのないこと と思う。今後さらに全国的にどこ地域でも人口減少は大きな課 題かと思う。 千葉県では積極的に「学級少人数化を実施」しているところですが、行届く教 育を目指して山武市においても、引き続き少人数で教員の目が行き届く教 育をめざすが、先進国に目を向けると「1学級30人以下」という 30 育をめらされているが、地方から県へ提言せ めらくなっている。法律はすぐには変えられないが、地 めらくある。法律はすぐには変えられないが、地 から国へと「その地域、その時に即した法律となつていい法律としたい。 ひ、継続的に現場の皆様にご尽力いただきたい。</p>

山武市のグローバル教育について
今回の統合に際し、一つの方向として、「グローバル教育」を掲げていることの説明があつた。今の時代確かに世界に通用する日本人を育てるることは大切だと思う。ただ、英語教育に重点を置く、日本について学ぶ、ということだけで、本当にグローバルな人間が育つのでしょうか。

いただいたい資料によ、自國文化の理解の方法として「読書活動の充実」とあつたが、知識とともに知識を得ることとは大切なことです。しかし田中は、自分の生きている土地と人間に生きる力を持つことだとと思う。それが郷土愛につながり、強いを知るにはます、地元を知ることだと思う。そこから、自分が郷土愛につながると思う。そこから、自分が郷土愛につながると思う。

1 生きる力を育むための取り組みを積極的に推進してまいります。

豊岡小学校について
今回の統廃合問題については、現在全校50名足らずの生徒数と聞き、残念な思いと共に、一日でも早く統合計画を推進すべきだと思います。社会背景を観ても、多くの人々の中で一日でも早く思います。自分の意見や動き方を養うべきではないかと思ひます。豊岡小学校についてですが、豊岡地区の子ども達の精神を継続し、土地を寄付して跡地利用についてです。この精神を継続しておこども園の移転は案へる施設として残していただきたい。現在は、こども園の基礎を磨き養つておこどこのことで大賛成です。

地域を知り、日本を知り、日本の文化を根源としながら、平行してグローバル教育も行い、子ども達の学びを広げ、たくましく生きる力を育むための取り組みを積極的に推進してまいります。

別紙資料④

山武市教育振興基本計画の主な改訂箇所
(平成 28 年 3 月改訂)

第1章 教育振興基本計画について

1 計画策定の背景と趣旨

経済的豊かさの実現など社会が成熟する中、少子高齢化、経済効率の優先、高度情報化、国際化などを起因とする急激な社会的変化は様々な課題を浮上させています。社会を支え、未来を創造する基盤が人づくりであることを考える時、教育の重要性が改めて認識され、教育改革は喫緊の課題となっています。

近年の教育課題として、子どもの学ぶ意欲や学力・体力の低下、問題行動、規範意識や倫理観の欠如、社会を構成する一員としての責任の自覚や正義感、志の乏しさなどが懸念されているところです。

このような時代背景において、国は60年ぶりに教育基本法を改正し、教育振興基本計画を策定するとともに、地方公共団体に独自の振興基本計画の策定を促しました。

山武市教育委員会においては、平成20年度から24年度の5カ年について策定された山武市総合計画に基づいて、教育施策を策定しておりましたが、合併し、年が経つにつれ、様々な現状と課題が明らかになりました。そこで、改めて将来を見据えた教育理念のもと、山武市教育の普遍的な羅針盤として将来を指し示す「山武市教育振興基本計画」を平成23年4月に策定しました。

教育理念は「学びの感動と、他人を思いやる心を育み、未来をたくましく切り拓く自立した人づくり」キャッチフレーズを「苗半作の教育」としました。

これからの社会は、国際化社会、グローバル化の進む社会になって行きます。

現在の価値は、不変ではなく、異文化、外国人との接点も多くなり、情報化社会の進展とともにさまざまな価値が混入してくることが想定されます。

その様な社会の中でたくましく生きぬいていくためには、幼少期からの体系的な教育が必要となります。

幼少期から人としての生き方や夢について考えることにより、自らの人生を充実したものとし、公共の精神を自覚すること、また、社会に自立的に参画し、相互に支え合いながら、社会の一員として社会づくりや地域づくりに貢献できる、温かで逞しい力を養うことが山武市教育の基本と考えます。

人と人との絆は意識されてきているものの、引きこもり等の社会問題を抱える今、学力のみならず人間力を高める教育環境を構築し、地域社会を自らの手で変革し、未来を切り拓こうとする地域力の向上に繋げなければならないと考えます。この「山武市教育振興基本計画」の趣旨を広く山武市民の皆様にご理解いただき、市民一人ひとりが役割を果たし、連携を図って、市民総がかりの教育が推進されることを強く望むものです。

第1章 教育振興基本計画について

1 計画策定の背景と趣旨

経済的豊かさの実現など社会が成熟する中、少子高齢化、経済効率の優先、高度情報化、国際化などを起因とする急激な社会的変化は様々な課題を浮上させています。社会を支え、未来を創造する基盤が人づくりであることを考える時、教育の重要性が改めて認識され、教育改革は喫緊の課題となっています。

近年の教育課題として、子どもの学ぶ意欲や学力・体力の低下、問題行動、規範意識や倫理観の欠如、社会を構成する一員としての責任の自覚や正義感、志の乏しさなどが懸念されているところです。

このような時代背景において、国は60年ぶりに教育基本法を改正し、教育振興基本計画を策定するとともに、地方公共団体に独自の振興基本計画の策定を促しました。

山武市教育委員会においては、平成20年度から24年度の5カ年について策定された山武市総合計画に基づいて、教育施策を策定しているところですが、合併後5年を経て、様々な現状と課題が明らかになりました。そこで、改めて将来を見据えた教育理念のもと、山武市教育の普遍的な羅針盤として将来を指し示す「山武市教育振興基本計画」を策定するものです。

教育理念は「学びの感動と、他人を思いやる心を育み、未来をたくましく切り拓く自立した人づくり」キャッチフレーズを「苗半作の教育」としました。

現在の厳しい経済状況下において、若者は将来展望を見いだせない状況があります。しかしながら、未曾有の就職氷河期なればこそ、生き方再考の時と捉えるべきであり、効率や賃金を得る労働ばかりを求める昨今の風潮を顧みる必要があります。幼少期から人としての生き方や夢について考えることにより、自らの人生を充実したものとし、公共の精神を自覚すること、また、社会に自立的に参画し、相互に支え合いながら、社会の一員として社会づくりや地域づくりに貢献できる、温かで逞しい力を養うことが山武市教育の基本と考えます。

無縁社会と形容されるように人と人との絆が薄れ、引きこもり等の社会問題を抱える今、学力のみならず人間力を高める教育環境を構築し、地域社会を自らの手で変革し、未来を切り拓こうとする地域力の向上に繋げなければならないと考えます。この「山武市教育振興基本計画」の趣旨を広く山武市民の皆様にご理解いただき、市民一人ひとりが役割を果たし、連携を図って、市民総がかりの教育が推進されることを強く望むものです。

第2章 山武市教育の目指す姿

1 教育理念

**学びの感動と、他人を思いやる心を育み
未来をたくましく切り拓く自立した人づくり**

2 基本目標

① “幼少期重視の人づくり（苗半作の教育）”
農業に「苗半作」の喻があります。良い苗を育てる過程が最も重要で、苗の出来、不出来により、作柄の半分は決まるという意味です。

幼少期の教育も同様で、子どもが必要としている時に、必要な教育、しつけをすることが大切で、時を逸すれば効果が無いだけではなく、後の努力で補いきれないものがあります。山武市教育委員会は、この幼少期からの教育を重視し、生きる力の基礎づくりと捉え、子ども達の将来をより実り多いものにしてまいります。

② “自立を促し、未来を切り拓ける人づくり”

山武市教育委員会は、全ての子どもが社会で自立して生きていけるよう、義務教育終了までに知・徳・体の調和のとれた人間性を養い、夢を持ち生きる力を發揮して未来をたくましく切り拓く市民を育成します。また一人ひとりの個性や人権を尊重した学校づくりと、家庭や地域と連携した教育を目指します。

③ “地域を支える人づくり”

山武市においては、人口減少や高齢化の中で、合併市としての一体性の確保と併せ、既存の地域社会の維持・活性化に大きな課題があります。

山武市教育委員会は、「地域づくりは人づくり」と認識します。住み慣れた地域で自主的に社会に参加し、人との絆を大切にし、互いに支え合うことで、家庭・学校・地域に誇りを抱く教育を推進します。

④ “グローバル社会で活躍できる人づくり”

山武市教育委員会は、社会の急速なグローバル化の進展の中で、子どもたちが活躍できるよう、英語等の語学力・コミュニケーション能力、異文化理解の向上を図るとともに、創造性、協調性、チャレンジ精神、リーダーシップを身に付けて、真の国際人の育成につとめます。

§ 幼少期：山武市教育振興基本計画では3～8歳を幼少期と捉えています。

§ 生きる力：基礎・基本を身につけ、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断行動し、よりよく問題を解決する資質や能力のこと。自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、健やかな身体・体力など、たくましく生き抜いていく基盤となる力のことをさす。

教育大綱の
策定に伴い
追記

第2章 山武市教育の目指す姿

1 教育理念

学びの感動と、他人を思いやる心を育み

未来をたくましく切り拓く自立した人づくり

2 基本目標

① “幼少期重視の人づくり（苗半作の教育）”
農業に「苗半作」の喻があります。良い苗を育てる過程が最も重要で、苗の出来、不出来により、作柄の半分は決まるという意味です。

幼少期の教育も同様で、子どもが必要としている時に、必要な教育、しつけをすることが大切で、時を逸すれば効果が無いだけではなく、後の努力で補いきれないものがあります。山武市教育委員会は、この幼少期からの教育を重視し、生きる力の基礎づくりと捉え、子ども達の将来をより実り多いものにしてまいります。

② “自立を促し、未来を切り拓ける人づくり”

山武市教育委員会は、全ての子どもが社会で自立して生きていけるよう、義務教育終了までに知・徳・体の調和のとれた人間性を養い、夢を持ち生きる力を發揮して未来をたくましく切り拓く市民を育成します。また一人ひとりの個性や人権を尊重した学校づくりと、家庭や地域と連携した教育を目指します。

③ “地域を支える人づくり”

山武市においては、人口減少や高齢化の中で、合併市としての一体性の確保と併せ、既存の地域社会の維持・活性化に大きな課題があります。

山武市教育委員会は、「地域づくりは人づくり」と認識します。住み慣れた地域で自主的に社会に参加し、人との絆を大切にし、互いに支え合うことで、家庭・学校・地域に誇りを抱く教育を推進します。

§ 幼少期：山武市教育振興基本計画では3～8歳を幼少期と捉えています。

§ 生きる力：基礎・基本を身につけ、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断行動し、よりよく問題を解決する資質や能力のこと。自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、健やかな身体・体力など、たくましく生き抜いていく基盤となる力のことをさす。

第3章 重点施策と事業

重点施策1 確かな学力を育む教育の推進 (幼児教育保育・学校教育分野)

1 目標

▶ 基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の育成に努めます。また、一人ひとりのニーズや新教育課程に対応した教育の推進を図ります。

2 現況と課題

現況

- 学力と学習意欲の向上を図るために、少人数指導講師を配置し、実りのある体験活動を推進するために、市有バス等を有効に活用しています。
- こども園・幼稚園とのなめらかな接続を図るために、幼小連携事業や公開研究会を実施しています。また、小学校と中学校のなめらかな接続を図るために、山武市教育研究会を中心とした中学校区別研修会を設け、小・中の連携を進めています。

課題

- 学力の向上を図るために、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得できるように、少人数指導講師の増員を図るなど、子ども一人ひとりにきめ細かく指導できる体制づくりを進める必要があります。
- 思考力や判断力、表現力やコミュニケーション能力を身につけられるように、体験活動をさらに充実させる必要があります。
- 学力と学習意欲の向上を図るために、児童生徒の実態を把握し、言語活動を取り入れた指導方法の工夫・改善を図るなど、教育研修を充実させる必要があります。

3 施策の方向と具体的な取り組み

■ 重点施策のあらまし

推進施策	① 子どもたちが自信を持って学ぶ力の涵養
	学習に対する子どもの実態を把握し、個に応じたきめ細やかな学習指導を推進し、学力向上を図ります。
具体的取組	<p>② 確かな学力が身につく教育を実践するための行政サポート</p> <p>事業①【確かな学力を身に付ける学習指導の推進】</p> <p>所管課 学校教育課 子育て支援課</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小中学校(こども園・幼稚園)における学習指導の改善を支援します。 <ul style="list-style-type: none"> 1 小中学校(こども園・幼稚園)訪問の実施と指導 (市教育委員の訪問や県教育委員会との合同訪問、言語活動やノート指導及び学習規律等) 2 学習習慣の確立 3 県標準学力検査や全国学力・学習状況調査結果等の活用 4 保育関係者研修会、教務主任・研究主任研修会の実施 ● 幼・小・中の連携を推進します。 <ul style="list-style-type: none"> 1 県教育委員会や山武市教育研究会や山武市こども園・幼稚園職員研修会

第3章 重点施策と事業

重点施策1 確かな学力を育む教育の推進 (幼児教育保育・学校教育分野)

1 目標

▶ 基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の育成に努めます。また、一人ひとりのニーズや新教育課程に対応した教育の推進を図ります。

2 現況と課題

現況

- 学力と学習意欲の向上を図るために、少人数指導講師を配置し、実りのある体験活動を推進するために、市有バス等を有効に活用しています。
- こども園・幼稚園とのなめらかな接続を図るために、幼小連携事業や公開研究会を実施しています。また、小学校と中学校のなめらかな接続を図るために、山武市教育研究会を中心とした中学校区別研修会を設け、小・中の連携を進めています。

課題

- 学力の向上を図るために、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得できるように、少人数指導講師の増員を図るなど、子ども一人ひとりにきめ細かく指導できる体制づくりを進める必要があります。
- 思考力や判断力、表現力やコミュニケーション能力を身につけられるように、体験活動をさらに充実させる必要があります。
- 学力と学習意欲の向上を図るために、児童生徒の実態を把握し、言語活動を取り入れた指導方法の工夫・改善を図るなど、教育研修を充実させる必要があります。

3 施策の方向と具体的な取り組み

■ 重点施策のあらまし

推進施策	① 子どもたちが自信を持って学ぶ力の涵養
	学習に対する子どもの実態を把握し、個に応じたきめ細やかな学習指導を推進し、学力向上を図ります。
具体的取組	<p>② 確かな学力が身につく教育を実践するための行政サポート</p> <p>事業①【確かな学力を身に付ける学習指導の推進】</p> <p>所管課 学校教育課 子育て支援課</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小中学校(こども園・幼稚園)における学習指導の改善を支援します。 <ul style="list-style-type: none"> 1 小中学校(こども園・幼稚園)訪問の実施と指導 (市教育委員の訪問や県教育委員会との合同訪問、言語活動やノート指導及び学習規律等) 2 学習習慣の確立 3 県標準学力検査や全国学力・学習状況調査結果等の活用 4 保育関係者研修会、教務主任・研究主任研修会の実施 ● 幼・小・中の連携を推進します。 <ul style="list-style-type: none"> 1 県教育委員会や山武市教育研究会や山武市こども園・幼稚園研究会との連携 <p>事業②【個に応じたきめ細やかな学習指導の推進】</p> <p>所管課 学校教育課</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの実態を把握した指導の充実を図ります。 <ul style="list-style-type: none"> 1 市雇用の少人数指導講師の配置 2 タブレット等ICT機器を活用した指導の充実

	<p>事業②【個に応じたきめ細やかな学習指導の推進】 所管課 学校教育課</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの実態を把握した指導の充実を図ります。 <ol style="list-style-type: none"> 1 市雇用の少人数指導講師の配置 2 タブレット等 ICT 機器を活用した指導の充実 <p>【用語解説】</p> <p>↓ ICT: 情報コミュニケーション技術(コンピュータやインターネットに関連する技術の総称)のこと。「IT」を意味する“コンピュータ技術”に加えて、それを使った「C」「コミュニケーション」を強調した表現</p>
推進施策	<p>(2)一人ひとりの教育的ニーズや新しい教育課程に対応した教育の推進</p> <p>子ども一人ひとりの教育的ニーズを把握し、持てる力を高め、生活や学習の困難を克服するための指導や支援を行います。また、教育課程の展開に必要な支援を行います。</p>
具体的取組	<p>〈確かな学力が身につく教育を実践するために必要な行政サポート〉</p> <p>事業①【新しい教育課題への対応】 所管課 学校教育課</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教育の情報化(ICT機器の活用)を推進します。 <ol style="list-style-type: none"> 1 教育用パソコン(タブレット型)、電子黒板等の活用 2 ICT支援員の派遣 3 学校の情報化推進会議の開催 4 学校の情報化研究推進校の指定 5 情報教育研修会の実施 ● 福祉教育を推進します。 <ol style="list-style-type: none"> 1 福祉教育研修会の実施 2 幼小中高及び福祉協議会との地域連携 ● 環境教育を推進します。 <ol style="list-style-type: none"> 1 太陽光発電(再生エネルギー)システムの活用 <p>事業②【国際理解教育の推進】 所管課 学校教育課</p> <p>子育て支援課</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 異文化理解やコミュニケーション能力の育成など、国際理解教育、外国語(英語)教育の充実を図ります。 <ol style="list-style-type: none"> 1 全小中学校へのALT(外国語指導助手)の配置、活用 2 小中学校の円滑な接続のための相互授業参観、情報交換等 3 外国語(英語)活動に生かせる教材の提供 4 小学校外国語(英語)活動担当者研修会の実施 5 成田空港国際交流事業の活用 6 英語力アップ事業(英検補助) 7 異文化理解講座の実施・一校一国運動の展開 8 全幼稚園・こども園・保育園でALTを活用した英語活動を行う「ちびっ子国際交流事業」の実施

	<p>【用語解説】</p> <p>↓ ICT: 情報コミュニケーション技術(コンピュータやインターネットに関連する技術の総称)のこと。「IT」を意味する“コンピュータ技術”に加えて、それを使った「C」「コミュニケーション」を強調した表現</p>
推進施策	<p>(2)一人ひとりの教育的ニーズや新しい教育課程に対応した教育の推進</p> <p>子ども一人ひとりの教育的ニーズを把握し、持てる力を高め、生活や学習の困難を克服するための指導や支援を行います。また、教育課程の展開に必要な支援を行います。</p>
具体的取組	<p>〈確かな学力が身につく教育を実践するために必要な行政サポート〉</p> <p>事業①【新しい教育課題への対応】 所管課 学校教育課</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教育の情報化(ICT機器の活用)を推進します。 <ol style="list-style-type: none"> 1 教育用パソコン(タブレット型)、電子黒板等の活用 2 ICT支援員の派遣 3 学校の情報化推進会議の開催 4 学校の情報化研究推進校の指定 5 情報教育研修会の実施 ● 福祉教育を推進します。 <ol style="list-style-type: none"> 1 福祉教育研修会の実施 2 幼小中高及び福祉協議会との地域連携 ● 環境教育を推進します。 <ol style="list-style-type: none"> 1 太陽光発電(再生エネルギー)システムの活用 <p>事業②【国際理解教育の推進】 所管課 学校教育課</p> <p>子育て支援課</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 異文化理解やコミュニケーション能力の育成など、国際理解教育、外国語(英語)教育の充実を図ります。 <ol style="list-style-type: none"> 1 全小中学校へのALT(外国語指導助手)の配置、活用 2 小中学校の円滑な接続のための相互授業参観、情報交換等 3 外国語(英語)活動に生かせる教材の提供 4 小学校外国語(英語)活動担当者研修会の実施 5 成田空港国際交流事業の活用 <p>事業③【特別支援教育の充実】 所管課 学校教育課</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 就学相談の充実を図ります <ol style="list-style-type: none"> 1 相談窓口の周知、関係機関との連携 ● 「ことばの指導」の充実を図ります。 <ol style="list-style-type: none"> 1 「ことばの教室」の設置、巡回型通級指導教室の開設 ● 特別に支援が必要な児童生徒への支援を充実します。 <ol style="list-style-type: none"> 1 支援員の配置 ● 教職員や支援員対象の研修を充実します。 <p>【用語解説】</p> <p>↓ 支援員: 学校生活において特別な支援を必要とする子どもの手助けをする人</p>

改訂後

▼一第3章 重点施策と事業
(平成28年度～32年度の5年間)

	<p>事業②【感謝の気持ち・郷土愛の育成】</p> <p>所管課 学校教育課 子育て支援課</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 道徳教育の充実を図り、規範意識を涵養します。 <ul style="list-style-type: none"> 1 「道徳の時間」の確保と道徳的実践力の育成 2 「私たちの道徳」と映像教材の活用 ● 市内全こども園・幼稚園・小中学校でいさつ運動を推進します。 ● 立腰教育を推進します。 ● 人権教育を関係課と連携して推進します。 ● 地域の歴史と偉人を題材とした社会科副読本「わたしたちの山武市」の活用を図ります。 <p>【用語解説】</p> <ul style="list-style-type: none"> 立腰教育：教育学者である森信三が提唱した教育。腰の構えを作ることによって、体を強くするばかりではなく、心を育てることに繋がるというもの。 <p>事業③【未来への夢や希望を持ち、前向きに生きる意欲の育成】</p> <p>所管課 学校教育課 図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域と連携したキャリア教育を推進します。 <ul style="list-style-type: none"> 1 「職場体験」「ゆめ・仕事ぴったり体験」の受入事業所の開拓支援 2 生き方や進路を考える活動の工夫(OBや身近な人材の活用) ● 山武市学校音楽発表会を共催し、充実を図ります。 ● 学校図書館の整備・活用を図ります。 <ul style="list-style-type: none"> 1 図書システムの活用 2 読書・読み聞かせ活動の推進 ● 市共通ダンスプログラムの検討を行います。 <p>事業④【不登校等の生徒指導上の課題への対応・いじめ防止対策】</p> <p>所管課 学校教育課</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教育相談活動の充実を図ります。 <ul style="list-style-type: none"> 1 心の教室相談員の配置 2 専門性を高める研修会の実施 3 スクールカウンセラーの活用 4 いじめ問題メール窓口の活用 5 いじめ相談カードを全児童生徒及び保護者へ配布 6 関係機関との連携強化(山武都市教育相談センター他) ● 生徒指導の機能を生かす指導の充実を図ります。 <ul style="list-style-type: none"> 1 個を大切にする授業、わかりやすい授業の工夫 2 ピア・サポート(人間関係づくり教育)の推進 3 校内生徒指導体制確立のための支援・指導 ● 情報モラル教育の充実を図ります。 <ul style="list-style-type: none"> 1 啓発資料の配布や講習会、教職員研修会等の実施 2 関係機関との連携と保護者への啓発活動 3 ICT支援員の活用
--	---

改訂前

▼一第3章 重点施策と事業
(平成27年度～31年度の5年間)

	<p>1 学校支援ボランティア等への支援</p> <p>2 市有バスの有効活用</p> <p>事業②【感謝の気持ち・郷土愛の育成】</p> <p>所管課 学校教育課 子育て支援課</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 道徳教育の充実を図り、規範意識を涵養します. <ul style="list-style-type: none"> 1 「道徳の時間」の確保と道徳的実践力の育成 2 「心のノート」と映像教材の活用 ● 市内全こども園・幼稚園・小中学校でいさつ運動を推進します。 ● 立腰教育を推進します。 ● 人権教育を関係課と連携して推進します。 ● 地域の歴史と偉人を題材とした社会科副読本「わたしたちの山武市」の活用を図ります。 <p>【用語解説】</p> <ul style="list-style-type: none"> 立腰教育：教育学者である森信三が提唱した教育。腰の構えを作ることによって、体を強くするばかりではなく、心を育てることに繋がるというもの。 <p>事業③【未来への夢や希望を持ち、前向きに生きる意欲の育成】</p> <p>所管課 学校教育課 図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域と連携したキャリア教育を推進します. <ul style="list-style-type: none"> 1 「職場体験」「ゆめ・仕事ぴったり体験」の受入事業所の開拓支援 2 生き方や進路を考える活動の工夫(OBや身近な人材の活用) ● 山武市学校音楽発表会を共催し、充実を図ります。 ● 学校図書館の整備・活用を図ります. <ul style="list-style-type: none"> 1 図書システムの活用 2 読書・読み聞かせ活動の推進 ● 市共通ダンスプログラムの検討を行います。 <p>事業④【不登校等の生徒指導上の課題への対応・いじめ防止対策】</p> <p>所管課 学校教育課</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教育相談活動の充実を図ります. <ul style="list-style-type: none"> 1 心の教室相談員の配置 2 専門性を高める研修会の実施 3 スクールカウンセラーの活用 4 いじめ問題メール窓口の活用 5 いじめ相談カードを全児童生徒及び保護者へ配布 6 関係機関との連携強化(山武都市教育相談センター他) ● 生徒指導の機能を生かす指導の充実を図ります. <ul style="list-style-type: none"> 1 個を大切にする授業、わかりやすい授業の工夫 2 ピア・サポート(人間関係づくり教育)の推進 3 校内生徒指導体制確立のための支援・指導 ● 情報モラル教育の充実を図ります. <ul style="list-style-type: none"> 1 啓発資料の配布や講習会、教職員研修会等の実施 2 関係機関との連携と保護者への啓発活動
--	---

重点施策3 子・保護者・地域に信頼されるこども園・幼稚園・学校づくりの推進

(幼児教育保育・学校教育分野)

1 目標

- 子どもたちが楽しさを味わい充実したこども園・幼稚園・学校生活が送れるよう、安全で安心できる施設・環境づくりに努めます。また、子どもたちが夢や希望を持って学べるよう教職員の資質能力の向上、魅力あるこども園・幼稚園・学校づくりを目指します。そのために、保護者や地域の方々に積極的に情報提供し、協働して子どもたちを育めるように開かれたこども園・幼稚園・学校づくりを推進します。

2 現況と課題

現況

- 学校の信頼づくりの一環として、学校評価や学校評議員制度を活用して、保護者や地域の声を取り入れています。
- 安全・安心な学校づくりの一環として、安全マップを作成し、「自分の命は自分で守る」という安全教育に対する意識が高まりつつあります。
- こども園の充実にむけて、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいたカリキュラムの実施に努めています。
- 近年は、夏季における気温の上昇傾向が顕著であり、児童生徒の授業に対する集中力の低下による学習指導への影響や熱中症の対策など健康被害への懸念が指摘されています。

課題

- 学校関係者評価をもとに、学校が保護者や地域住民の信頼にこたえられるように、より一層の連携を深めることができます。
- 防災教育指定校を参考に防災教育の意識の高揚と災害対応能力の向上を目指した防災教育を進めることができます。
- 山武市こども園・幼稚園職員研修会や交流会等を通して、こども園・幼稚園が質の高い教育・保育の提供を目指していく必要があります。小学校との円滑な接続のために校種間の連携をさらに進める必要があります。
- 夏季において適正な教育環境を維持するためには、普通教室などにも空調機を設置することが必要です。

3 施策の方向と具体的な取り組み

■重点施策のあらまし

推進施策 (1) 安全安心なこども園・幼稚園・学校づくりの推進

適正な教育環境を維持するため、緊急性を考慮しながら順次整備します。また、家庭や地域、関係機関と連携し、登下校(園)の安全確保をはじめ、安心できる環境づくりに努めます。

具体的取組 <市民に信頼されるこども園・幼稚園・学校をつくるために必要な行政サポート>

所管課

事業①【教育環境の整備】

教育総務課
子育て支援課

- 環境整備工事及び環境整備のための設計業務を実施します。

(平成28年度予定)

- 1 南郷小学校空調設備設置工事
- 2 緑海小学校空調設備設置工事

重点施策3 子・保護者・地域に信頼されるこども園・幼稚園・学校づくりの推進

(幼児教育保育・学校教育分野)

1 目標

- 子どもたちが楽しさを味わい充実したこども園・幼稚園・学校生活が送れるよう、安全で安心できる施設・環境づくりに努めます。また、子どもたちが夢や希望を持って学べるよう教職員の資質能力の向上、魅力あるこども園・幼稚園・学校づくりを目指します。そのため、保護者や地域の方々に積極的に情報提供し、協働して子どもたちを育めるように開かれたこども園・幼稚園・学校づくりを推進します。

2 現況と課題

現況

- 学校の信頼づくりの一環として、学校評価や学校評議員制度を活用して、保護者や地域の声を取り入れています。
- 安全・安心な学校づくりの一環として、安全マップを作成し、「自分の命は自分で守る」という安全教育に対する意識が高まりつつあります。
- こども園の充実にむけて、教育と保育が一体となったカリキュラムの実施に努めています。
- 近年は、夏季における気温の上昇傾向が顕著であり、児童生徒の授業に対する集中力の低下による学習指導への影響や熱中症の対策など健康被害への懸念が指摘されています。

課題

- 学校関係者評価をもとに、学校が保護者や地域住民の信頼にこたえられるように、より一層の連携を深めることができます。
- 防災教育指定校を参考に防災教育の意識の高揚と災害対応能力の向上を目指した防災教育を進めることができます。
- 山武市こども園・幼稚園職員研修会や交流会等を通して、こども園・幼稚園が質の高い教育・保育の提供を目指していく必要があります。小学校との円滑な接続のために校種間の連携をさらに進める必要があります。
- 夏季において適正な教育環境を維持するためには、普通教室などにも空調機を設置することが必要です。

3 施策の方向と具体的な取り組み

■重点施策のあらまし

推進施策 (1) 安全安心なこども園・幼稚園・学校づくりの推進

適正な教育環境を維持するため、緊急性を考慮しながら順次整備します。また、家庭や地域、関係機関と連携し、登下校(園)の安全確保をはじめ、安心できる環境づくりに努めます。

具体的取組

<市民に信頼されるこども園・幼稚園・学校をつくるために必要な行政サポート>

所管課

事業①【教育環境の整備】

教育総務課
子育て支援課

- 環境整備工事及び環境整備のための設計業務を実施します。

(平成27年度予定)

- 1 陸岡小学校体育館改修工事
- 2 山武北小学校体育館改修工事
- 3 蓼沼小学校非構造部材耐震改修工事(講堂)
- 4 大平小学校空調設備機能回復工事
- 5 成東東中学校グラウンド改修工事

改訂後

▼第一3章 重点施策と事業
(平成28年度～32年度の5年間)

- 3 日向小学校空調設備設置工事
- 4 瞳岡小学校空調設備設置工事
- 5 山武西小学校空調設備設置工事
- 6 成東中学校空調設備設置工事
- 7 成東東中学校空調設備設置工事
- 8 成東東中学校グラウンド改修工事
- 9 成東小学校空調設備設置工事実施設計
- 10 大富小学校空調設備設置工事実施設計
- 11 鳴浜小学校空調設備設置工事実施設計
- 12 山武中学校空調設備設置工事実施設計
- 13 山武南中学校空調設備設置工事実施設計
- 14 成東小学校トイレ改修工事実施設計
- 15 緑海小学校トイレ改修工事実施設計
- 16 成東中学校トイレ改修工事実施設計
- 17 日向幼稚園高圧受電設備修繕工事
- 18 おおひらこども園園庭整備工事
- 19 なるとうこども園調理室改修工事
- 20 しらはたこども園遊具設置工事

所管課

□学校教育課
□子育て支援課

事業②【安全で安心な園・学校環境づくり】

- 安全確保に関する取組を推進します。
 - 1 通学路の合同安全点検の実施と安全推進会議の活動推進
 - 2 安全計画や保健計画、危機管理マニュアルの見直しと充実
 - 3 学校防犯指導員による学校訪問と地区巡回指導の充実
 - 4 地域安全マップの作成と公開の推進
 - 5 防災教育の推進(副読本の活用)、防災用品の整備
 - 6 学校(園)配信メールの活用
- 家庭・地域と連携した取組を推進します。
 - 1 PTAや地域ボランティア(子ども見守り隊等)との連携

所管課

□教育総務課

事業③【防災体制の強化】

- 東日本大震災の教訓を踏まえ、防災体制を強化します。
 - 1 災害時初動対応マニュアルの活用
 - 2 災害時初動対応マニュアルに基づいた防災訓練の実施

推進施策

(2)信頼されるこども園・幼稚園・学校づくりの推進

教職員研修を充実させ、園・学校経営の改善や教職員の資質能力の向上を図り、信頼される園・学校づくりに努めます。

改訂前

▼第一3章 重点施策と事業
(平成27年度～31年度の5年間)

- 7 蓬沼中学校武道場非構造部材耐震改修工事
- 8 松尾中学校武道場非構造部材耐震改修工事
- 9 鳴浜小学校グラウンド改修工事設計業務委託
- 10 緑海・日向・瞳岡小学校空調設備設置工事設計業務委託
- 11 南郷小学校空調設備設置工事設計業務委託
- 12 成東中学校空調設備設置工事設計業務委託
- 13 成東東中学校空調設備設置工事設計業務委託
- 14 蓬沼中学校武道場非構造部材耐震改修工事設計業務委託
- 15 松尾中学校武道場非構造部材耐震改修工事設計業務委託
- 16 日向幼稚園職員室空調設備設置工事
- 17 日向幼稚園トイレ改修工事
- 18 むつみのおか幼稚園室外機囲いフェンス設置工事
- 19 むつみのおか幼稚園職員室等空調設備設置工事
- 20 しらはたこども園駐車場整備工事

所管課

□学校教育課
□子育て支援課

事業②【こども園化の推進】

- 幼保合同の職員研修・園児交流を推進します。
- こども園化に向けての協議を推進します。
 - 1 こども園・幼稚園職員の合同研修会の実施
 - 2 こども園・幼稚園児の合同交流会の実施
 - 3 子ども・子育て会議の推進

所管課

□学校教育課
□子育て支援課

事業③【安全で安心な園・学校環境づくり】

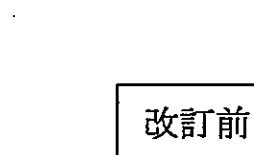
- 安全確保に関する取組を推進します。
 - 1 通学路の合同安全点検の実施と安全推進会議の活動推進
 - 2 安全計画や保健計画、危機管理マニュアルの見直しと充実
 - 3 学校防犯指導員による学校訪問と地区巡回指導の充実
 - 4 地域安全マップの作成と公開の推進
 - 5 防災教育の推進(副読本の活用)、防災用品の整備
 - 6 学校(園)配信メールの活用
- 家庭・地域と連携した取組を推進します。
 - 1 PTAや地域ボランティア(子ども見守り隊等)との連携

所管課

□教育総務課

事業④【防災体制の強化】

- 東日本大震災の教訓を踏まえ、防災体制を強化します。
 - 1 災害時初動対応マニュアルの活用
 - 2 小中学校体育館等における非構造部材の耐震化推進
 - 3 災害時初動対応マニュアルに基づいた防災訓練の実施



改訂後

▼第一3章 重点施策と事業
(平成28年度～32年度の5年間)

具体的取組	〈市民に信頼されるこども園・幼稚園・学校をつくるために必要な行政サポート〉	
	事業①【特色あるこども園・幼稚園・学校づくりの推進】	所管課 ■学校教育課 ■子育て支援課
● 園・学校経営の充実と改善を図ります。		
1. 園長・副園長会議の定期開催		
2. 校長会議の開催		
3. 人事評価制度、学校評価制度の活用		
4. 教育委員による園・学校訪問		
5. 県教育委員会との合同学校訪問		
6. 学校評議員制度の活用		
7. 委託研究園の指定		
8. 園と小学校の職員間の連携及び園児・小学生の交流推進		
9. こども園・幼稚園の合同交流会の実施		
【用語解説】		
↓ 学校評議員制度：特色ある学校づくりや子どもたちの地域ぐるみの育成など、学校と地域が連携・協力し、開かれた学校づくりを推進するための評議員制度。		
事業②【教職員等の資質能力の向上・校務の効率化】	所管課 ■学校教育課 ■子育て支援課	
● ICT機器を積極的に活用します。		
1. 授業支援、校務支援		
2. ICTサポートの派遣		
3. 学校の情報化研究推進校の指定		
4. ICT機器活用研修会の実施		
● 職能・分野別の研修の充実を図ります。		
1. 教頭研修会		
2. 教務主任研修会		
3. 研究主任研修会		
4. 教育相談関係者研修会(学校の教育相談担当者、心の教室相談員、スクールカウンセラー対象)		
5. 特別支援教育研修会(特別支援教育担当者、支援員等)		
6. ICT機器活用研修会(校長、教頭、教務主任、情報教育担当者等)		
7. 小学校外国語(英語)活動担当者研修会		
8. こども園・幼稚園職員研修会		
9. 幼保こども園室と指導室合同の園指導訪問の実施		
● 適正な人事評価を推進します。		
1. 目標申告、業績評価の活用		
推進施策	(3)家庭・地域と連携した開かれたこども園・幼稚園・学校づくりの推進	
	学校(園)の教育活動を積極的に情報発信し、家庭・地域と連携した開かれた園・学校づくりに努めます。	

改訂前

▼第一3章 重点施策と事業
(平成27年度～31年度の5年間)

具体的取組	〈市民に信頼されるこども園・幼稚園・学校をつくるために必要な行政サポート〉	
	事業①【特色あるこども園・幼稚園・学校づくりの推進】	所管課 ■学校教育課 ■子育て支援課
● 学校経営の充実と改善を図ります。		
1. 園長会との連携及び研修の推進		
2. 校長会議の開催		
3. 人事評価制度、学校評価制度の活用		
4. 教育委員による園・学校訪問		
5. 県教育委員会との合同学校訪問		
6. 学校評議員制度の活用		
【用語解説】		
↓ 学校評議員制度：特色ある学校づくりや子どもたちの地域ぐるみの育成など、学校と地域が連携・協力し、開かれた学校づくりを推進するための評議員制度。		
事業②【教職員等の資質能力の向上・校務の効率化】	所管課 ■学校教育課 ■子育て支援課	
● ICT機器を積極的に活用します。		
1. 授業支援、校務支援		
2. ICTサポートの派遣		
3. 学校の情報化研究推進校の指定		
4. ICT機器活用研修会の実施		
● 職能・分野別の研修の充実を図ります。		
1. 教頭研修会		
2. 教務主任研修会		
3. 研究主任研修会		
4. 教育相談関係者研修会(学校の教育相談担当者、心の教室相談員、スクールカウンセラー対象)		
5. 特別支援教育研修会(特別支援教育担当者、支援員等)		
6. ICT機器活用研修会(校長、教頭、教務主任、情報教育担当者等)		
7. 小学校外国語(英語)活動担当者研修会		
8. こども園・幼稚園職員研修会		
● 適正な人事評価を推進します。		
1. 目標申告、業績評価の活用		
推進施策	(3)家庭・地域と連携した開かれたこども園・幼稚園・学校づくりの推進	
	学校(園)の教育活動を積極的に情報発信し、家庭・地域と連携した開かれた園・学校づくりに努めます。	
具体的取組	〈家庭や地域に密着したこども園・幼稚園・学校をつくるために必要な行政サポート〉	

改訂後

▼第一3章 重点施策と事業
(平成28年度～32年度の5年間)

具体的取組	〈家庭や地域に密着したこども園・幼稚園・学校をつくるために必要な行政サポート〉	
	事業①【家庭・地域との連携の促進】 所管課 □学校教育課	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭や地域の意見等を学校経営に積極的に取り入れます。 <ul style="list-style-type: none"> 1. 学校評価の活用 2. 学校評議員制度の活用（定期開催、報告書の作成） 3. 学校ミニ集会の活用（開催日や討議テーマの周知） ● 要望等に対して適切に対処します。 <ul style="list-style-type: none"> 1. 法律アドバイザー（弁護士）による相談活動 	
	事業②【開かれた園・学校づくりの推進】 所管課 □学校教育課 □子育て支援課	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報を積極的に発信します。 <ul style="list-style-type: none"> 1. こども園・幼稚園、学校自己評価、及び関係者評価の実施と公表 2. こども園・幼稚園、小中学校ホームページの充実 3. 園だより、学級だよりの充実 4. 保育参観・園開放日の充実 	

【参考】山武市総合計画(後期計画)における成果指標の推移

指標名	H23 基準値	H24 実績値	H25 実績値	H26 実績値	H29 めざす値
校内研修に意欲的に取り組んでいる教職員の割合(%)	86.9	89.1	96.2	91.8	88.0
学校行事に参加している市民の割合(%)	37.2	32.7	32.1	32.1	40.0
学校ミニ集会などの学校との話し合いに参加した市民の割合(%)	10.9	9.6	9.5	9.5	20.0
学校と地域との話し合いによる方策・改善数(件)	21	17	17	16	19
体育館の非構造部材の耐震化率(%)	15.8	15.8	68.4	84.2	100.0
学校施設の不具合による学校生活支障件数(件)	0	0	0	0	0

＊【めざす値】は、後期基本計画の終了年度(平成29年度)までに達成を目指す値です。

改訂前

▼第一3章 重点施策と事業
(平成27年度～31年度の5年間)

事業①【家庭・地域との連携の促進】	所管課 □学校教育課	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭や地域の意見等を学校経営に積極的に取り入れます。 <ul style="list-style-type: none"> 1. 学校評価の活用 2. 学校評議員制度の活用（定期開催、報告書の作成） 3. 学校ミニ集会の活用（開催日や討議テーマの周知） ● 要望等に対して適切に対処します。 <ul style="list-style-type: none"> 1. 法律アドバイザー（弁護士）による相談活動 	
事業②【開かれた学校づくりの推進】	所管課 □学校教育課 □子育て支援課	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報を積極的に発信します。 <ul style="list-style-type: none"> 1. こども園・幼稚園、学校自己評価、及び関係者評価の実施と公表 2. こども園・幼稚園、小中学校ホームページの充実 	

【参考】山武市総合計画(後期計画)における成果指標の推移

指標名	H23 基準値	H24 実績値	H25 実績値	H29 めざす値
校内研修に意欲的に取り組んでいる教職員の割合(%)	86.9	89.1	96.2	88.0
学校行事に参加している市民の割合(%)	37.2	32.7	32.1	40.0
学校ミニ集会などの学校との話し合いに参加した市民の割合(%)	10.9	9.6	9.5	20.0
学校と地域との話し合いによる方策・改善数(件)	21	17	17	19
体育館の非構造部材の耐震化率(%)	15.8	15.8	68.4	100.0
学校施設の不具合による学校生活支障件数(件)	0	0	0	0

＊【めざす値】は、後期基本計画の終了年度(平成29年度)までに達成を目指す値です。

改訂後

▼第一3章 重点施策と事業
(平成28年度～32年度の5年間)

	<p>所管課</p> <ul style="list-style-type: none"> ■生涯学習課 ■公民館 ■歴史民俗資料館 ■文化会館 ■図書館 ■さんぶの森公園管理事務所 <p>● 安心して利用できる施設の整備を行います。(平成28年度予定)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 山武市歴史民俗資料館空調改修工事 2 成東文化会館エアコン部品交換修理 	
推進施策	(2) 市民に愛される図書館活動の推進	

市民の教養と文化の発展に寄与するため、各図書館の役割を明確にするとともに図書館毎の特色を生かした取り組みを行います。また、利用環境の整備や読書の普及のための活動等により図書館の充実に努めます。

具体的取組 〈地域社会を創る生涯学習活動を推進するために必要な行政サポート〉

所管課

事業①【図書館利用の促進】

● 図書館貸出冊数と来館者の増加を促進します。

- 1 予約・リクエストサービス、レファレンスサービスの充実
- 2 幼児期から大人まで読書に親しめる環境づくりに努めます。また、市民の東京オリンピック・パラリンピックに対する関心を高めるとともに、グローバルな人材の育成に努めます。
- 3 ブックスタートやお話し会の実施
- 4 講演会・講座等の開催
- 5 外国語によるお話会の実施

● 学校の図書環境の整備を支援します。

- 1 学校との連携による図書システムのフォローアップ
- 2 学校図書館運営相談の実施
- 3 こども園・幼稚園、学校への定期的な配本サービスの実施

【用語解説】

- ★ レファレンスサービス：レファレンスとは、必要な資料や情報を必要な人に、的確に案内すること。図書館では職員が調べもののお手伝いをします。
- ★ ブックスタート：赤ちゃんとその保護者が、絵本を介して心ふれあうひとときをもつきっかけをつくる活動。

改訂前

▼第一3章 重点施策と事業
(平成27年度～31年度の5年間)

	<p>所管課</p> <ul style="list-style-type: none"> ■生涯学習課 ■公民館 ■歴史民俗資料館 ■文化会館 ■図書館 ■さんぶの森公園管理事務所 <p>● 安心して利用できる施設の整備を行います。(平成27年度予定)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 (仮称)歴史民俗資料館松尾分室展示室改修工事 2 成東文化会館自動ドア装置交換工事 3 成東文化会館のざくプラザ空調機整備工事 	
推進施策	(2) 市民に愛される図書館活動の推進	

市民の教養と文化の発展に寄与するため、各図書館の役割を明確にするとともに図書館毎の特色を生かした取り組みを行います。また、利用環境の整備や読書の普及のための活動等により図書館の充実に努めます。

具体的取組 〈地域社会を創る生涯学習活動を推進するために必要な行政サポート〉

所管課

事業①【図書館利用の促進】

● 図書館貸出冊数と来館者の増加を促進します。

- 1 予約・リクエストサービス、レファレンスサービスの充実
- 2 幼児期から大人まで読書に親しめる環境づくりに努め、読書の普及に努めます。
- 3 ブックスタートやお話し会の実施
- 4 講演会・講座等の開催
- 5 外国語によるお話会の実施

● 学校の図書環境の整備を支援します。

- 1 学校との連携による図書システムのフォローアップ
- 2 学校図書館運営相談の実施
- 3 こども園・幼稚園、学校への定期的な配本サービスの実施

【用語解説】

- ★ レファレンスサービス：レファレンスとは、必要な資料や情報を必要な人に、的確に案内すること。図書館では職員が調べもののお手伝いをします。
- ★ ブックスタート：赤ちゃんとその保護者が、絵本を介して心ふれあうひとときをもつきっかけをつくる活動。

改訂後

▼第一3章 重点施策と事業
(平成28年度~32年度の5年間)

重点施策 6 家庭や地域など、社会全体で支え合う青少年健全育成の推進

(生涯学習分野)

1 目標

- かけがえのない未来を担う青少年が、将来に夢を持ち、その夢を自分の力で実現させ、また、将来、社会の一員として義務や責任を果たすことができる一人の人間として成長することを願って、家庭の教育機能の回復や、地域社会が有する様々な地域教育力の向上を図る他、社会全体で、青少年を支えていくといった視点に立った青少年の健全育成を推進します。

2 現況と課題

現況

- 出生数の減少、核家族化などにより規範意識や倫理観を学ぶ場としての家庭の役割の希薄化などを背景に、家庭や地域の教育力が低下しています。
- 小学生の体験学習に各種団体からの協力が行われています。
- 長引く経済不況下において、教育費も家計を圧迫する大きな要因であり、全国的には大学生の約51%が奨学金を受給しています。また各家庭では収入が伸びない分、奨学金返済の負担感も増しています。
- 日常生活において外国人と触れ合う機会が少ないので、外国語や外国人に対する苦手意識があります。

課題

- 放課後こども教室の実施にあたり、保護者や地域のニーズを把握し、児童が放課後等を安全・安心に過ごすことができる居場所づくりの整備が必要です。
- 家庭教育の充実のため、子育てに関する学習機会の提供など家庭教育学級の効果的な取り組みが必要です。
- 子育て相談など、家庭教育支援体制の整備が必要です。
- 経済的理由により修学が困難な者に対し、修学する上で必要な資金を貸し付けることにより、市民に対し教育の機会均等を保障する必要があります。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピックをチャンスととらえ、グローバル社会で活躍できる人づくりを一層進めていく必要があります。言語のみならず他の文化に触れる機会を創出することが必要です。

3 施策の方向と具体的な取り組み

■重点施策のあらまし

推進施策	(1)子どもの「生きる力」を育む、地域教育力の向上
	<p>異なる年齢・異世代の地域の人々との関わりの中で、子どもの自主性・創造性・社会性を涵養するとともに、「ふれる・みる」といった五感を養う体験など、子どもの「生きる力」を育む学習活動を推進するため、地域の人々の連携や環境を整えるなど、地域教育力の向上に努めます。</p> <p>また、社会の要請に応えられる人材を育成するため、学力と学ぶ意欲の向上に必要な支援の充実に努めます。</p>

改訂前

▼第一3章 重点施策と事業
(平成27年度~31年度の5年間)

重点施策 6 家庭や地域など、社会全体で支え合う青少年健全育成の推進

(生涯学習分野)

1 目標

- かけがえのない未来を担う青少年が、将来に夢を持ち、その夢を自分の力で実現させ、また、将来、社会の一員として義務や責任を果たすことができる一人の人間として成長することを願って、家庭の教育機能の回復や、地域社会が有する様々な地域教育力の向上を図る他、社会全体で、青少年を支えていくといった視点に立った青少年の健全育成を推進します。

2 現況と課題

現況

- 出生数の減少、核家族化などにより規範意識や倫理観を学ぶ場としての家庭の役割の希薄化などを背景に、家庭や地域の教育力が低下しています。
- 小学生の体験学習に各種団体からの協力が行われています。
- 長引く経済不況下において、教育費も家計を圧迫する大きな要因であり、全国的には大学生の約51%が奨学金を受給しています。また各家庭では収入が伸びない分、奨学金返済の負担感も増しています。
- 日常生活において外国人と触れ合う機会が少ないので、外国語や外国人に対する苦手意識があります。

課題

- 放課後こども教室の実施にあたり、保護者や地域のニーズを把握し、児童が放課後等を安全・安心に過ごすことができる居場所づくりの整備が必要です。
- 家庭教育の充実のため、子育てに関する学習機会の提供など家庭教育学級の効果的な取り組みが必要です。
- 子育て相談など、家庭教育支援体制の整備が必要です。
- 経済的理由により修学が困難な者に対し、修学する上で必要な資金を貸し付けることにより、市民に対し教育の機会均等を保障する必要があります。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピックをチャンスととらえ、グローバル教育を一層進めいく必要があります。言語のみならず他の文化に触れる機会を創出することが必要です。

3 施策の方向と具体的な取り組み

■重点施策のあらまし

推進施策	(1)子どもの「生きる力」を育む、地域教育力の向上
	<p>異なる年齢・異世代の地域の人々との関わりの中で、子どもの自主性・創造性・社会性を涵養するとともに、「ふれる・みる」といった五感を養う体験など、子どもの「生きる力」を育む学習活動を推進するため、地域の人々の連携や環境を整えるなど、地域教育力の向上に努めます。</p> <p>また、社会の要請に応えられる人材を育成するため、学力と学ぶ意欲の向上に必要な支援の充実に努めます。</p>

改訂後

▼第一3章 重点施策と事業
(平成28年度～32年度の5年間)

具体的取組		〈地域教育力の向上に必要な行政サポート〉	
		所管課	生涯学習課
	事業①【地域教育力の向上】	● 地域の人々の協力を得た青少年健全育成事業を推進します。	
		① 学校支援地域本部の設置	
		② 学校教育との連携・協働による地域コミュニティの形成	
	【用語解説】		
	◆ 学校支援地域本部：地域の教育力の低下や、学校教育における教員の勤務負担の増加に対応していくため、校長や教職員、PTA等の関係者を中心とする「学校支援地域本部」を中学校区ごとまたは学校ごとに設置し、その下で、地域住民が学校支援ボランティアとして部活動の指導や学習支援活動、登下校の安全確保など、学校教育活動の支援を行う。そのことによって、学校教育活動の充実や地域住民同士の絆の育成につながることが期待されています。		
	● 地域教育力の向上を担う各種団体の活動を支援し、青少年の健全育成を推進します。		
	事業②【「生きる力」を育む青少年活動の支援】	所管課	生涯学習課
		● 青少年の「生きる力」を育む体験学習等の支援と拡充に努めます。	
		① 放課後子ども教室の拡充と支援	
		② 青少年関係団体や社会教育施設等での体験学習の実施	
	事業③【教育の機会均等の支援】	所管課	教育総務課
	● 教育の機会均等を図るために、大学生への経済的支援を推進します。		
		① 奨学資金貸付事業の実施	

改訂前

▼第一3章 重点施策と事業
(平成27年度～31年度の5年間)

具体的取組		〈地域教育力の向上に必要な行政サポート〉	
		所管課	生涯学習課
	事業①【地域教育力の向上】	● 地域の人々の協力を得た青少年健全育成事業を推進します。	
		① 学校支援地域本部の設置	
		② 学校教育との連携・協働による地域コミュニティの形成	
	【用語解説】		
	◆ 学校支援地域本部：地域の教育力の低下や、学校教育における教員の勤務負担の増加に対応していくため、校長や教職員、PTA等の関係者を中心とする「学校支援地域本部」を中学校区ごとまたは学校ごとに設置し、その下で、地域住民が学校支援ボランティアとして部活動の指導や学習支援活動、登下校の安全確保など、学校教育活動の支援を行う。そのことによって、学校教育活動の充実や地域住民同士の絆の育成につながることが期待されています。		
	● 地域教育力の向上を担う各種団体の活動を支援し、青少年の健全育成を推進します。		
	事業②【「生きる力」を育む青少年活動の支援】	所管課	生涯学習課
		● 青少年の「生きる力」を育む体験学習等の支援と拡充に努めます。	
		① 放課後子ども教室の拡充と支援	
		② 遊びのステーションの支援	
		③ 青少年関係団体や社会教育施設等での体験学習の実施	
	事業③【教育の機会均等の支援】	所管課	教育総務課
	● 教育の機会均等を図るために、大学生への経済的支援を推進します。		
		① 奨学資金貸付事業の実施	

推進施策		(2)国際感覚を身につけた人材の育成を図るために必要な行政サポート	
		国際化が進展する中、青少年が国際感覚を身につけることが大切であり、ホームステイ等を通じて、外国語の習得や海外の自然風土・歴史・文化に触れるなど、国際理解を深め、新しい時代に対応できる国際感覚を身につけた人材を育成します。	
	具体的取組	事業①【少年の国際理解教育の推進】	所管課
		● 少年の海外派遣の実施と内容の充実を図ります。	生涯学習課
		① 少年海外派遣事業の充実〔ニュージーランド〕	
		② 海外研修生受入事業の充実〔ニュージーランド〕	
		③ 青少年派遣事業〔オリ・パラ〕の実施〔スリランカ〕	
		④ スリランカ青少年招へい事業〔オリ・パラ〕の実施	

推進施策		(2)国際感覚を身につけた人材の育成を図るために必要な行政サポート	
		国際化が進展する中、青少年が国際感覚を身につけることが大切であり、ホームステイ等を通じて、外国語の習得や海外の自然風土・歴史・文化に触れるなど、国際理解を深め、新しい時代に対応できる国際感覚を身につけた人材を育成します。	
	具体的取組	事業①【少年の国際理解教育の推進】	所管課
		● 少年の海外派遣の実施と内容の充実を図ります。	生涯学習課
		① 少年海外派遣事業の充実	
		② 海外研修生受入事業の充実	
		③ 青少年派遣事業〔オリ・パラ〕の実施	
		④ スリランカ青少年招へい事業〔オリ・パラ〕の実施	

重点施策7 誰もが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる生涯スポーツ社会の実現

(スポーツ振興分野)

1 目標

- ▶ 地域コミュニティの再生や心身の健康づくり、仲間づくり、生きがいづくりなど、市民の「誰もが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる生涯スポーツ社会の実現」のため、山武市スポーツ振興計画に基づき各施策を推進し、生涯スポーツ活動を実現できる環境づくりに努めます。

2 現況と課題

現況

- 近年、地域の連携が低迷している状況もあり地域活性化を図るために、支部(小学校区)体育振興事業の取り組みを強化することが必要となっています。
- 60歳以上の高年齢の健康意識の高まりにより、継続的にスポーツを行う市民の割合が増加しています。しかし、子育て世代での継続的な運動への参加が少なく、生活スタイルに考慮した軽スポーツの普及や生涯スポーツのあり方などの検討が必要となっています。
- スポーツ推進委員の人材不足や高齢化が懸念されるなか、市民への運動・スポーツの普及促進への対応が必要となっています。
- スポーツ施設の老朽化への対応が必要となっています。
- 近年、本市においてスポーツ活動分野での、市民(小・中学生、一般)の活躍が目覚ましい状況にあり、関東大会や全国大会に多くの方が出場しています。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が決定し、市を挙げて大会の成功に向けて最大限の協力を実施する為、山武市東京オリンピック・パラリンピック戦略推進基本計画に基づき、練習が出来うるスポーツ施設への改修や整備等を計画します。

課題

- 毎年開催している「さんむロードレース大会」においては、年々小中学生の参加は増加傾向にありますが、一般市民の参加が少ないことから引き続き、スポーツへの关心や参加機会の向上に努める必要があります。
- 体育協会の各専門部の持続性を高めるため、専門部間との交流や連携を図りスポーツリーダーの育成を図る必要があります。
- スポーツ活動の振興と活性化を図るため、スポーツ活動分野に精励している方の功績に対し顕彰していく必要があります。
- 山武市東京オリンピック・パラリンピック戦略推進基本計画に基づく、各事業の推進及び財源の確保が必要です。

3 施策の方向と具体的な取り組み

■ 重点施策のあらまし

推進施策	(1) 多様な参加ができる「まるごとスポーツの充実」
具体的取組	すべての市民が、年齢や生活スタイルに応じて健康維持・増進が図れるよう、スポーツ・レクリエーションに親しみやすい環境を提供します。 〈スポーツの振興に必要な行政サポート〉
所管課	スポーツ振興課 教育総務課 学校教育課

事業① [健康体力づくり活動の充実]

重点施策7 誰もが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる生涯スポーツ社会の実現

(スポーツ振興分野)

1 目標

- ▶ 地域コミュニティの再生や心身の健康づくり、仲間づくり、生きがいづくりなど、市民の「誰もが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる生涯スポーツ社会の実現」のため、山武市スポーツ振興計画に基づき各施策を推進し、生涯スポーツ活動を実現できる環境づくりに努めます。

2 現況と課題

現況

- 近年、地域の連携が低迷している状況もあり地域活性化を図るために、支部(小学校区)体育振興事業の取り組みを強化することが必要となっています。
- 60歳以上の高年齢の健康意識の高まりにより、継続的にスポーツを行う市民の割合が増加しています。しかし、子育て世代での継続的な運動への参加が少なく、生活スタイルに考慮した軽スポーツの普及や生涯スポーツのあり方などの検討が必要となっています。
- スポーツ推進委員の人材不足や高齢化が懸念されるなか、市民への運動・スポーツの普及促進への対応が必要となっています。
- スポーツ施設の老朽化への対応が必要となっています。
- 近年、本市においてスポーツ活動分野での、市民(小・中学生、一般)の活躍が目覚ましい状況にあり、関東大会や全国大会に多くの方が出場しています。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が決定し、市を挙げて大会の成功に向けて最大限の協力を実施する為、山武市東京オリンピック・パラリンピック戦略推進基本計画に基づき、練習が出来うるスポーツ施設への改修や整備等を計画します。

課題

- 毎年開催している「さんむロードレース大会」においては、年々小中学生の参加は増加傾向にありますが、一般市民の参加が少ないことから引き続き、スポーツへの关心や参加機会の向上に努める必要があります。
- 体育協会の各専門部の持続性を高めるため、専門部間との交流や連携を図りスポーツリーダーの育成を図る必要があります。
- スポーツ施設利用の利便性を高めるため、公共予約システムに対応したマルチペイント収納の検討が必要です。
- 災害時における安全な避難場所(社会体育施設)としての機能を保持するため、老朽化した施設の改修が必要です。
- スポーツ活動の振興と活性化を図るため、スポーツ活動分野に精励している方の功績に対し顕彰していく必要があります。
- 山武市東京オリンピック・パラリンピック戦略推進基本計画に基づく、各事業の推進及び財源の確保が必要です。

3 施策の方向と具体的な取り組み

■ 重点施策のあらまし

推進施策	(1) 多様な参加ができる「まるごとスポーツの充実」
具体的取組	すべての市民が、年齢や生活スタイルに応じて健康維持・増進が図れるよう、スポーツ・レクリエーションに親しみやすい環境を提供します。

改訂後

▼第一3章 重点施策と事業
(平成28年度~32年度の5年間)

オリ・パラ推進
事業の実施に
伴い追記

- スポーツ関係団体との連携を図りながら、すべての市民が年齢や生活スタイルに応じて自発的に健康体力づくりに取り組めるよう、各種スポーツ大会や講習会を実施します。また、東京オリンピック・パラリンピックを契機に各種イベントを実施し、オリンピックへの機運を高め、スポーツへの关心・意識の向上を図ります。
 - ① 地域を単位としたスポーツ大会の支援
 - ② 市民のスポーツ大会・イベントの開催
 - ③ スポーツによる健康づくりの推進
 - ④ 出前スポーツ講座の実施
 - ⑤ トップアスリートスポーツ教室等、オリ・パラ推進事業の実施

推進施策

(2) 生涯スポーツ推進事業の充実

生涯スポーツ推進のため、各種スポーツ団体、指導者の育成に努めます。

具体的取組

〈スポーツの振興に必要な行政サポート〉

所管課

スポーツ振興課

事業①【スポーツ関係団体の育成及び支援】

- 各種スポーツ団体の育成・支援を行います。
 - ① 市体育協会の充実と支援
 - ② 少年スポーツクラブの育成と支援
 - ③ スポーツ推進委員研修の充実
 - ④ スポーツリーダーの確保と育成
 - ⑤ 総合型地域スポーツクラブの設立に向けた支援

【用語解説】

- スポーツリーダー：スポーツ指導者、スポーツの実技などを指導する人
- 総合型地域スポーツクラブ：種目・世代や年齢・技術レベルの多様性を持ち、日常的に活動の拠点となる施設を中心に、会員である地域住民個々人のニーズに応じた活動が、質の高い指導のもとに行えるスポーツクラブ

所管課

スポーツ振興課

事業②【スポーツ活動への支援】

所管課

教育総務課

- スポーツ活動の振興と活性化を図るために、スポーツ活動に精励した方を顕彰します。
 - ① 芸術文化スポーツ活動報奨金交付事業の実施
 - ② 制度周知の充実
 - ③ 関係部署との連携による対象者の把握の徹底

推進施策

(3) 気軽に利用できる「場所」の充実

多様化するスポーツニーズに応えるため、公共スポーツ施設の利便性の向上を図るとともに、効率的な管理運営を促進します。

具体的取組

〈スポーツの振興に必要な行政サポート〉

所管課

スポーツ振興課

事業①【公共スポーツ施設の有効活用の促進】

改訂前

▼第一3章 重点施策と事業
(平成27年度~31年度の5年間)

具体的取組

〈スポーツの振興に必要な行政サポート〉

所管課

スポーツ振興課

事業①【健康体力づくり活動の充実】

- スポーツ関係団体との連携を図りながら、すべての市民が年齢や生活スタイルに応じて自発的に健康体力づくりに取り組めるよう、各種スポーツ大会や講習会を実施します。

① 地域を単位としたスポーツ大会の支援

② 市民のスポーツ大会・イベントの開催

③ スポーツによる健康づくりの推進

④ 出前スポーツ講座の実施

⑤ トップアスリートスポーツ教室の開催

推進施策

(2) 生涯スポーツ推進事業の充実

生涯スポーツ推進のため、各種スポーツ団体、指導者の育成に努めます。

具体的取組

〈スポーツの振興に必要な行政サポート〉

所管課

スポーツ振興課

事業①【スポーツ関係団体の育成及び支援】

- 各種スポーツ団体の育成・支援を行います。
 - ① 市体育協会の充実と支援
 - ② 少年スポーツクラブの育成と支援
 - ③ スポーツ推進委員研修の充実
 - ④ スポーツリーダーの確保と育成
 - ⑤ 総合型地域スポーツクラブの設立に向けた支援

【用語解説】

- スポーツリーダー：スポーツ指導者、スポーツの実技などを指導する人
- 総合型地域スポーツクラブ：種目・世代や年齢・技術レベルの多様性を持ち、日常的に活動の拠点となる施設を中心に、会員である地域住民個々人のニーズに応じた活動が、質の高い指導のもとに行えるスポーツクラブ

事業②【スポーツ活動への支援】

所管課

教育総務課

事業②【スポーツ活動への支援】

所管課

教育総務課

- スポーツ活動の振興と活性化を図るために、スポーツ活動に精励した方を顕彰します。

① 芸術文化スポーツ活動報奨金交付事業の実施

② 制度周知の充実

③ 関係部署との連携による対象者の把握の徹底

推進施策

(3) 気軽に利用できる「場所」の充実

多様化するスポーツニーズに応えるため、公共スポーツ施設の利便性の向上を図るとともに、効率的な管理運営を促進します。

具体的取組

〈スポーツの振興に必要な行政サポート〉

所管課

スポーツ振興課

事業①【公共スポーツ施設の有効活用の促進】

- 学校体育施設や公共施設の有効活用を図ります。
 - ① 学校体育施設開放事業の実施
 - ② 施設利用受付の窓口サービスの実施（公共予約システムの有効活用）

重点施策8 教育行政の効率化と効果的な運営 (教育行政分野)

1 目標

- ▶ 様々な教育課題に対して、市長と教育委員会とが連携を強化し、総合教育会議で協議・調整を図ることで教育委員会の審議が活性化され、適時意思決定できるよう、事務の円滑な運営に努めます。また、教育大綱と教育振興基本計画に基づき、計画的推進と進行管理を行い、教育行政の効率化と効果的な運営に努めます。

より積極的な情報発信に努め、開かれた教育行政を一層推進します。

2 現況と課題

現況

- 本市における小中学校の児童生徒数・学級数は年々減少しており、多くの小中学校で「学校の小規模化」が進み、教育活動や学校運営等、様々な面に影響を及ぼすことが懸念されています。教育委員会では、児童生徒にとってより良い教育環境の充実を図るため、平成26年3月に山武市学校のあり方検討委員会から、将来を展望したあり方にについて答申を受け、平成27年2月に「山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本方針【素案】」を策定しました。その後、方針内容について市民や保護者を対象に意見を聴く会等を開催し、意見交換を行ないました。その意見結果を踏まえ、平成27年11月に基本方針を成案とし、平成28年2月に「山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画」(案)を策定しました。今後は、基本計画(前期計画)に基づき対象学校ごとに実施計画を策定し、開校に向けて準備を進めていきます。
- 本市は教育・保育を一体的に行う、こども園化を先駆的に推進し、平成25年度までに成東地区、松尾地区に計5園の公立こども園を開園しました。現在、こども園以外の幼稚園・保育園は、山武地区に公立幼稚園が2園と私立保育園が2園、蓮沼地区に私立保育園1園があります。また、平成25年度から、行政の効率的・効果的な運営のため、市長部局(保健福祉部)に「幼保こども園室」を設置し、窓口の一本化を図りました。今後、平成27年4月にスタートした子ども・子育て支援新制度のもと、地域の子育て支援の拡充や質の向上のために、子ども・子育て会議の知見も得て、こども園整備を推進していきます。

- 核家族化・高齢化や地域のつながりの希薄化、規範意識の低下など、教育環境を取り巻く環境は大きく変化しています。

- 平成27年4月から、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴い、同年7月1日に「山武市総合教育会議」を設置し、同年9月に市長が定める「山武市教育大綱」を策定しました。今後は、大綱に掲げる各施策の目標達成に向け、市長と教育委員会が連携強化を図り、効率的・効果的に教育施策を推進していきます。

- 平成19年度の事務事業から、教育委員会の点検・評価を行い議会に報告するとともに市民に公表しているほか、会議の透明化を図るために教育委員会会議の会議録についても公表しています。

課題

- 基本計画に基づき学校の規模適正化・適正配置を進めていくにあたっては、保護者や地域住民の合意形成を図るとともに十分な協議・調整が必要となります。
- こども園化を進める中で、市内各地域のこども園・幼稚園の再編を引き続き検討するほか、残された課題(こども園の自園給食における給食費の賦課徴収事務など)を調整する必要があります。また、小中学校の規模適正化・適正配置基本計画に伴うこども園の移転・整備につ

重点施策8 教育行政の効率化と効果的な運営 (教育行政分野)

1 目標

- ▶ 様々な教育課題に対して、市長と教育委員会とが連携を強化し、総合教育会議で協議・調整を図ることで教育委員会の審議が活性化され、適時意思決定できるよう、事務の円滑な運営に努めます。また、市長が定める「大綱」と教育振興基本計画との整合を図りながら計画的推進と進行管理を行い、教育行政の効率化と効果的な運営に努めます。

より積極的な情報発信に努め、開かれた教育行政を一層推進します。

2 現況と課題

現況

- 本市の小中学校の児童生徒数は、全国的な少子化の傾向と同様に年々減少傾向にあります。また、学級数においても児童生徒数の減少に伴い年々減少し、「学校の小規模化」が進んでおり、教育活動や学校運営等、様々な面に影響を及ぼすことが懸念されています。児童生徒にとって、より良い教育環境の充実を図るため、平成26年3月に「山武市学校のあり方検討委員会」から、将来を展望したあり方にについて答申を受け、教育委員会で「山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本方針」を策定しました。今後は、年次計画等を盛り込んだ(仮称)「適正配置計画」を策定していきます。

- 本市は、こども園化について先駆的に取り組んでおり、既存の2園に続き、平成24年度には「おおひらこども園」が開園し、平成25年度には「なるとうこども園」「しらはたこども園」が開園しました。また、幼保一体化に伴う効果的な組織運営、市民サービスに必要な取り組みとして、平成24年度に(仮称)こども課の設置を検討し、平成25年度から市長部局(保健福祉部)に「幼保こども園室」が設置され、窓口の一本化が図られています。

- 核家族化・高齢化や地域のつながりの希薄化、規範意識の低下など、教育環境を取り巻く環境は大きく変化しています。

- 平成27年4月から、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴い、すべての地方公共団体に「総合教育会議」が設置されることにより、教育に関する重要な権限を有している市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、教育の諸課題や教育の目指すべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることとしています。

- 平成19年度の事務事業から、教育委員会の点検・評価を行い議会に報告するとともに市民に公表しているほか、会議の透明化を図るために教育委員会会議の会議録についても公表しています。

課題

- 学校の規模適正化・適正配置を進めていくにあたっては、関係部局や関係団体との調整、また、保護者や地域住民と十分な協議を行い、合意形成を図る必要があります。

- こども園化を進める中で、市内各地域のこども園・幼稚園の再編を引き続き検討する必要があります。また、残された課題(こども園の自園給食における給食費の賦課徴収事務など)を調整する必要があります。

- 教育行政における責任体制や地方公共団体としての教育施策に関する方向性など、様々な教育課題・市民ニーズに対し、隨時、適切な意思決定が求められています。また、効率的・効果的な教育行政が運営されているか、点検・評価を実施し市民に対し説明責任を果たすとともに、教育に関する「大綱」と教育振興基本計画との整合を図り、計画的推進と進行管理を行い、改善につなげていくことが必要です。

- 教育行政に対する理解と信頼を深めるため、様々な情報媒体を活用し積極的な情報提供に努め、開かれた教育行政を推進することが必要となります。

いて、保護者や地域住民の合意形成を図るとともに関係部局との協議・調整が必要となります。

- 教育行政における責任体制や地方公共団体としての教育施策に関する方向性など、様々な教育課題・市民ニーズに対し、随時、適切な意思決定が求められています。また、効率的・効果的な教育行政が運営されているか、点検・評価を実施し市民に対し説明責任を果たすとともに、教育に関する大綱を踏まえた教育振興基本計画に掲げる各施策の実施について、計画的な推進と進行管理を行い、改善につなげていくことが必要です。
- 教育行政に対する理解と信頼を深めるため、様々な情報媒体を活用し積極的な情報提供に努め、開かれた教育行政を推進することが必要となります。

3 施策の方向と具体的な取り組み

■重点施策のあらまし	
推進施策	<p>(1) 効率的な組織運営</p> <p>少子化の進行やこども園開設等の環境変化に適応するため、小中学校の規模適正化・適正配置やこども園化の整備も含め関係課と連携のもとに取り組んでいきます。</p> <p>また、基本計画（前期計画）における学校規模適正化・適正配置の推進にあたっては、対象となる学校（組み合わせ）ごとに実施計画を策定し、保護者、学校関係者、地域住民と共に視点を持ち、理解を得ながら進めています。</p>
具体的取組	<p>〈効率的な組織運営に必要な取組み〉</p> <p>事業①【学校の統廃合】 所管課：教育総務課</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 適正な教育環境を維持するため、統廃合や学区再編について議論を進めます。 <ul style="list-style-type: none"> （仮称）適正配置計画の策定 （仮称）適正配置計画に関する意見を聞く会の実施 （仮称）対象学校区実施計画（案）の策定 <p>事業②【幼保一体化の推進】 所管課：教育総務課、子育て支援課</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 幼保一体化に向けた取り組みを推進します。 <ul style="list-style-type: none"> 山武・蓮沼・松尾地域の幼稚園・保育園の再編に向けたこども園化の検討 幼保こども園室設置後の諸案件の調整・協議 <p>事業③【こども園整備の推進】 所管課：教育総務課、子育て支援課</p> <ul style="list-style-type: none"> ● こども園整備に向けて協議を推進します。 <ul style="list-style-type: none"> 山武・蓮沼・松尾地域の幼稚園・保育園の再編に向けたこども園化の検討 幼保こども園室設置後の諸案件の調整・協議 子ども・子育て会議の推進 保育施設の老朽化対策 <p>(2) 効率的で開かれた教育行政の推進</p> <p>市教育行政の具体的な施策の実現・向上を図るため、総合教育会議において市長と教育委員会との協議・調整により、方向性を共有し、また、定期的に開催される教育委員会会議で十分な審議を行うほか、教育委員会の権限に属する事務の点検・評価を実施します。</p> <p>市民のみなさんに教育行政に対する理解と信頼を一層深めていただくため、様々な情報媒体を活用し、積極的な情報提供に努めます。また、市民と協働し、山武市にふさわしい教育行政を推進します。</p>
推進施策	<p>(2) 効率的で開かれた教育行政の推進</p> <p>市教育行政の具体的な施策の実現・向上を図るため、総合教育会議において市長と教育委員会との協議・調整により、方向性を共有し、また、定期的に開催される教育委員会会議で十分な審議を行うほか、教育委員会の権限に属する事務の点検・評価を実施します。</p> <p>市民のみなさんに教育行政に対する理解と信頼を一層深めていただくため、様々な情報媒体を活用し、積極的な情報提供に努めます。また、市民と協働し、山武市にふさわしい教育行政を推進します。</p>

3 施策の方向と具体的な取り組み

■重点施策のあらまし	
推進施策	<p>(1) 効率的な組織運営</p> <p>少子化の進行やこども園開設等の環境変化に適応するため、小中学校の規模適正化・適正配置やこども園化の整備も含め関係課と連携のもとに取り組んでいきます。</p> <p>また、基本方針における学校規模適正化・適正配置の推進にあたっては、その取り組み期間や実施時期など、新市建設計画や財政計画と整合を図るとともに、保護者・地域住民の合意を得ながら段階的・効果的に進めていきます。</p>
具体的取組	<p>〈効率的な組織運営に必要な取組み〉</p> <p>事業①【学校の統廃合】 所管課：教育総務課</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 適正な教育環境を維持するため、統廃合や学区再編について議論を進めます。 <ul style="list-style-type: none"> （仮称）適正配置計画の策定 （仮称）適正配置計画に関する意見を聞く会の実施 （仮称）対象学校区実施計画（案）の策定 <p>事業②【幼保一体化の推進】 所管課：教育総務課、子育て支援課</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 幼保一体化に向けた取り組みを推進します。 <ul style="list-style-type: none"> 山武・蓮沼・松尾地域の幼稚園・保育園の再編に向けたこども園化の検討 幼保こども園室設置後の諸案件の調整・協議 <p>事業③【こども園整備の推進】 所管課：教育総務課、子育て支援課</p> <ul style="list-style-type: none"> ● こども園整備に向けて協議を推進します。 <ul style="list-style-type: none"> 山武・蓮沼・松尾地域の幼稚園・保育園の再編に向けたこども園化の検討 幼保こども園室設置後の諸案件の調整・協議 子ども・子育て会議の推進 保育施設の老朽化対策 <p>(2) 効率的で開かれた教育行政の推進</p> <p>市教育行政の具体的な施策の実現・向上を図るため、総合教育会議において市長と教育委員会との協議・調整により、方向性を共有し、また、定期的に開催される教育委員会会議で十分な審議を行うほか、教育委員会の権限に属する事務の点検・評価を実施します。</p> <p>市民のみなさんに教育行政に対する理解と信頼を一層深めていただくため、様々な情報媒体を活用し、積極的な情報提供に努めます。また、市民と協働し、山武市にふさわしい教育行政を推進します。</p>
推進施策	<p>(2) 効率的で開かれた教育行政の推進</p> <p>市教育行政の具体的な施策の実現・向上を図るため、総合教育会議において市長と教育委員会との協議・調整により、方向性を共有し、また、定期的に開催される教育委員会会議で十分な審議を行うほか、教育委員会の権限に属する事務の点検・評価を実施します。</p> <p>市民のみなさんに教育行政に対する理解と信頼を一層深めていただくため、様々な情報媒体を活用し、積極的な情報提供に努めます。また、市民と協働し、山武市にふさわしい教育行政を推進します。</p>

各施設の改修工事・備品整備計画(平成28年3月現在)

施設	年度 平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
成東小学校	● 設計 トイレ改修工事 ● 設計 空調設備設置工事	● 備品 校務用パソコン購入 ● 監理 工事 トイレ改修工事 ● 監理 工事 空調設備設置工事			
大富小学校	● 設計 空調設備設置工事	● 備品 校務用パソコン購入 ● 監理 工事 空調設備設置工事 ● 設計 トイレ改修工事	● 監理 工事 トイレ改修工事		
南郷小学校	● 監理 工事 空調設備設置工事	● 備品 校務用パソコン購入	● 設計 トイレ改修工事	● 監理 工事 トイレ改修工事	
縁海小学校	● 監理 工事 空調設備設置工事 ● 設計 トイレ改修工事	● 備品 校務用パソコン購入 ● 監理 工事 トイレ改修工事			
鳴浜小学校	● 設計 空調設備設置工事	● 備品 校務用パソコン購入 ● 監理 工事 空調設備設置工事 ● 設計 トイレ改修工事	● 監理 工事 トイレ改修工事		
日向小学校	● 監理 工事 空調設備設置工事	● 備品 校務用パソコン購入			
睦岡小学校	● 監理 工事 空調設備設置工事	● 備品 校務用パソコン購入	● 設計 トイレ改修工事	● 監理 工事 トイレ改修工事	
山武北小学校		● 備品 校務用パソコン購入		● 設計 トイレ改修工事	● 監理 工事 トイレ改修工事
山武西小学校	● 監理 工事 空調設備設置工事	● 備品 校務用パソコン購入			
蓮沼小学校		● 備品 校務用パソコン購入			
豊岡小学校		● 備品 校務用パソコン購入			
大平小学校		● 備品 校務用パソコン購入			
松尾小学校		● 備品 校務用パソコン購入 ● 基本設計 校舎改築工事	● 実施設計 新校舎改築工事	● 監理 工事 旧校舎解体工事	● 監理 工事 新校舎改築工事 (1年目)
成東中学校	● 監理 工事 空調設備設置工事 ● 設計 トイレ改修工事	● 備品 校務用パソコン購入 ● 監理 工事 トイレ改修工事			
成東東中学校	● 監理 工事 空調設備設置工事				
山武中学校	● 設計 空調設備設置工事	● 備品 校務用パソコン購入 ● 監理 工事 空調設備設置工事 ● 設計 トイレ改修工事設計	● 監理 工事 トイレ改修工事		
山武南中学校	● 設計 空調設備設置工事	● 備品 校務用パソコン購入 ● 監理 工事 空調設備設置工事		● 設計 統合(日向・山武西) 小学校用仕様変更改修工事	● 監理 工事 統合(日向・山武西) 小学校用仕様変更改修工事
蓮沼中学校					
松尾中学校		● 備品 校務用パソコン購入		● 設計 トイレ改修工事	● 監理 工事 トイレ改修工事

▼一第3章 重点施策と事業【附属資料】
施設の改修工事・備品等整備計画

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
幼稚園	● 備品 保育用備品等購入	● 備品 保育用備品等購入	● 備品 保育用備品等購入	● 備品 保育用備品等購入	● 備品 保育用備品等購入
こども園	● 備品 保育用備品等購入	● 備品 保育用備品等購入	● 備品 保育用備品等購入	● 備品 保育用備品等購入	● 備品 保育用備品等購入
成東学校給食センター	● 備品 給食備品等購入	● 備品 給食備品等購入	● 備品 給食備品等購入	● 備品 給食備品等購入	● 備品 給食備品等購入
山武学校給食センター	● 備品 給食備品等購入	● 備品 給食備品等購入	● 備品 給食備品等購入	● 備品 給食備品等購入	● 備品 給食備品等購入
歴史民俗資料館	● 工事 空調設置工事	● 工事 左千夫生家茅葺屋根修復	● 工事 茶室「唯真閣」銅板屋根修復 ● 歴史資料収蔵施設の整備(教育関係閉館施設の利用)		
成東文化会館のぎくプラザ	● 備品 文化会館用備品等購入	● 工事 空調設備改修工事			
成東中央公民館		● 設計 監理 工事 空調設備設置工事 ● 設計 防水改修工事	● 監理 工事 防水改修工事 ● 設計 照明(LED)器具工事	● 監理 工事 照明(LED)器具工事	
松尾公民館					
松尾ふれあい館					
成東総合運動公園	● 設計 監理 工事 散策路改修工事 ● 設計 陸上競技場改修工事	● 監理 工事 陸上競技場改修工事	● 備品 陸上競技場備品等購入 ● 設計 監理 工事 陸上競技場倉庫建設工事		
白幡体育館					
さんぶの森中央体育館					
さんぶの森武道館					
さんぶの森野球場					
さんぶの森多目的広場					
さんぶの森ふれあい公園 多目的広場					
さんぶの森ふれあい公園 テニスコート					
日向の森野球場					
さんぶの森公園					
さんぶの森ふれあいセンター					
蓮沼スポーツプラザ					
蓮沼野球場					
松尾運動公園					